本体ソフトウェアのアップデートについて

本体ソフトウェアは、機能向上のため、アップデートされる可能性があります。アップデートの情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://www.sony.jp/support/audio/

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/support/faq.html

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.jp/support/**

使い方相談窓口

フリーダイヤル················0120-333-020
携帯電話·PHS·一部のIP電話··· 0466-31-2511

修理相談窓口

フリーダイヤル················0120-222-330
携帯電話·PHS·一部のIP電話··· 0466-31-2531

※取扱説明書·リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「306」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

Printed in Malaysia

428797302(2)

SONY®

4-287-973-**02**(2)

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。



TA-DA5700ES

この取扱説明書について

この取扱説明書では、主に付属のリモコンのボタンを使った操作のしかたを説明しています。リモコンと同じ名前の本体のボタンは、同じ働きをします。

付属の電源コードについて

付属の電源コードは本機専用です。他の電気機器では使用できません。



このマークは「高温注意（Hot Surface)」を意味します。
動作中に、この面をさわると熱く感じることがあります。

商標について

本機はドルビー*デジタルデコーダー（EX）およびドルビープロロジック（II、IIx、IIz）Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDデコーダー、MPEG-2 AAC（LC）デコーダー、DTS**（DTS-ESおよびDTS 96/24）デコーダー、DTS-HDデコーダー、DTS Neo:Xデコーダーを搭載しています。

＊　ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic、Surround EX、AACロゴ及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

＊＊米国特許番号 5,956,674、5,974,380、5,978,762、6,487,535、6,226,616、7,212,872、7,003,467、7,272,567、7,668,723、7,392,195、7,333,929、7,548,853、その他米国および米国外で特許申請中の実施権に基づき製造されています。DTS-HD、シンボル、および DTS-HD とシンボルの組み合わせは登録商標です。また DTS-HD Master Audio は DTS 社の商標です。製品にはソフトウェアが含まれています。©DTS, Inc. All Rights Reserved.

マルチチャンネルインテグレートアンプは、High-Definition Multimedia Interface（HDMI™）技術を搭載しています。

HDMI、HDMI ロゴ、及びHigh-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing LLC の商標または、登録商標です。

本製品に搭載されているフォントの書体「新ゴR」は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。

iPod、iPod classic、iPod nano、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。

「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれiPod、iPhone専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。本製品をiPod、又は、iPhoneと共に使用すると、ワイヤレス機能に影響を及ぼす可能性があります。

DLNA、DLNA CERTIFIEDは、Digital Living Network Allianceの商標です。

Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows Mediaは、米国 Microsoft Corporationの米国及びその他の国における登録商標または商標です。
本製品にはMicrosoftの知的財産権の対象である技術が含まれています。Microsoftから使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。
コンテンツ所有者は、Microsoft PlayReady™のコンテンツアクセス技術を利用して、著作権保護コンテンツ等の知的財産を保護しています。本機はPlayReadyで保護されたコンテンツおよび／またはWMDRM で保護されたコンテンツへのアクセスにPlayReady技術を利用しています。本機がコンテンツの利用を正しく制限しない場合、コンテンツ所有者は、PlayReadyで保護されたコンテンツを利用する機器の能力を取り消すようMicrosoftに要求することができます。この取り消しにより、著作権保護されていないコンテンツまたは他のコンテンツアクセス技術で保護されたコンテンツに影響が及ぶことはありません。コンテンツ所有者は、自らのコンテンツへのアクセスに際し、PlayReadyのアップグレードを要求する場合があります。アップグレードを拒否した場合は、アップグレードが要求されるコンテンツにアクセスできないようになります。

MPEG Layer-3オーディオコーディング技術とその特許は、Fraunhofer IISおよびThomsonから許諾されています。

“ブラビアリンク”および“BRAVIA Link”ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“x.v.Color”および“x.v.Color”ロゴ は、ソニー株式会社の商標です。

“プレイステーション®”は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“AVCHD”はパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN”ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

“Android”はGoogle Inc.の登録商標または商標です。

本機の特長

多彩な接続、フォーマットに対応

特長	説明	ページ
マルチチャンネル	最大9.1チャンネルまでの出力に対応。 フロントハイチャンネル用スピーカー端子を装備。 （スピーカー同時出力は7チャンネルまで）	19、21
さまざまな規格に対応	Dolby TrueHD／DTS-HD Master Audio／DSD／マルチチャンネルリニアPCM／FLACなどの各種フォーマットに対応。	18
HDMI	HDMI入力を前面に1系統、後面に5系統（うちIN 3およびIN 4の2系統は高音質のfor Audio 端子）、HDMI出力2系統を装備。多彩な機器の接続が可能です。	23、25、27、29、32
	Deep Color、x.v.Color、3D伝送、オーディオリターンチャンネル（ARC）など、さまざまなHDMI規格に対応。	33、69
	HDMI機器制御機能で、本機とつないだ機器と連動が可能。	65
ネットワーク	スイッチングハブ機能付きLAN端子を4ポート搭載。	40
	インターネットビデオのストリーミング再生に対応。	50
	DLNAに準拠したホームネットワーク機能で、ホームネットワーク上のコンテンツ再生に対応。	50、53
USB	USB接続でiPhone/iPod上のコンテンツを簡単に再生。	49、52
	USB接続でUSBデバイス／ウォークマン上のコンテンツを簡単に再生。	48
	USB接続でパソコン上のコンテンツを簡単に再生。	48
マルチゾーン	別の部屋からも音楽や映像を楽しめます。	60

よりよい画質、音質

特長	説明	ページ
映像のアップコンバート	アナログ映像信号をアップ／ダウンスケーリング。HDMIに出力する場合は、最大1080pまでのアップコンバートが可能。 2ndゾーン用映像出力も アップコンバート、アップスケーリング可能。	17
D.C.A.C.	D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能搭載。 さらに、スピーカーリロケーション機能、A.P.M.（Automatic Phase Matching（自動位相マッチング））機能で、スピーカー音源を補正し、サラウンド効果を向上させます。	81、82
各種リスニングモード	さまざまなスピーカー接続や音源に応じ、最適な音をつくりだします。 （Dolby Pro Logic IIz/DTS Neo:X/HD-D.C.S.など）	55、56
圧縮音声を高音質で再現	D.L.L.（Digital Legato Lenear）機能により、圧縮音声を高音質で再現。	86
H.A.T.S.	H.A.T.S.（High quality Audio Transmission System）機能により、HDMI接続したスーパーオーディオCDプレーヤーからの信号を高音質に伝送。	91

便利な機能

特長	説明	ページ
かんたん、便利に操作	GUI（Graphical User Interface）を搭載。テレビ画面を見ながら、本機を直感的に操作できます。	45
	Easy Setupで、本機の基本設定を手軽に行えます。	43
	つないだ機器やマルチゾーンも操作できる多機能リモコンと、基本操作をシンプルに行うための簡単リモコンが付属。	13、15
	EASY AUTOMATIONボタンでさまざまな設定を一括呼び出し。	72
シーンに応じて	音量に応じて最適なサウンドに調整するSound Optimizer機能	58
	音量を適切なレベルに自動調整するAdvanced Auto Volume機能	59
	映像と音声のずれを補正するA/V Sync機能	87
	本機がスタンバイの状態でもHDMI信号を伝送するパススルー機能	68

その他

特長	説明	ページ
環境に配慮	操作や信号の入力がないときに自動的に本機をスタンバイ状態に切り換えるオートスタンバイ機能	96
さらに便利に	「ES Remote」をインストールすることで、お持ちのスマートフォン*からも本機を操作できます。 ＊iPhone/iPod touch、Android 携帯に対応	72

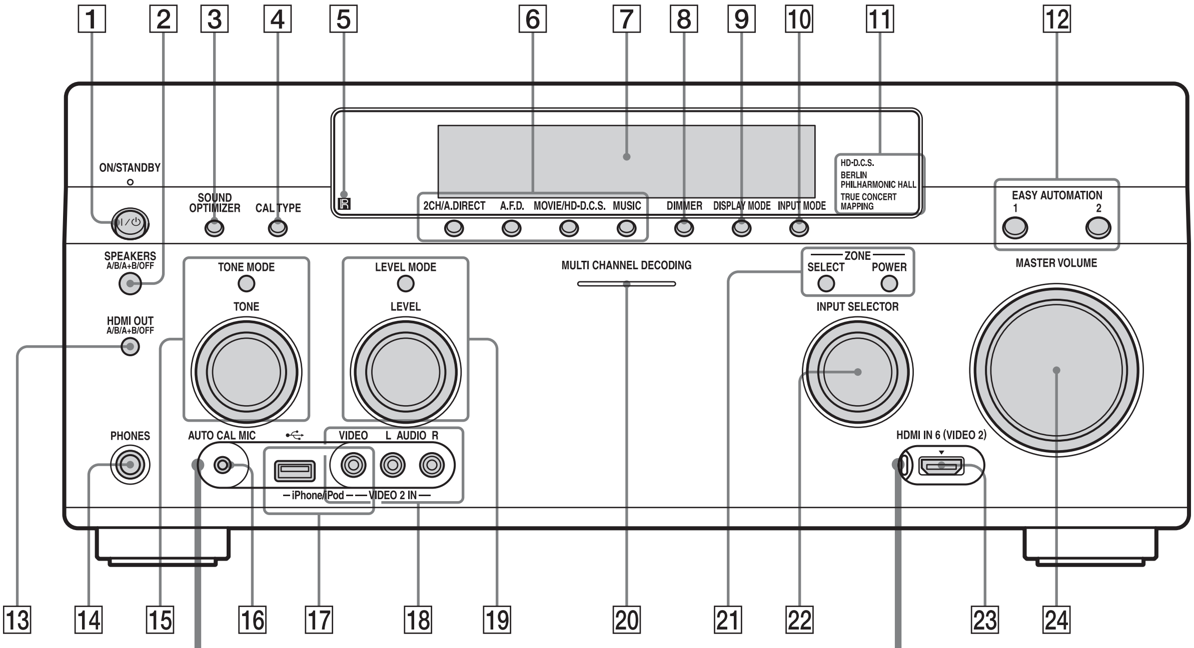
目次

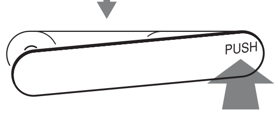
リモコンを使う

その他

各部の名前と働き

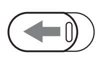
本体前面





カバーをはずすには

PUSHを押します。
はずしたカバーは、お子様の手の届かないところに保管してください。



カバーを開けるには

カバーを左にスライドさせてください。

1 I/⏻ ON/STANDBY（電源オン／スタンバイ）
本機（アンプ）の電源を入／切します。電源が入るとボタンの上にあるランプが緑色に点灯します。
「Control for HDMI」（91ページ）、「Pass Through」（91ページ）、「Network Standby」（93ページ）のいずれかを「On」に設定した場合、または2ndゾーン3rdゾーンの電源が入っている場合は、本機がスタンバイ状態時にI/⏻の上にあるランプがオレンジ色に点灯します。

2 SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）

3 SOUND OPTIMIZER （58ページ）

4 CAL TYPE
Auto Calibration機能の補正タイプを設定します（81ページ）。

5 リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。

6 2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE/HD-D.C.S.、MUSIC（54、55、56ページ）

7 表示窓（10ページ）

8 DIMMER
表示窓の明るさを切り換えます。

9 DISPLAY MODE（101ページ）

10 INPUT MODE（69ページ）

11 HD-D.C.S.ランプ、BERLIN PHILHARMONIC HALLランプ、TRUE CONCERT MAPPINGランプ（55、56ページ）

12 EASY AUTOMATION 1、2（72ページ）

13 HDMI OUT（A/B/A+B/OFF）（68ページ）

14 PHONES端子
ヘッドホンをつなぎます。

15 TONE MODE、TONEつまみ
TONE MODEをくり返し押して、BASSまたはTREBLEを選びます。続けてTONEつまみを回してスピーカーの高音域／低音域レベルを調節します。

16 AUTO CAL MIC端子（81ページ）

17 iPhone/iPod（⭠（USB）ポート、VIDEO IN端子）（48、49、52ページ）

18 VIDEO 2 IN端子（32ページ）

19 LEVEL MODE、LEVELつまみ（99ページ）
LEVEL MODEをくり返し押して調整するスピーカーを選びます。続けてLEVELつまみを回してレベルを調節します。

20 MULTI CHANNEL DECODINGランプ
マルチチャンネル音声がデコードされているときに点灯します。

21 ZONE SELECT、POWER（60ページ）
SELECTをくり返し押して、2ndゾーン、3rdゾーン、またはメインゾーンを選びます。POWERを押すたびに、選んだゾーンへの信号出力を入／切します。

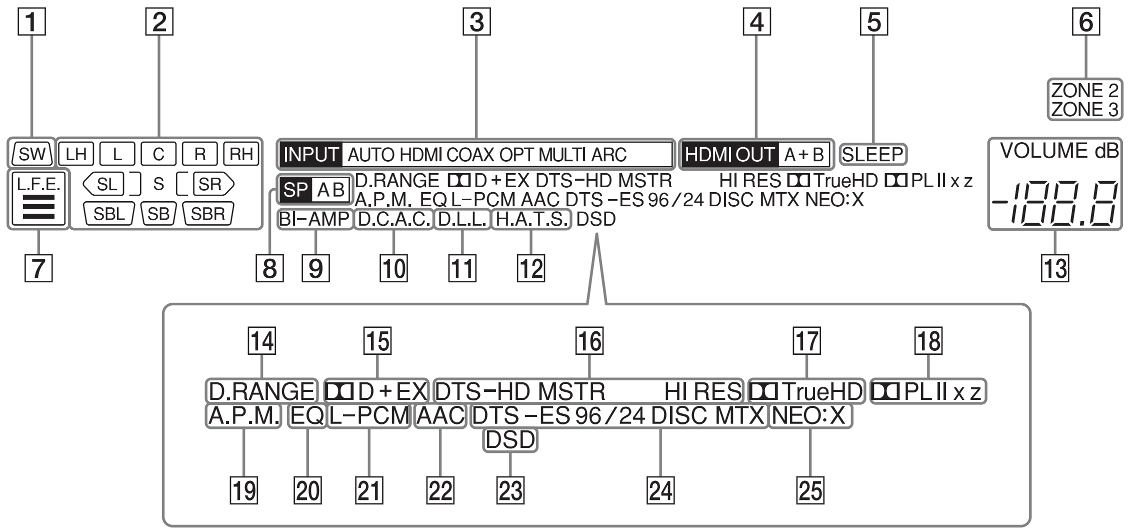
22 INPUT SELECTORつまみ
再生する入力ソースを選びます。
2ndゾーンまたは3rdゾーンの入力ソースを選ぶには、ZONE SELECT（21）を押して先に2ndゾーンまたは3rdゾーンを選び（表示窓に「ZONE 2 [入力名]」または「ZONE 3 [入力名]」と表示されます。）、INPUT SELECTORつまみを回して入力ソースを選びます。

23 HDMI IN 6（32ページ）

24 MASTER VOLUMEつまみ（47ページ）

つづく

表示窓



1 SW

アクティブサブウーファーをつないでいる場合、音声信号がSUBWOOFER端子から出力されているときに点灯します。

2 **再生チャンネル表示**

文字（L、C、Rなど）は、デコードしているチャンネルを表示します。文字の周りの枠は、スピーカーセッティングに基づいて、本機がソース音源をどのようにダウンミックスおよび拡張しているかを表示します。

L
フロント左

R
フロント右

C
センター（モノラル）

LH
フロントハイ左

RH
フロントハイ右

SL
サラウンド左

SR
サラウンド右

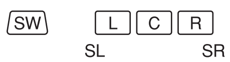
S
サラウンド（モノラル／プロロジック処理されたサラウンド成分）

SBL
サラウンドバック左

SBR
サラウンドバック右

SB
サラウンドバック（6.1チャンネル処理されたサラウンドバック成分）

例：記録形式：5.1
　スピーカーパターン：3/0.1
　サウンドフィールド：A.F.D. Auto



3 INPUT表示

現在、本機に入力されている信号を表示します。

AUTO
INPUT MODEが「AUTO」に設定されているときに点灯します。

HDMI

COAX

OPT

MULTI（MULTI CHANNEL INPUT）

ARC（69ページ）

4 HDMI OUT A＋B（68ページ）

5 SLEEP（74ページ）

6 ZONE 2、ZONE 3（60ページ）

7 L.F.E.

入力信号にL.F.E.（重低音効果）のチャンネルが存在しているときに「L.F.E.」の文字が点灯します。また、実際にL.F.E.信号の音が再生されているときには、文字の下のバーが信号のレベルに応じて点灯します。L.F.E.信号は、すべての部分に記録されているとは限らないため、多くの場合、バーは点灯と消灯をくり返します。

8 **スピーカー表示**（43ページ）

9 BI-AMP（77ページ）

10 D.C.A.C.（81ページ）

Auto Calibration機能の測定結果が適用されているときに点灯します。

11 D.L.L.（86ページ）

12 H.A.T.S.（91ページ）

13 VOLUME

現在の音量を表示します。

14 D.RANGE

ダイナミックレンジの圧縮が働いているときに点灯します。

15 **ドルビーデジタルサラウンド表示**
ドルビーデジタルフォーマットの信号をデコードしているときに、該当する表示が点灯します。
□□D
Dolby Digital
□□D+
Dolby Digital Plus
□□D EX
Dolby Digital Surround EX

16 DTS-HD**表示**
DTS-HD信号をデコードしているときに点灯します。
DTS-HD
次の表示とともに点灯します。
MSTR
DTS-HD Master Audio
HI RES
DTS-HD High Resolution Audio

17 □□TrueHD
Dolby TrueHD信号をデコードしているときに点灯します。

18 **ドルビープロロジック表示**
ドルビープロロジック処理をしているときに、該当するいずれかの表示が点灯します。マトリックスサラウンドデコード技術によって、入力信号を5.1チャンネルまたは7.1チャンネルに拡張します。
□□PL
Dolby Pro Logic
□□PLII
Dolby Pro Logic II
□□PLIIx
Dolby Pro Logic IIx
□□PLIIz
Dolby Pro Logic IIz

19 A.P.M.（82ページ）
A.P.M.（Automatic Phase Matching（自動位相マッチング））機能が働いているときに点灯します。

20 EQ
イコライザーが働いているときに点灯します。

21 L-PCM
リニアPCM信号が入力されたときに点灯します。

22 AAC
MPEG2 AAC信号が入力されたときに点灯します。

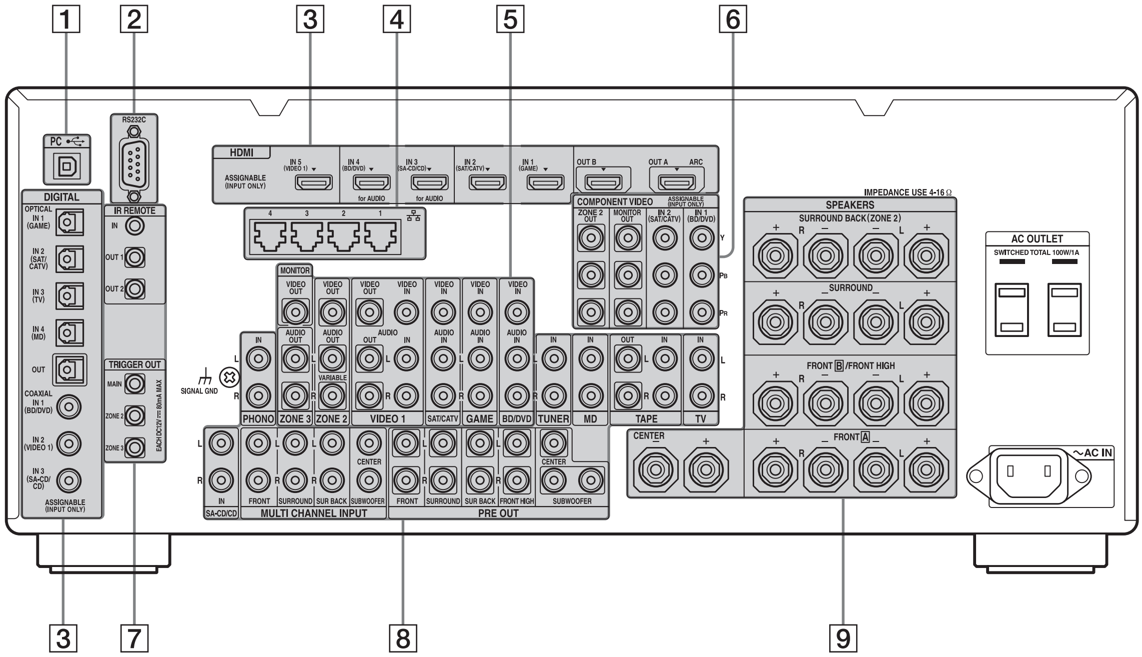
23 DSD
DSD（Direct Stream Digital）信号を受信しているときに点灯します。

24 DTS（-ES）**表示**
DTSまたはDTS-ES信号を入力しているときに点灯します。
DTS
DTS信号をデコードしているときに点灯します。信号やデコードのフォーマットによって、次の表示も点灯します。
DTS-ES
デコードのフォーマットよって、次の表示とともに点灯します。
96/24
DTS 96 kHz/24ビット信号をデコードしているときに点灯します。
DISC
DTS-ES Discrete 6.1
MTX
DTS-ES Matrix 6.1

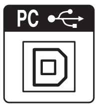
25 NEO:X
DTS Neo:X Cinema/Music/Gameモードのときに点灯します。

つづく

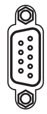
本体後面



1 (USB)ポート(36ページ)

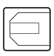


2 RS232C端子



保守、サービス用です。

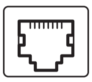
3 デジタル入出力部


OPTICAL(光)デジタル音声入出力端子(23、27、29、37ページ)


COAXIAL(同軸)デジタル音声入力端子(26、34ページ)


HDMI入出力端子*(23、25、27、29ページ)

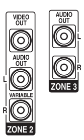
4 LANポート(スイッチングハブ)(40ページ)



5 映像と音声の入出力部(23、26、27、29、31ページ)


音声入出力端子


映像入出力端子*


音声出力端子
映像出力端子
(60ページ)

6 コンポーネント映像入出力部(23、26、29ページ)


Y、P_B、P_R入出力端子*

7 ソニー製機器、その他外部機器のコントロール端子


IR REMOTE入出力端子(60ページ)

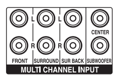
マルチゾーン機能を使用するときにIRリピーター(別売)をつなぎます。

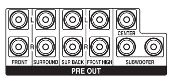

TRIGGER OUT端子(95ページ)

12Vトリガ対応の他の機器や、2ndゾーンまたは3rdゾーンにあるアンプの電源を連動してオン/オフするときにつなぎます。

8 音声入出力部

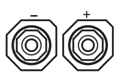

音声入出力端子(34、37、38ページ)


マルチチャンネル入力端子(26、34ページ)


PRE OUT(プリアウト)出力端子(22ページ)

外部のパワーアンプなどとつなぎます。

9 スピーカー出力部(21ページ)

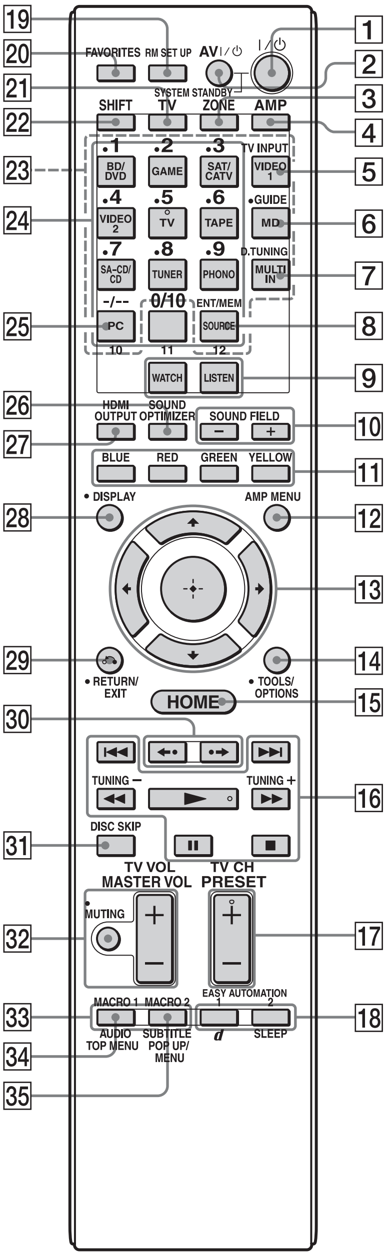


* 選んだ入力の映像を見るには、お持ちのテレビを HDMI OUT 端子または MONITOR OUT 端子につないでください(23 ページ)。

リモコン

本機や他の機器を操作するには、付属のリモコンを使ってください。初期設定ではソニー製の映像／オーディオ機器を操作できるようになっています（103ページ）。

多機能リモコン（RM-AAL039）



1 **I/⏻（電源オン／スタンバイ）**
本体の電源を入／切します。

2 AV I/⏻（電源オン／スタンバイ）（103ページ）
リモコンに登録されている機器の電源を入／切します。

3 ZONE（60ページ）

4 AMP
本機メインゾーンのリモコン操作を有効にします。

5 TV INPUT
TV（21）を押したあとTV INPUTを押して、テレビの入力信号を選びます。

6 GUIDE
SHIFT（22）を押したあとGUIDEを押して、番組表を表示します。

7 D.TUNING
SHIFT（22）を押したあとD.TUNINGを押して、放送局を手動受信するモードにします。

8 ENT/MEM
SHIFT（22）を押したあと数字ボタンでチャンネルやディスク、トラックを選び、ENT/MEMボタンを押して確定します。

9 WATCH、LISTEN（47ページ）

10 SOUND FIELD +/–（54、55、56ページ）

11 **カラーボタン**
テレビ画面に表示されるガイドに応じて働きます。

12 AMP MENU（97ページ）

13 ⊕ ↑/↓/←/→
↑/↓/←/→を押して項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

14 TOOLS/OPTIONS（45、51ページ）
オプションメニューを表示、選択します。

15 HOME（45ページ）

16 ◀◀/▶▶1)、■1)、❚❚1)、▶1) 2)、|◀◀/▶▶|1)
DVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、MDデッキ、カセットデッキ、前面USBポート、ネットワークにつないだ機器や、インターネットビデオなどを操作します。

17 PRESET +2)/–
プリセットした放送局を選ぶときに押します。
TV CH +2)/–
TV（21）を押したあとTV CH +/–を押して、テレビやBSデジタルチューナーのチャンネルを選びます。

ご注意
- リモコンを使うときは、リモコン受光部に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。誤動作の原因となります。
- 機能の説明は、例としてあげています。お使いの機器によっては、上記の操作ができなかったり、説明されているとおりに動かない場合があります。

ちょっと一言
本機がリモコン操作に反応しないときは、すべて新しい電池に交換してください。

つづく

⑱ EASY AUTOMATION（72ページ）
d
TV（㉑）を押したあとdを押して、デジタル放送のテレビやラジオ番組および連動データを表示します。
SLEEP（74ページ）

⑲ RM SET UP（76ページ）

⑳ FAVORITES（51ページ）

㉑ TV
押して黄色で表記されたテレビを操作できるボタン操作に切り換えます。

㉒ SHIFT
押してピンク色で表記されたボタン操作に切り換えます。

㉓ **入力切り換え用ボタン**
使用する機器を選びます。
入力切り換え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。

㉔ **数字ボタン**
SHIFT（㉒）を押したあと数字ボタンを押して、数字を入力します。
TV（㉑）を押したあと数字ボタンを押して、テレビのチャンネルを選びます。

㉕ -/--
SHIFT（㉒）を押したあと-/--を押して、数字ボタンで10以上の数字のDVDプレーヤーやブルーレイディスクレコーダー、CDプレーヤー、MDデッキのトラックを選べます。

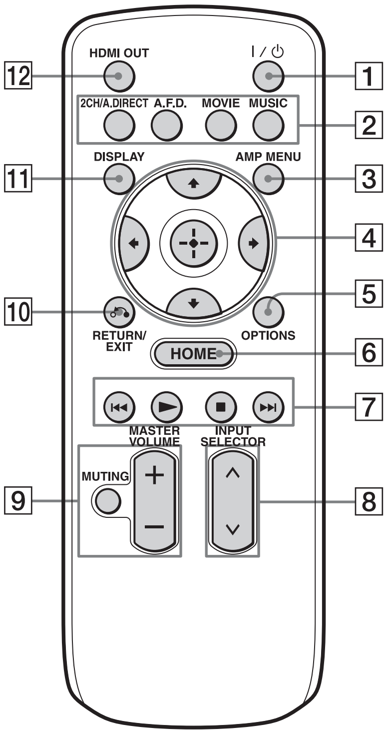
㉖ SOUND OPTIMIZER（58ページ）
㉗ HDMI OUTPUT（68ページ）
㉘ DISPLAY
インターネットビデオやホームネットワーク上のコンテンツを再生時に、テレビ画面にコントロールパネルを表示します。
㉙ RETURN/EXIT ↶
前のメニューに戻るときやメニューを消すときに押します。
㉚ ←·/·→
再生コンテンツの少し前に戻る、または少し先に進みます。
㉛ DISC SKIP
マルチディスクチェンジャーを使っているときに、ディスクを選びます。
㉜ MASTER VOL +/–（47ページ）
TV VOL +/–
TV（㉑）を押したあとTV VOL +/–を押して、テレビの音量を調節します。
MUTING（47ページ）
TV（㉑）を押したあとMUTINGを押して、テレビを消音します。
㉝ MACRO 1、MACRO 2（106ページ）
㉞ TOP MENU
BD-ROMやDVDのトップメニューを表示します。
AUDIO
SHIFT（㉒）を押したあとAUDIOを押して、音声フォーマット、トラックを選びます。

㉟ POP UP/MENU
BD-ROMのポップアップメニューやDVDのメニューを表示します。
SUBTITLE
SHIFT（㉒）を押したあとSUBTITLEを押して、字幕言語を選びます。

1) 各機器を操作できるその他のボタンについては、102 ページの表をご覧ください。
2) 数字ボタンの 5/TV および ►、PRESET +/TV CH + には、凸点（突起）が付いています。操作の目印として、お使いください。

簡単リモコン（RM-AAU124）

本機の操作専用のリモコンです。主な機能をシンプルな操作で使うことができます。



1 I/⏻（電源オン／スタンバイ）
本体の電源を入／切します。

2 2CH/A.DIRECT、A.F.D.、MOVIE、MUSIC（54、55、56ページ）

3 AMP MENU（97ページ）

4 ⊕ ↑/↓/←/→
↑/↓/←/→で項目を選びます。続いて⊕を押して、選択を決定します。

5 OPTIONS（45、51ページ）

6 HOME（45ページ）

7 ►、■、◄◄/►►
前面USBポート、ネットワークにつないだ機器や、インターネットビデオなどを操作します。

8 INPUT SELECTOR

9 MASTER VOLUME +/–（47ページ）
MUTING（47ページ）

10 RETURN/EXIT ↶（45ページ）

11 DISPLAY
インターネットビデオやホームネットワーク上のコンテンツを再生時に、テレビ画面にコントロールパネルを表示します。

12 HDMI OUT（68ページ）

機器をつなぐ前にお読みください

コード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。

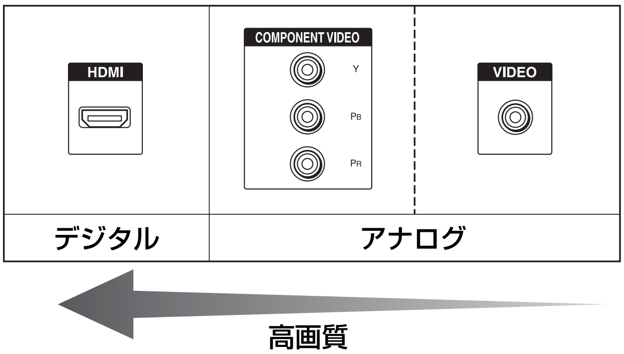
スピーカーを設置する

「準備 1 ：スピーカーを設置する」（19 ページ）をご覧ください。

↓

テレビおよび映像機器を接続する

画質は接続する端子によって変わります。右の図をご覧になり、機器の端子に合った接続を選んでください。
本機には映像変換機能があります。詳しくは「映像信号の変換機能について」（17 ページ）をご覧ください。



Q： テレビにHDMI端子がありますか？

→ **いいえ**：「準備 2 : テレビを接続する」（23 ページ）の HDMI 端子がないテレビの接続および「準備 3 : 映像機器を接続する」（25 ページ）をご覧ください。

→ **はい**： 「準備 2 : テレビを接続する」（23 ページ）の HDMI 端子があるテレビの接続および「準備 3 : 映像機器を接続する」（25 ページ）をご覧ください。

↓

オーディオ機器を接続する

「準備 4 : オーディオ機器を接続する」（34 ページ）をご覧ください。

↓

本体とリモコンの準備をする

「準備 6 : 本体とリモコンを準備する」（41 ページ）をご覧ください。

↓

本機を設定する

「準備 7 : Easy Setup で初期設定を行う」（43 ページ）をご覧ください。

↓

接続機器の音声出力を設定する

「準備 8 : 接続機器の設定をする」（44 ページ）をご覧ください。

マルチゾーン接続について詳しくは 61 ページをご覧ください。
バイアンプ接続について詳しくは 77 ページをご覧ください。

映像信号の変換機能について

本機には映像信号の変換機能があります。
- コンポジット映像信号をHDMI映像信号、コンポーネント映像信号に変換できます。
- コンポーネント映像信号をHDMI映像信号、コンポジット映像信号に変換できます。

初期設定では、下の表のように、つないだ機器からの映像信号をHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子から出力します。お使いのモニターの解像度にあった映像変換機能に設定することをおすすめします。
映像変換機能の詳細については、「映像設定（Video Settings）」（88ページ）をご覧ください。

出力端子 / 入力信号（つなぐ端子）	**HDMI OUT A/B（1080pまで）**	**COMPONENT VIDEO MONITOR OUT（1080iまで）**	**MONITOR VIDEO OUT**	**VIDEO 1 OUT**
HDMI映像（HDMI IN）	○	×	×	×
コンポジット映像（VIDEO IN）	○	○*	○*	○
コンポーネント映像（COMPONENT VIDEO IN）	○	○*	○*	×

○ ：映像信号を出力します。
× ：映像信号を出力しません。
＊「Resolution」（88 ページ）の設定によっては映像信号が出力されないことがあります。

映像の変換機能のご注意

解像度変換した映像信号は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子とHDMI OUT端子に同時に出力できないことがあります。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子とHDMI OUT端子の両方につながっている場合は、HDMI OUT端子からの出力が優先されます。

録画機器をつなぐには

録画する場合は、録画機器を本機のVIDEO OUT端子につないでください。VIDEO OUT端子には映像変換機能がないので、入力信号と出力信号は同じ種類の端子につないでください。
HDMI OUT端子およびMONITOR OUT端子からの出力信号は録画できません。

つづく

本機が再生できる音声フォーマット

本機がデコードできる音声フォーマットは、再生機器とつないだデジタル音声入力端子によって異なります。
本機は以下のフォーマットに対応しています。

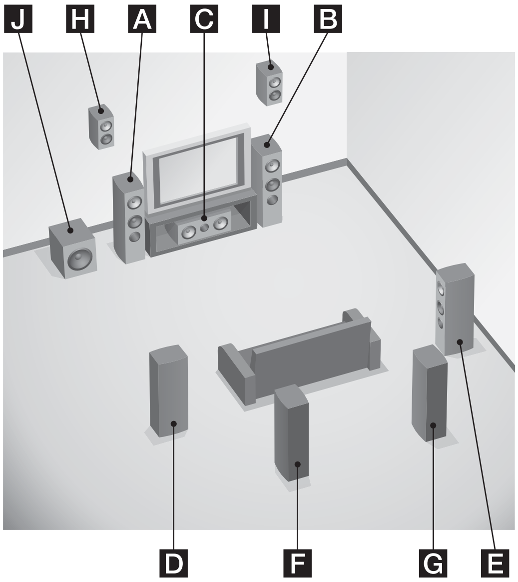
音声フォーマット	最大チャンネル数	本機と再生機との接続	
		COAXIAL/OPTICAL	HDMI
Dolby Digital	5.1チャンネル	○	○
Dolby Digital EX	6.1チャンネル	○	○
Dolby Digital Plus*	7.1チャンネル	×	○
Dolby TrueHD*	7.1チャンネル	×	○
DTS	5.1チャンネル	○	○
DTS-ES	6.1チャンネル	○	○
DTS 96/24	5.1チャンネル	○	○
DTS-HD High Resolution Audio*	7.1チャンネル	×	○
DTS-HD Master Audio*	7.1チャンネル	×	○
DSD*	5.1チャンネル	×	○
MPEG-2 AAC（LC）	5.1チャンネル	○	○
マルチチャンネルリニアPCM*	7.1チャンネル	×	○

* 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書を参照してください。

準備1：スピーカーを設置する

本機では最大9.1チャンネル（スピーカー 9本とアクティブサブウーファー 1本）のスピーカーシステムを構成できます。

スピーカーシステムの設置例



9.1チャンネル

理想的なダビングシアターにいるような、高品質なマルチチャンネルサラウンド音声を最大限に楽しむことができます。

A フロントスピーカー（L）
B フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
F サラウンドバックスピーカー（L）
G サラウンドバックスピーカー（R）
H フロントハイスピーカー（L）
I フロントハイスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー

7.1チャンネル（サラウンドバックスピーカー接続）

DVDやブルーレイソフトに記録された6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの音声を忠実に再現することができます。

A フロントスピーカー（L）
B フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
F サラウンドバックスピーカー（L）
G サラウンドバックスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー

7.1チャンネル（フロントハイスピーカー接続）

Pro Logic IIzモードやNeo:Xモードなどの垂直方向のサウンドエフェクトを楽しむことができます。

A フロントスピーカー（L）
B フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
H フロントハイスピーカー（L）
I フロントハイスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー

5.1チャンネル

映画館のようなマルチチャンネル音声を充分に楽しむには、5本のスピーカー（フロントスピーカー：2本、センタースピーカー：1本、サラウンドスピーカー：2本）およびアクティブサブウーファーが必要です（5.1チャンネル）。

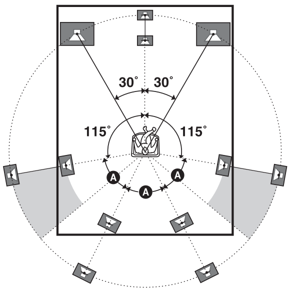
A フロントスピーカー（L）
B フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
D サラウンドスピーカー（L）
E サラウンドスピーカー（R）
J アクティブサブウーファー

つづく

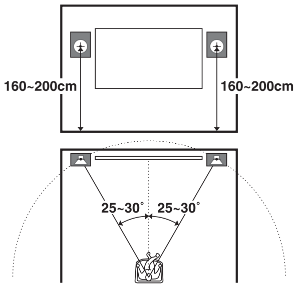
推奨スピーカー配置

7.1チャンネル

- Ⓐの角度はなるべく同じにします。後方の壁が近い場合は、サラウンドバックスピーカーを高い位置に配置します。

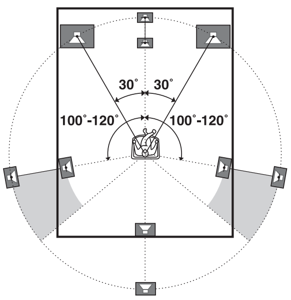


- 理想的な角度が確保できない場合は、サウランドスピーカーおよびサラウンドバックスピーカーの位置が近づきすぎないように分散させて、なるべく左右対称になるように配置してください。
- 理想的な角度が確保できない場合でも、「Speaker Relocation」を使って音源の位置を補正することができます（83ページ）。「Speaker Relocation」を有効に機能させるためには、サラウンドスピーカーおよびサラウンドバックスピーカーの各ペアは、90°より後方に配置してください。
- フロントハイスピーカーは、なるべく前方の壁に近い位置に取り付けます。角度は25〜35°、高さは160〜200 cm（推奨190 cm）です。スクリーンをご使用の場合は、左右はスクリーンの両端の少し外の位置に配置します。



6.1チャンネル

- サラウンドバックスピーカーをリスニングポジションの真後ろに配置します。

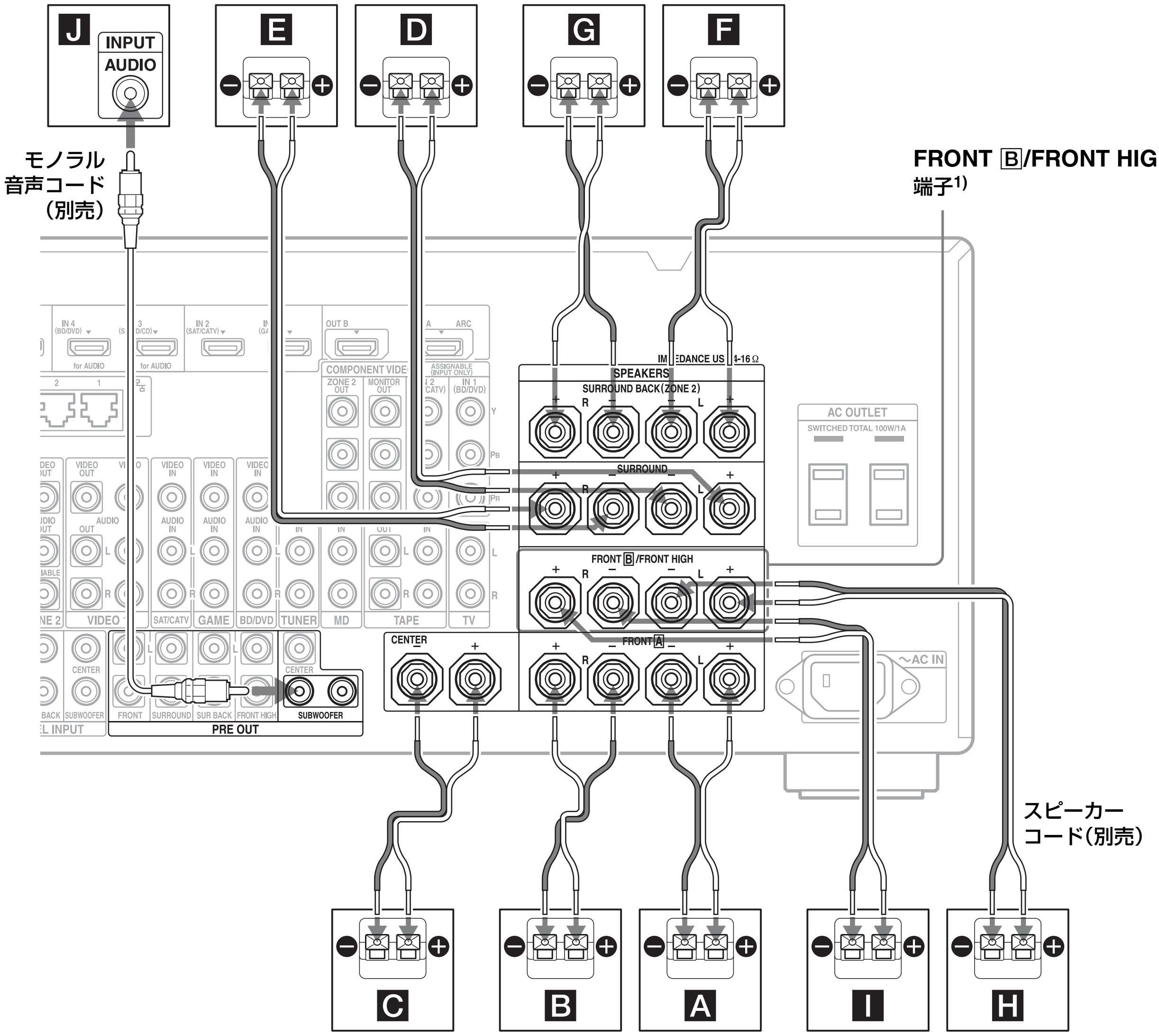


ちょっと一言

アクティブサブウーファーには指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

スピーカーを接続する

スピーカーコード類をつなぐときは、必ず電源コードを抜いてください。



- **A** フロントスピーカー A（L）
- **B** フロントスピーカー A（R）
- **C** センタースピーカー
- **D** サラウンドスピーカー（L）
- **E** サラウンドスピーカー（R）
- **F** サラウンドバックスピーカー（L）[2) 4)]
- **G** サラウンドバックスピーカー（R）[2) 4)]
- **H** フロントハイスピーカー（L）[3) 4)]
- **I** フロントハイスピーカー（R）[3) 4)]
- **J** アクティブサブウーファー[5)]

1) 追加のフロントスピーカーを使用するときは、FRONT B/FRONT HIGH 端子につないでください。使用するフロントスピーカーを本機前面の SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）で選べます（43 ページ）。

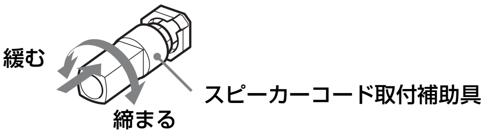
2) サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用するときは、SURROUND BACK (ZONE 2) L 端子につないでください。

3) フロントハイスピーカーを使う場合は、FRONT B/FRONT HIGH 端子につないでください。

4) サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーを両方つなぐことができます。ただし、サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーから同時に音を出力することはできません。
「Sound Field Mode」（57 ページ）でフロントハイスピーカーから音声を出力するかどうかを設定できます。ただし、サウンドフィールドにや入力信号によっては、「Sound Field Mode」は働きません。

ちょっと一言

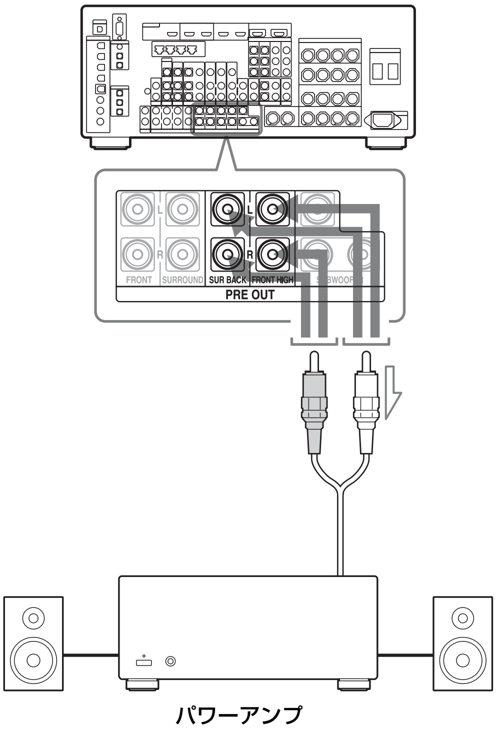
付属のスピーカーコード取付補助具を使うと、楽に SPEAKERS 端子を緩めたり、締め付けたりできます。



5) オートスタンバイ機能があるアクティブサブウーファーをお使いの場合、映画鑑賞中はオートスタンバイ機能を OFF にしてください。オートスタンバイ機能が ON になっていると、アクティブサブウーファーへの入力信号のレベルによって自動的にスタンバイ状態になり、音が出なくなることがあります。
本機には 2 台のアクティブサブウーファーをつなぐことができます。各 PRE OUT SUBWOOFER 端子からは同じ信号が出力されます。

9.1チャンネル再生をするには

本機のスピーカー端子から音声を同時に出力できるのは、最大で7チャンネルまでです。
PRE OUT SUR BACK端子、またはPRE OUT FRONT HIGH端子からパワーアンプにつなぐことによって、最大で9チャンネルまでの音声を同時出力することが可能になります。
お使いのスピーカーシステムに応じて、Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」(83ページ)を設定してください。



パワーアンプ

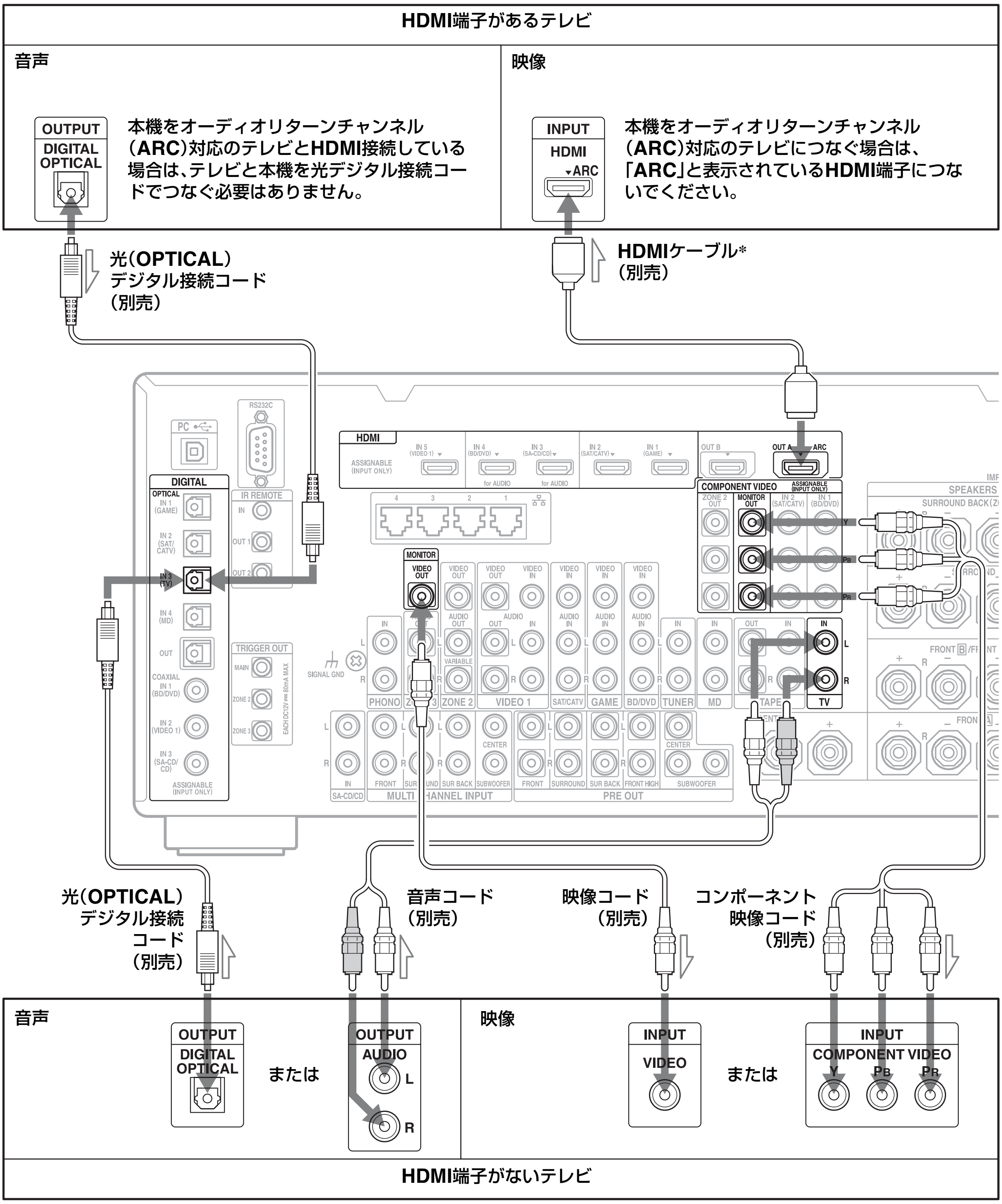
2ndゾーンの接続

サラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーを使用しないときのみ、SURROUND BACK (ZONE 2) L、R端子を2ndゾーンのスピーカー用に割り当てることができます。Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」(83ページ)でSURROUND BACK (ZONE 2)端子を「2ndゾーンのスピーカー」に設定してください。
2ndゾーンの接続と操作について詳しくは、「マルチゾーン機能を使う」(60ページ)をご覧ください。

ちょっと一言
SPEAKERS 端子と PRE OUT 端子の両方からは同じ信号が出力されます。例えば、フロントスピーカーだけを別のアンプにつなぎたい場合は、そのアンプを PRE OUT FRONT L、R 端子につなぎます。

準備 2:テレビを接続する

お持ちのテレビをHDMI OUT端子やMONITOR OUT端子につなぐと、選んだ入力の映像を見ることができます。GUI（Graphical User Interface）を使って本機を操作できます。



すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。

＊ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

接続に必要なケーブル／コード

テレビの種類	オーディオリターンチャンネル（ARC）	必要なケーブル／コード	
		映像	音声
HDMI入力端子あり	対応	HDMIケーブル*	－
	非対応	HDMIケーブル	光（OPTICAL）デジタル接続コードまたは音声コード**
HDMI入力端子なし	－	コンポーネント映像コードまたは映像コード	光（OPTICAL）デジタル接続コードまたは音声コード**

＊　HDMI ケーブルでつなぐだけでテレビの音声（マルチチャンネルサラウンド音声）も本機から出力できます。
＊＊マルチチャンネルサラウンド音声を本機から出力する場合は、光（OPTICAL）デジタル接続コードでつないでください。

ご注意

- テレビと映像コードでつなぐ場合には、「Playback Resolution」（89 ページ）を「480i/576i」に設定してください。
- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

ちょっと一言

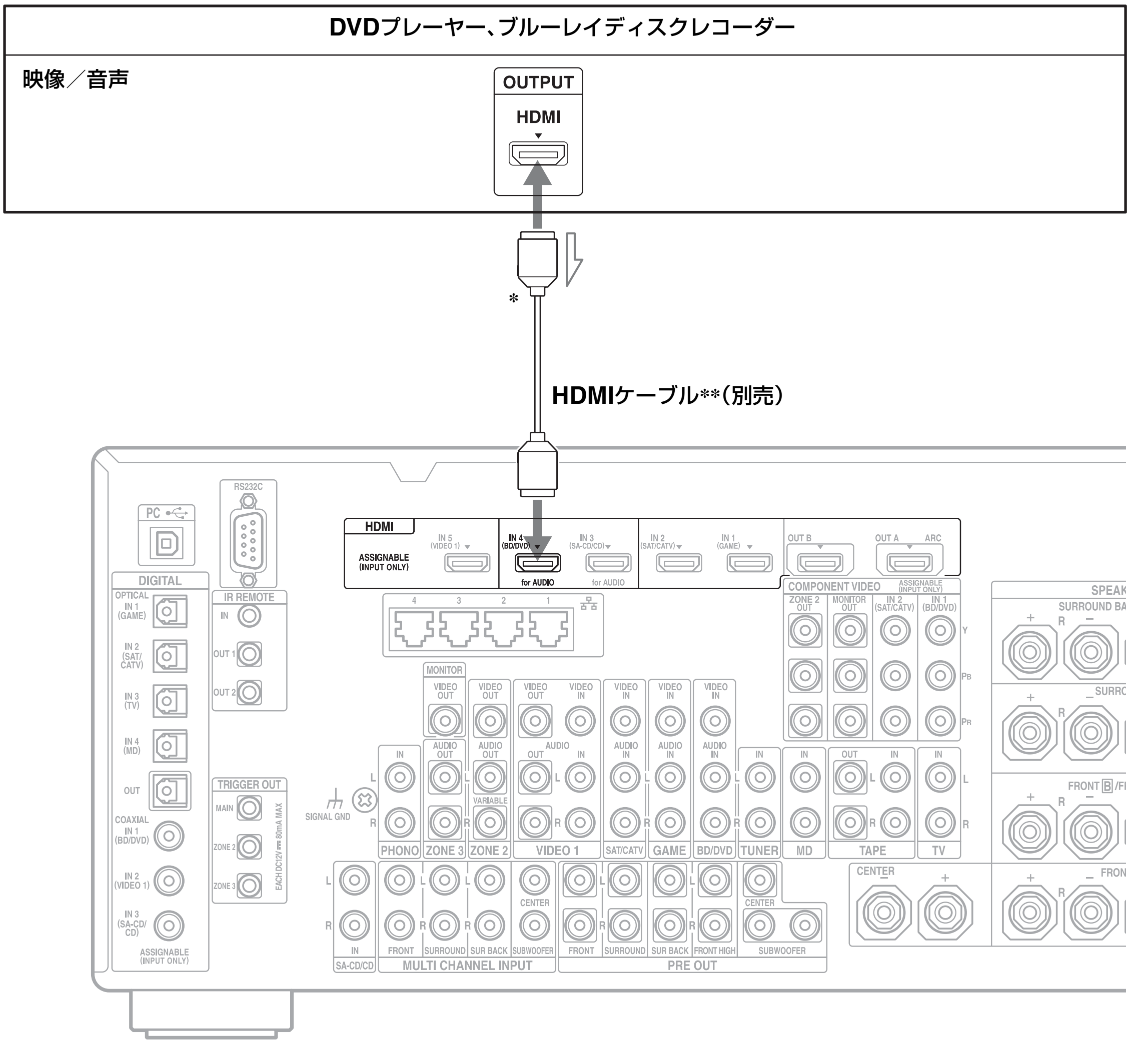
テレビの音声出力端子を本機の TV IN 端子につなぐと、テレビの音声を本機につないだスピーカーで聞けます。テレビの音声出力端子が可変／固定切り換えの場合には、固定にしてください。

準備 3：映像機器を接続する

ブルーレイディスク、DVDを見たい

HDMI端子がある機器と接続する

HDMI端子がない機器とつなぐ場合は、26ページをご覧ください。

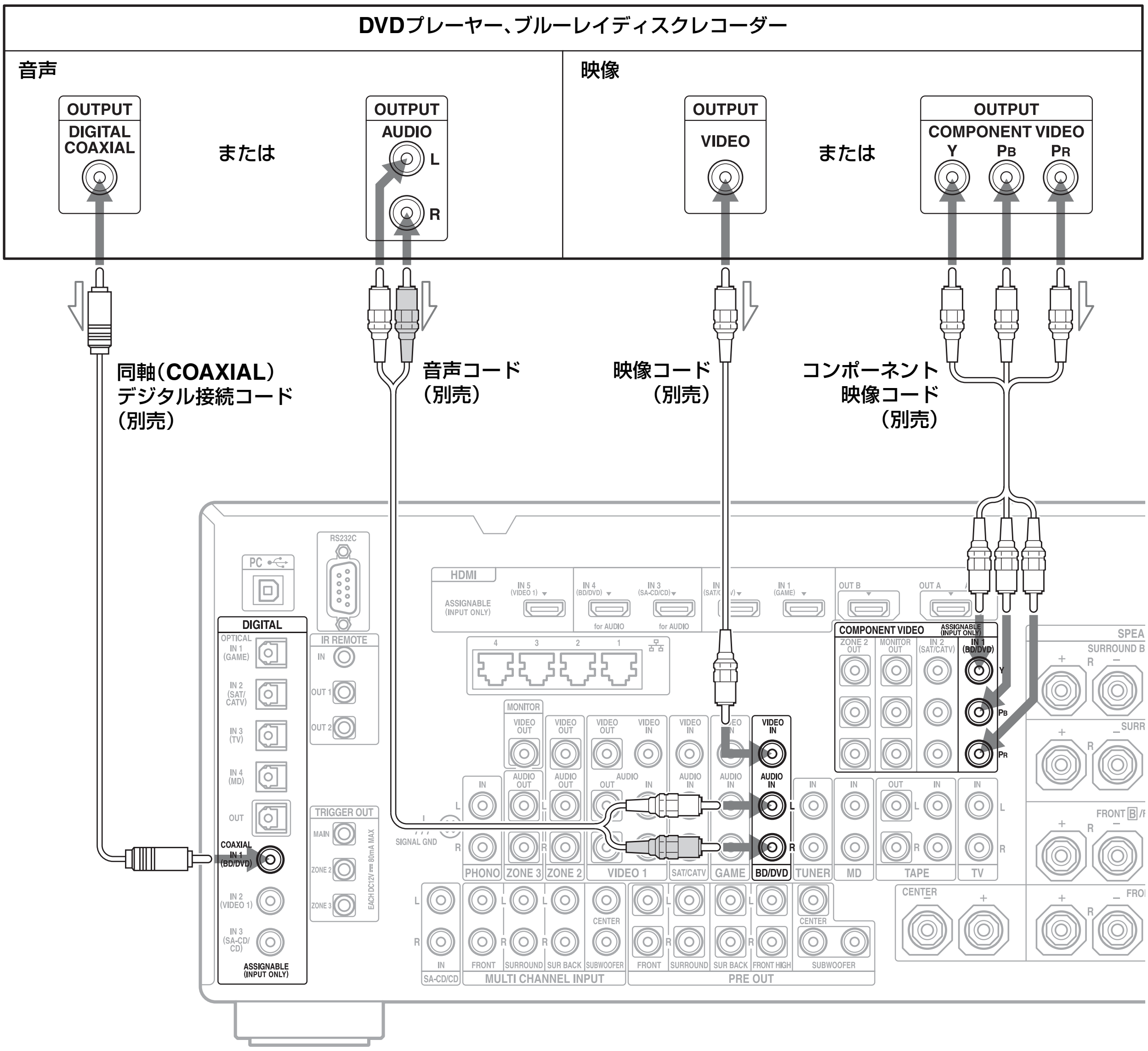


＊　本機の HDMI IN 端子には HDMI 出力端子のあるあらゆる機器をつなぐことができます。
＊＊ソニー製の HDMI ケーブルをおすすめします。

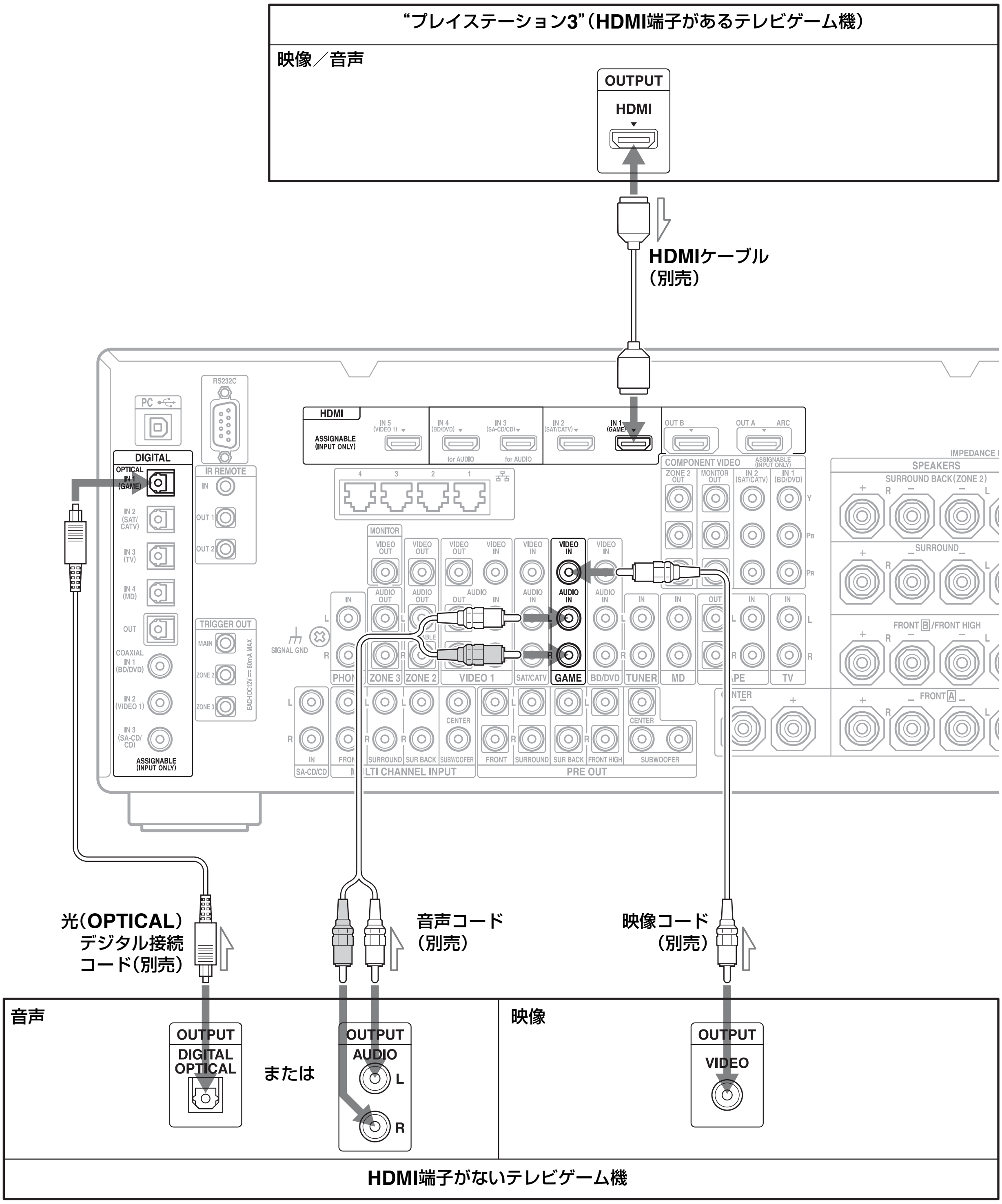
つづく

HDMI端子がない機器と接続する

すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。



テレビゲームをしたい



すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。

ご注意

- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

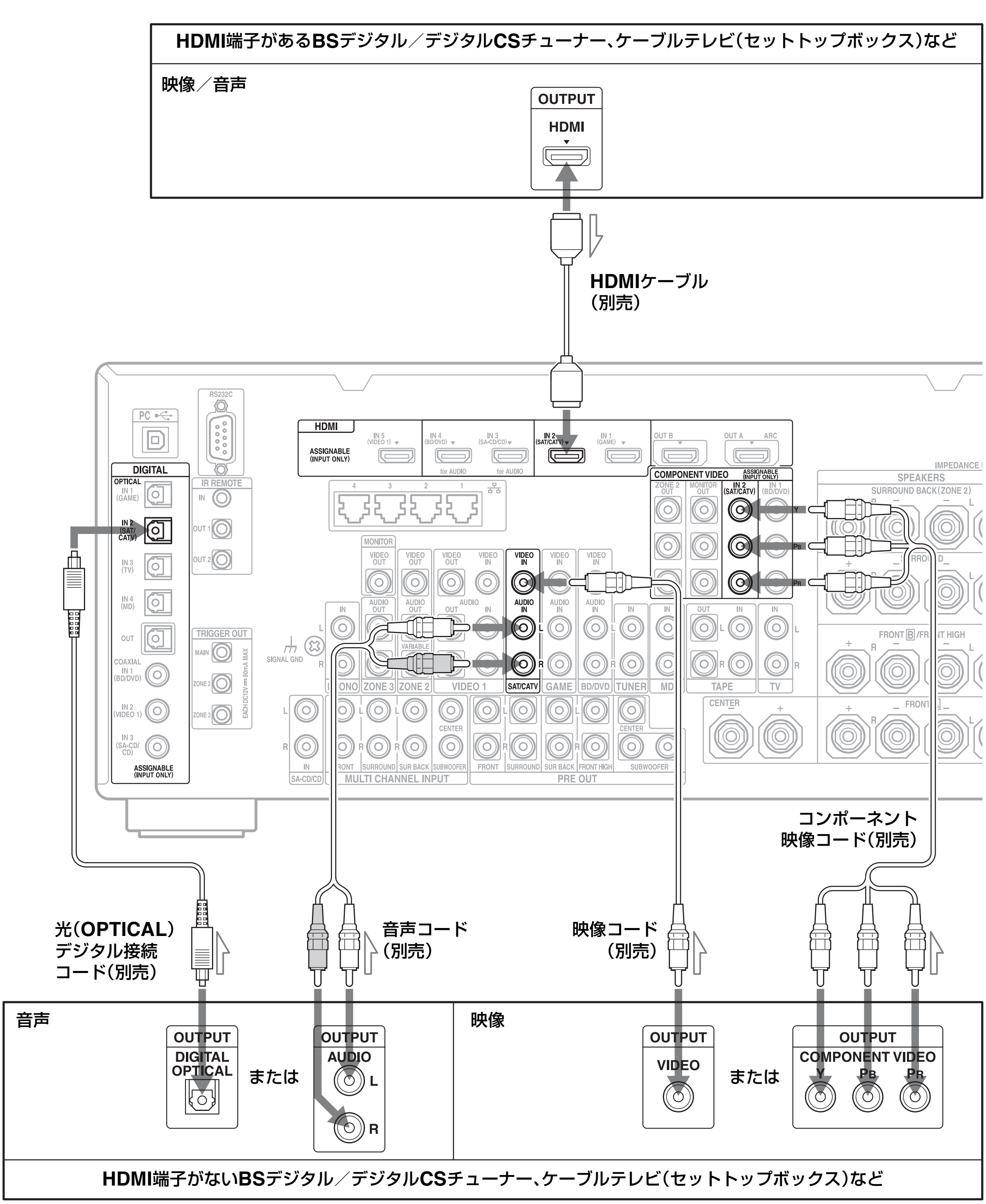
つづく

接続に必要なケーブル／コード

テレビゲーム機の種類	必要なケーブル／コード	
	映像	音声
HDMI出力端子あり	HDMIケーブル*	－
HDMI出力端子なし	コンポーネント映像コードまたは映像コード	光（OPTICAL）デジタル接続コードまたは音声コード**

＊　HDMI ケーブルでつなぐだけで音声（マルチチャンネルサラウンド音声）も本機から出力できます。
＊＊ マルチチャンネルサラウンド音声を本機から出力する場合は、光（OPTICAL）デジタル接続コードでつないでください。

衛星放送やケーブルテレビを見たい



すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。

ご注意

- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

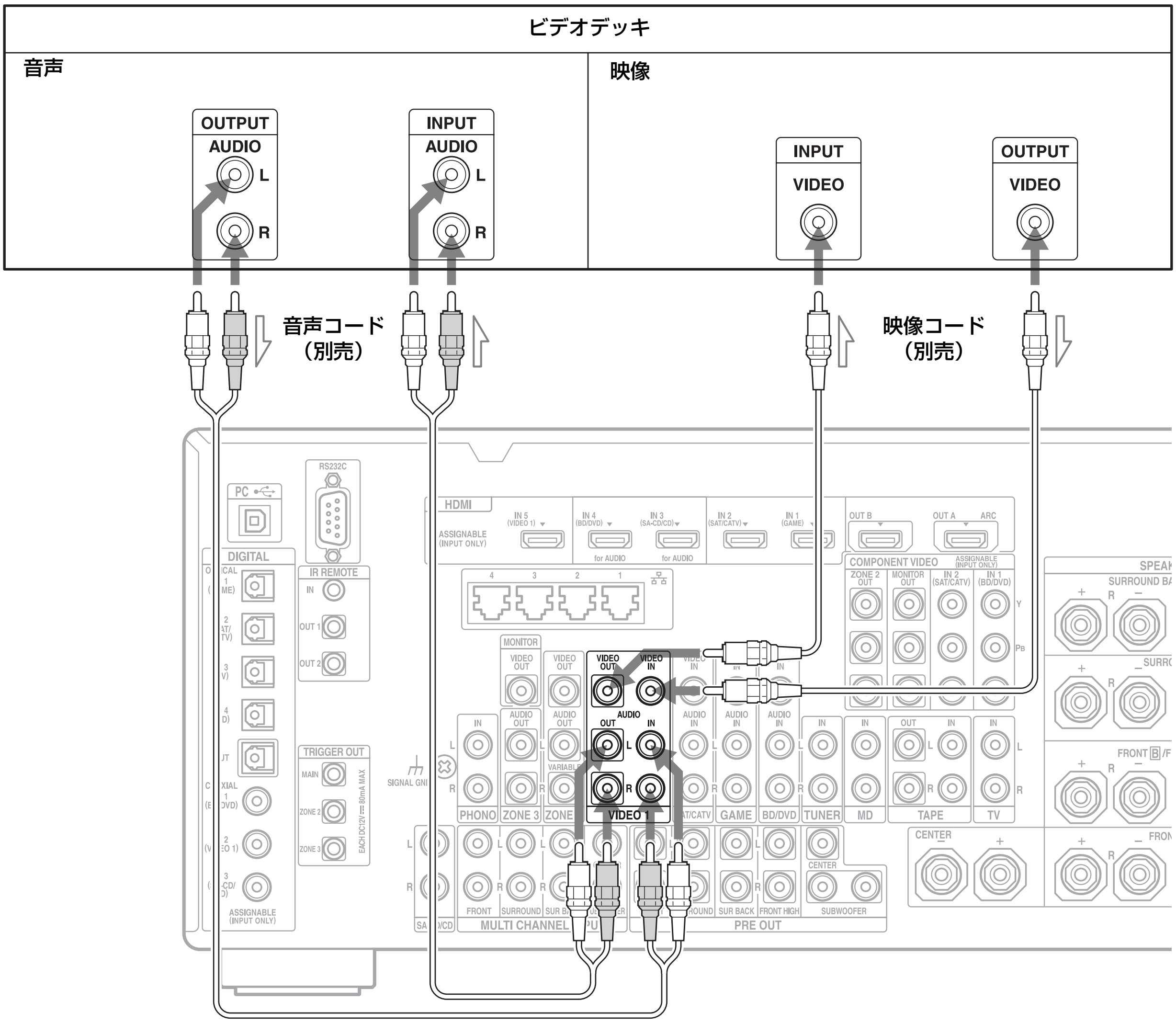
つづく

接続に必要なケーブル／コード

BSデジタル／デジタルCSチューナー、ケーブルテレビ（セットトップボックス）の種類	必要なケーブル／コード	
	映像	音声
HDMI出力端子あり	HDMIケーブル*	－
HDMI出力端子なし	コンポーネント映像コードまたは映像コード	光（OPTICAL）デジタル接続コードまたは音声コード**

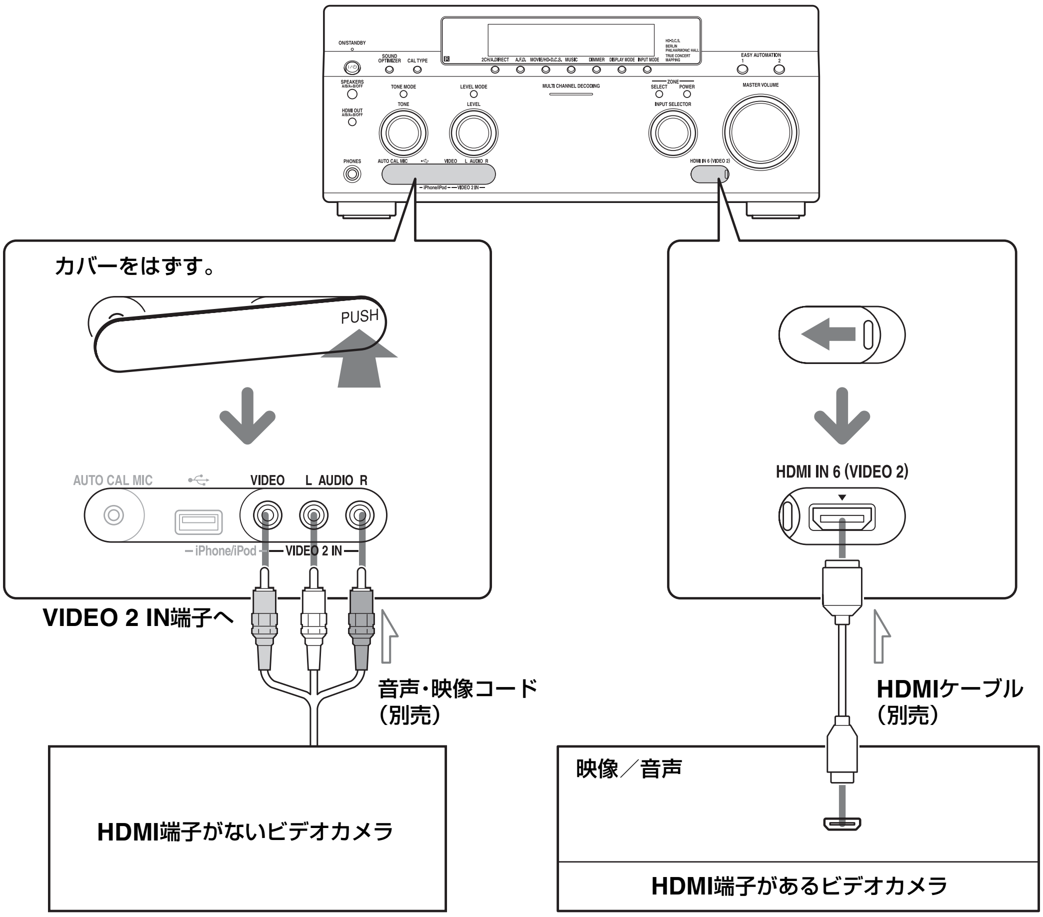
＊　HDMI ケーブルでつなぐだけで音声（マルチチャンネルサラウンド音声）も本機から出力できます。
＊＊マルチチャンネルサラウンド音声を本機から出力する場合は、光（OPTICAL）デジタル接続コードでつないでください。

ビデオテープを見たい



つづく

ビデオカメラの映像を見たい



HDMI接続でできること

- 本機ではHDMIで転送されたデジタル音声信号をスピーカー端子とPRE OUTから出力できます。ドルビーデジタル、DTS、DSD、リニアPCM、AACの各フォーマットに対応しています。詳しくは、「本機が再生できる音声フォーマット」（18ページ）をご覧ください。
- 映像端子、コンポーネント映像端子に入力したアナログ映像信号を、HDMIに変換して出力できます。映像を変換したとき、音声信号はHDMI OUT端子からは出力されません。
- 本機はHigh Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、Deep Color、“x.v.Color”および3D伝送に対応しています。
- 本機はHDMI機器制御機能に対応しています。ただし、HDMI OUT B端子はHDMI機器制御機能に対応していません。
- 3D映像を楽しむには、3D表示に対応したテレビおよび映像機器（ブルーレイディスクレコーダー、“プレイステーション3”など）と本機をHigh Speed HDMIケーブルでつなぎ、3Dメガネを装着したうえで、3D対応のブルーレイディスクなどを再生してください。

接続ケーブルについて

- High Speed HDMIケーブルをご利用ください。Standard HDMIケーブルの場合、1080p、Deep Colorまたは3Dの映像が正しく表示できない場合があります。
- 認証を受けたHDMIケーブルまたはソニー製のHDMIケーブルをおすすめします。

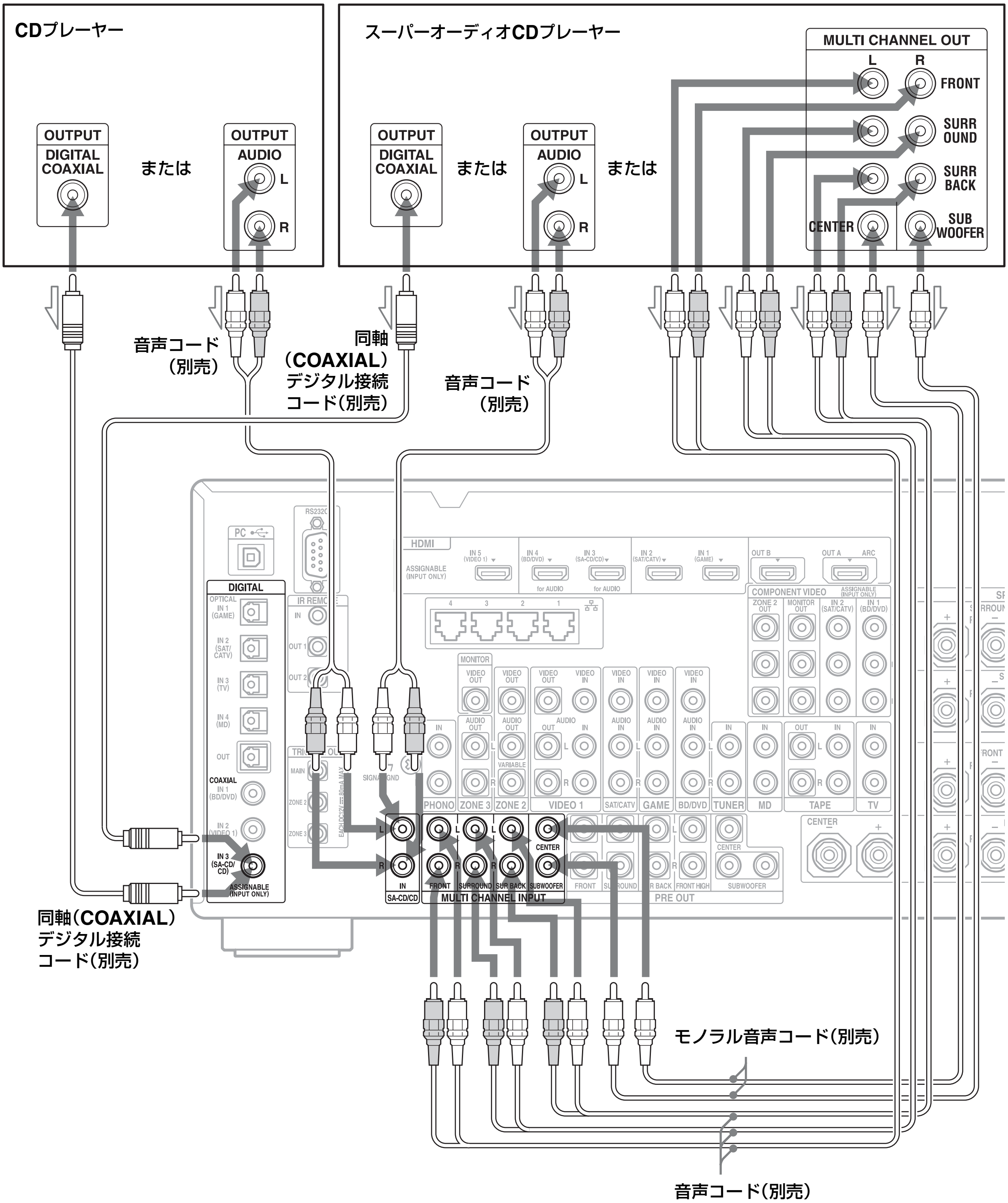
HDMI-DVI変換ケーブルの使用についてのご注意

- HDMI-DVI変換ケーブルの使用はおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルでDVI-D機器をつないだ場合、音声や映像が出力されないことがあります。音声が正しく出力されない場合は、他の種類の音声コードやデジタル接続コードでつなぎ、Input Settingsメニューにある「Video Input Assign」および「Audio Input Assign」の設定を行ってください。

準備 4：オーディオ機器を接続する

スーパーオーディオCDまたはCDを聞きたい

お持ちのスーパーオーディオCDプレーヤーなどにマルチチャンネル音声出力端子がある場合は、本機のMULTI CHANNEL INPUT端子につないで、マルチチャンネル音声を楽しむことができます。外部のマルチチャンネルデコーダーとつなぐためにMULTI CHANNEL INPUT端子を使用することもできます。
すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。



スーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生するときのご注意

本機のCOAXIAL SA-CD/CD IN端子につないだスーパーオーディオCDプレーヤーでスーパーオーディオCDを再生しても、音声は出力されません。スーパーオーディオCDのディスクを再生するには、本機のMULTI CHANNEL INPUTまたはSA-CD/CD IN端子につなぐか、HDMI端子からDSD信号を出力できる機器と本機をHDMIケーブルでつないでください。スーパーオーディオCDプレーヤーの取扱説明書もあわせて参照してください。

複数のデジタル機器を同時につなぎたいときに、空いている入力端子がない場合は

「他の映像／音声入力端子を使う」（70ページ）をご覧ください。

ご注意

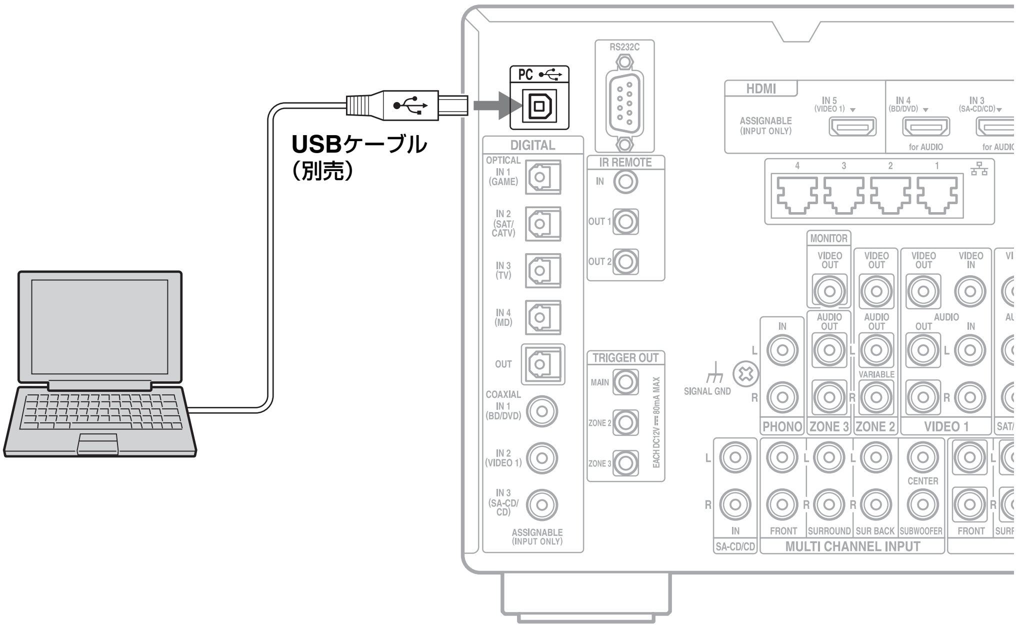
MULTI CHANNEL INPUT 端子に入力された音声信号は録音できません。

ちょっと一言

本機の DIGITAL 音声入力端子はすべて、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz のサンプリング周波数に対応しています。また、COAXIAL IN 端子は 192 kHz のサンプリング周波数にも対応しています.

つづく

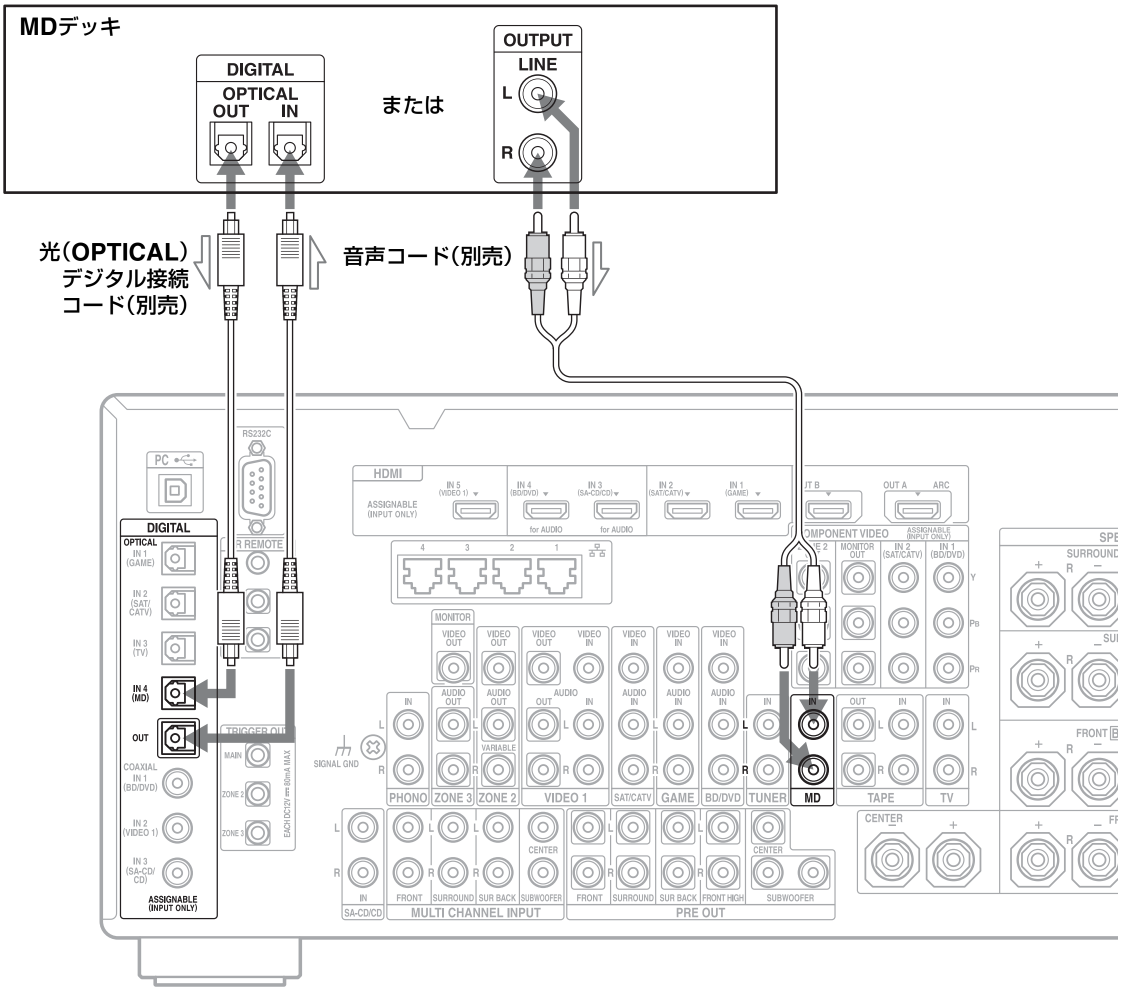
パソコンにあるコンテンツの音声を聞きたい



ご注意
パソコンを本機につなぐときは、タイプ A －タイプ B の USB
ケーブルをお使いください。

MDを聞きたい

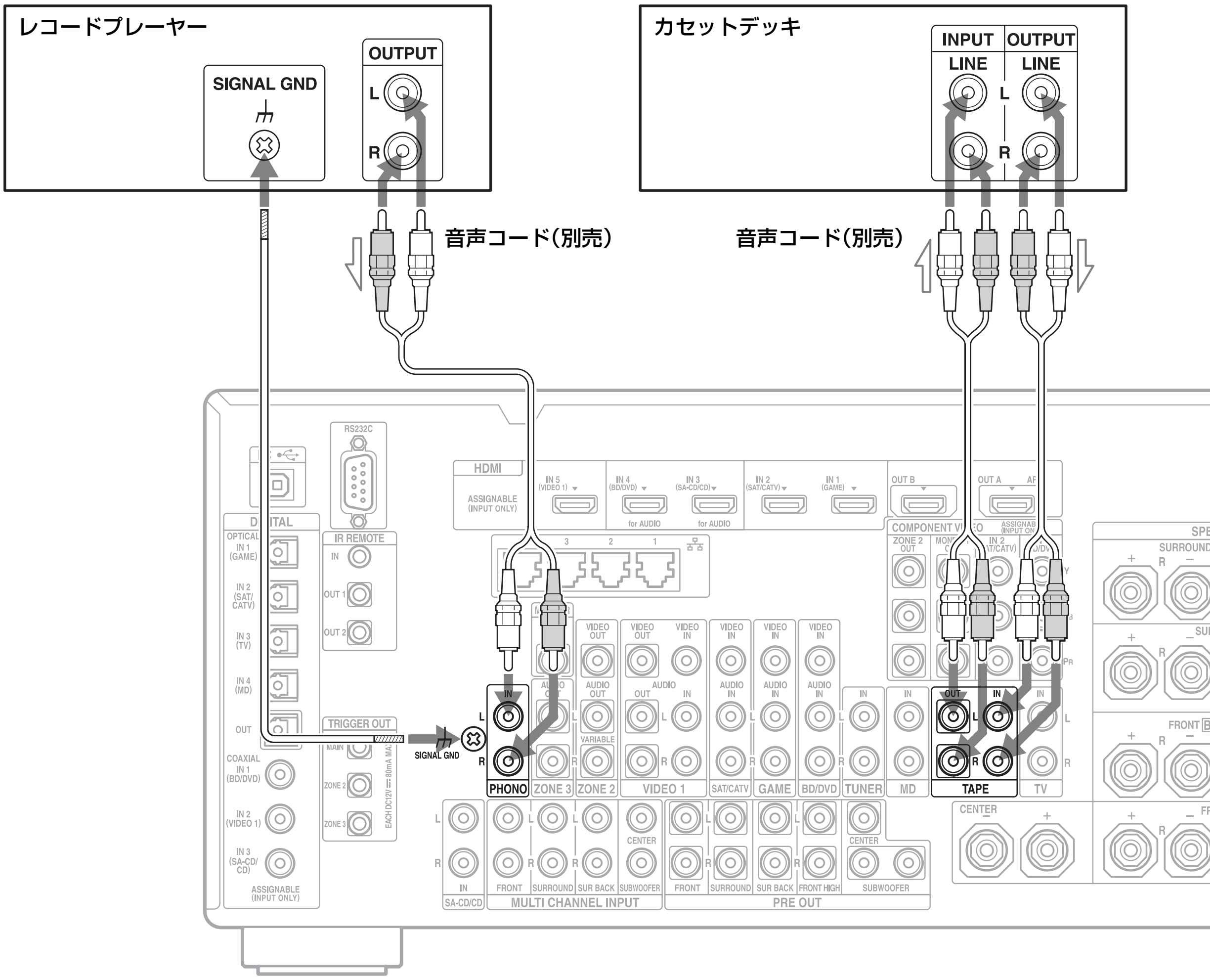
すべてのコードをつなぐ必要はありません。お持ちの機種にある端子に合わせてコードをつないでください。



ご注意

- 光デジタル接続コードをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル接続コードを折り曲げたり、結んだりしないでください。

レコードまたはカセットテープを聞きたい



ご注意

- お持ちのレコードプレーヤーにアース線が付いているときは、ハム音を防ぐために、アース線を本機の ⏚ SIGNAL GND 端子につないでください。
- 本機の PHONO 入力は MM カートリッジに対応しています。

準備 5：ネットワークに接続する

インターネット接続環境がある場合は、本機も有線LAN経由でインターネットに接続することができます。

必要なシステム構成

本機のネットワーク機能を使うには、以下のシステム環境が必要です。

ブロードバンド回線

インターネットビデオを楽しんだり、本機のソフトウェアアップデート機能を使ったりするためには、インターネットに接続できるブロードバンド回線が必要です。

モデム

ブロードバンド回線に接続し、インターネットで通信するための機器です。ルーターと一体型のモデムもあります。

ルーター

- ネットワーク上のコンテンツを楽しむためには、100 Mbpsの通信速度に対応したルーターをお使いください。
- DHCPサーバー機能内蔵のルーターをおすすめします。DHCPサーバー機能はLAN上のIPアドレスを自動的に割り当てるものです。

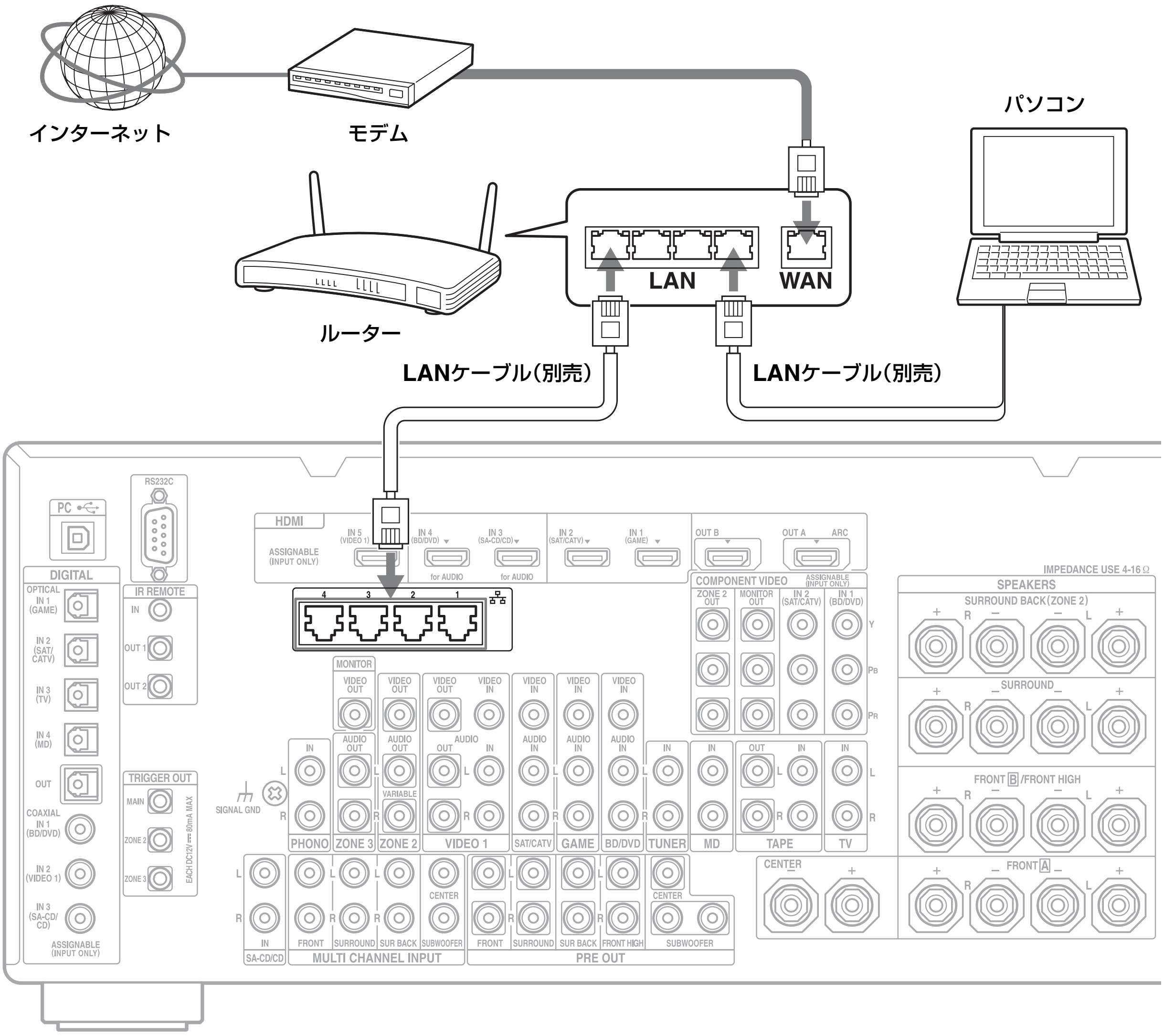
LANケーブル

- カテゴリー 5準拠のLANケーブルをおすすめします。フラットタイプのLANケーブルにはノイズの影響を受けやすいものがあります。ノーマルタイプのLANケーブルをおすすめします。
- 電気機器からの電源ノイズのある環境やノイズの多いネットワーク環境で本機をお使いの場合は、シールドタイプのLANケーブルをお使いください。

つづく

接続の例

本機とパソコンで構成したホームネットワークの接続例です。
有線での接続をおすすめします。



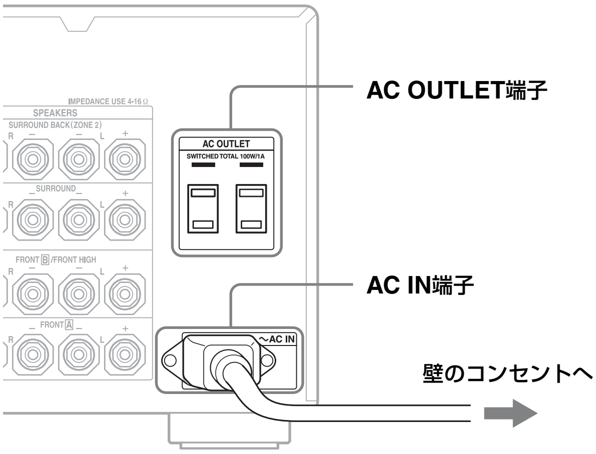
ご注意

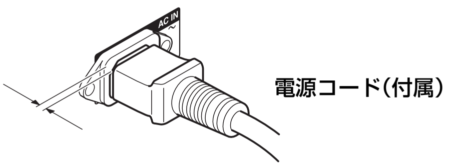
ルーターは 1 本の LAN ケーブルで本機のポート 1 から 4 のいずれか 1 つにつないでください。同じルーターと本機を 2 本以上の LAN ケーブルでつながないでください。故障の原因となります。

準備 6：本体とリモコンを準備する

電源コードをつなぐ

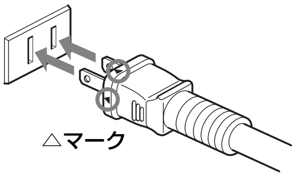
付属の電源コードを本機後面のAC IN端子に確実につなぎ、電源コードのプラグを壁のコンセントにつなぎます。
また、お持ちの機器の電源コードを本機の電源コンセント（AC OUTLET端子）につなぐことができます。





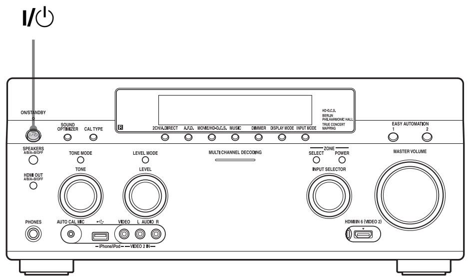
本機後面に電源コードを奥まで差し込んでも、プラグと本機後面の間に数ミリの隙間ができますが、これで正しくつながれています。

電源コードについて



付属の電源コードには、上の図の位置に△マークがあります。これはよりよい音質にするために、壁のコンセントの差し込み口との極性を合わせるためです。壁のコンセントの差し込み口に長短がある場合は、△マークのある側を長い穴に差し込んでください。

本機の電源を入れる



I/⏻ を押して本機の電源を入れる。

リモコンのI/⏻を押しても本機の電源を入れることができます。
電源を切るときは、もう一度I/⏻を押します。表示窓に「STANDBY」が点滅表示されます。点滅中には電源コードを抜かないでください。故障の原因となります。

スタンバイ状態にして電力消費を抑えるには

「Control for HDMI」（91ページ）、「Pass Through」（91ページ）、「Network Standby」（93ページ）および「RS232C Control」（96ページ）を「Off」に設定し、2ndゾーン3rdゾーンの電源を切ります。
「Control for HDMI」（91ページ）、「Pass Through」（91ページ）、「Network Standby」（93ページ）のいずれかを「On」に設定した場合、または2ndゾーン3rdゾーンの電源が入っている場合は、本機がスタンバイ状態時にI/⏻の上にあるランプがオレンジ色に点灯します。

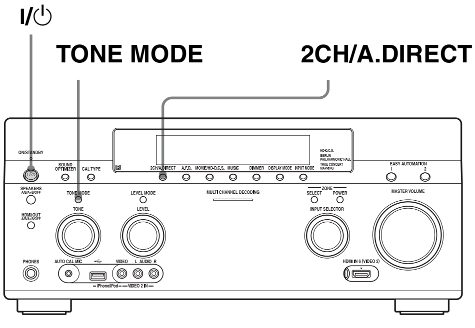
ご注意

- お持ちの機器の電源コードに極性がある（白線または刻印が付いている）ときは、白線のある側を本機の AC OUTLET の白線のある側（アース側）へ差し込みます。
- 本機後面の電源コンセント（AC OUTLET 端子）は連動（SWITCHED）です。本機の電源が入っているときのみ、つないだ機器に電源を供給できます。
- 2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンの電源が入っている場合は、メインゾーンがスタンバイ状態でも AC OUTLET 端子につないだ機器には電力が供給されます。
- AC OUTLET 端子につなぐ機器の消費電力の合計が 100W を超えないようにしてください。また、テレビや家電製品（アイロンなど）は、つながないでください。故障の原因となります。
- スタンバイ状態時は天板が熱くなることがあります。これは内部の回路が部分的に通電状態にあるためで、異常ではありません。

つづく

本機を初めてお使いになるときは（本機を初期設定状態にする）

本機を初めてお使いになるときは、必ず以下の手順で本機を初期設定状態にしてください。
また、本機をお使いになったあと、設定した内容などをお買い上げ時の状態に戻したいときも、以下の手順を行ってください。



1 I/⏻ を押して、本機の電源を切る。

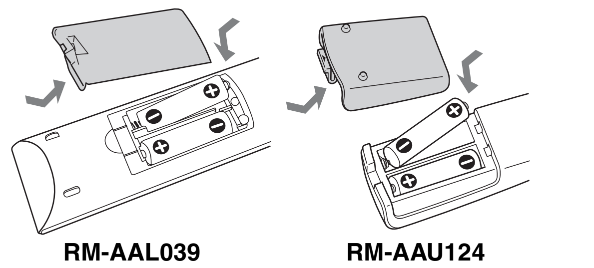
2 TONE MODE と 2CH/A.DIRECT を押しながら、I/⏻ を押して、本機の電源を入れる。

3 2、3 秒後に TONE MODE と 2CH/A.DIRECT を離す。

表示窓に「MEMORY CLEARING...」と表示されたあと、「MEMORY CLEARED!」と表示されます。
初期設定から変更、調整された設定はすべて初期化されます。

リモコンに電池を入れる

⊕と⊖の向きを合わせて、多機能リモコン、簡単リモコンのぞれぞれに単3形マンガン乾電池（付属）2個を入れます。



ご注意

- 初期化が完了するまで 1 分ほどかかります。表示窓に「MEMORY CLEARED!」と表示されるまで電源を切らないでください。
- 極端に温度や湿度の高い場所にリモコンを放置しないでください。
- 新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使わないでください。
- マンガン乾電池と他の種類の乾電池を混ぜて使わないでください。
- 長い間リモコンを使わないときは、液もれや腐食を避けるために乾電池を取り出してください。
- 電池交換時に、リモコンにプログラムした内容が消える場合があります。その場合は、再登録してください（103、106、108 ページ）。

準備 7：Easy Setup で初期設定を行う

画面の指示にしたがって操作するだけで、簡単に本機の基本的な初期設定を行うことができます。
テレビの入力を本機をつないだ入力に切り換えてください。
初めて本機の電源を入れたときは、ソフトウェア使用許諾がテレビ画面に表示されます*。ソフトウェア使用許諾に同意してからEasy Setup画面に進み、画面の指示にしたがって本機の設定を行ってください。
Easy Setupでは以下の機能を設定できます。
－ Speaker Settings（Auto Calibration）
－ Internet Settings

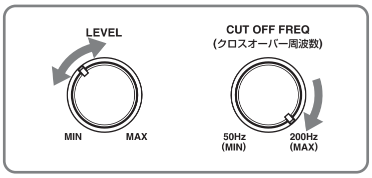
＊ソフトウェア仕様許諾が表示されない場合は、System Settings メニューの「EULA」からソフトウェア仕様許諾を表示させ、内容を確認のうえ同意してください。

Speaker Settings（Auto Calibration）についてのご注意

測定用マイクは本機のAUTO CAL MIC端子に確実に奥まで挿し込んでください。

アクティブサブウーファーの設定について

- アクティブサブウーファーをつないでいる場合は、電源を入れて、音量を上げておいてください。音量は、ボリューム（LEVEL）つまみを半分または半分よりやや小さめの位置にしてください。
- クロスオーバー周波数の設定機能がある場合は、最大に設定してください。
- オートオフ設定機能がある場合は、オフ（無効）にしてください。



2つのアクティブサブウーファーをつなぐときは

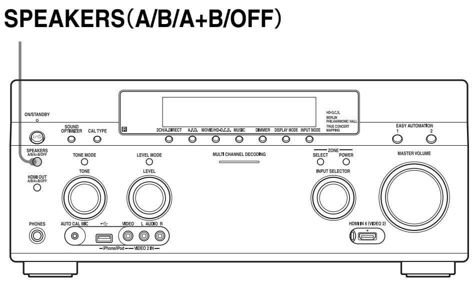
環境によってAuto Calibration機能の測定結果を正しく反映できない場合、または微調整をしたい場合は、アクティブサブウーファーを手動で設定できます。詳しくはSpeaker Settingsメニューの「Speaker Setup」（83ページ）をご覧ください。

スピーカーインピーダンスについてのご注意

- お使いのスピーカーのインピーダンスが不明のときは、スピーカーの取扱説明書を参照してください（通常、スピーカー後面にインピーダンスが表示されています）。
- すべて8Ω以上のスピーカーをつないだ場合は、「Impedance」を「8Ω」に設定してください。それ以外の場合は「4Ω」にしてください。
- FRONT AとFRONT B/FRONT HIGH端子の両方にスピーカーをつなぎ、FRONT B/FRONT HIGH端子につないだスピーカーをFRONT Bとして使う場合は、8Ω以上のスピーカーをつないでください。
  - 16Ω以上のスピーカーをAとB/FRONT HIGH端子の両方につないだときは、「Impedance」を「8Ω」に設定してください。
  - それ以外のときは、「4Ω」に設定してください。

フロントスピーカーを選ぶには

使用するフロントスピーカーを選びます。



SPEAKERS(A/B/A+B/OFF)を、くり返し押して、使用するフロントスピーカーシステムを選ぶ。
AまたはBどちらのスピーカー端子が選ばれているか、表示窓で確認することができます。

ご注意
- お使いになるアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の配置よりも遠くなることがあります。
- Easy Setup から「Speaker Settings（Auto Calibration）」を行うと、現在選ばれているポジションに測定結果が上書きされます（お買い上げ時は「Pos.1」が選ばれています）。
- フロントハイスピーカーありのスピーカーパターンを選んでいる場合は、SPEAKERS FRONT B/FRONT HIGH 端子は選べません。

ちょっと一言
アクティブサブウーファーの位置によって極性の判定が異なる場合があります。測定結果のままお使いいただいて問題ありませ

つづく

表示	選ばれるスピーカーシステム
SP A	FRONT A端子につないだスピーカー
SP B	FRONT B/FRONT HIGH端子につないだスピーカー
SP AB	FRONT AとFRONT B/FRONT HIGH端子につないだスピーカー（パラレル接続）
	表示窓に「SPEAKERS OFF」と表示されます。 すべてのスピーカー端子とPRE OUT端子から音声が出力されません。

本機をプリアンプとして使う場合は

本機をプリアンプとして使う場合も、Auto Calibration機能を使うことができます。
この場合、スピーカーの距離として表示される数値は、実際の距離と異なる場合がありますが、そのまま使って問題ありません。

測定を中止するには

以下の操作を行うと測定がキャンセルされます。

－ 電源 切
－ ボリューム操作
－ 入力切り換え
－ SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）切り換え
－ ヘッドホン接続

測定中は、上記以外の操作を行うことはできません。

本機を手動で設定するには

「設定を変更する」（78ページ）をご覧ください。

準備 8：接続機器の設定をする

マルチチャンネルデジタル音声を出力するには、デジタル音声設定を確認してください。
ソニー製ブルーレイディスクレコーダーでは、「HDMI音声出力」が「自動」、「ドルビーデジタル」が「ドルビーデジタル」、「DTS」が「DTS」に設定されていることを確認してください。（2011年9月1日現在）
プレイステーション3 では、「BD/DVD 音声出力フォーマット（HDMI）」、「BD 音声出力フォーマット（光デジタル）」がそれぞれ「ビットストリーム」に設定されていることを確認してください。（システムソフトウェア3.70の場合）
詳しくは機器に付属の取扱説明書を参照してください。

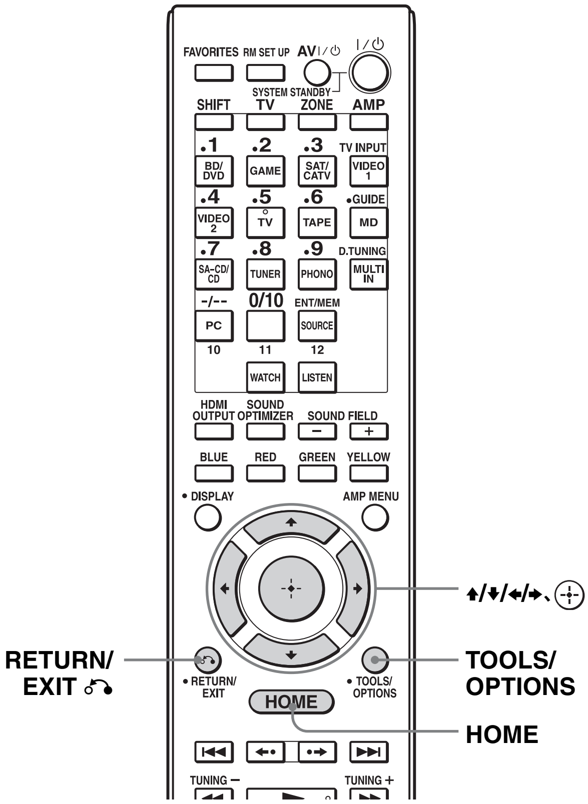
準備 9:パソコンをサーバーとして使う準備をする

サーバーとは、ホームネットワーク上のDLNA機器にコンテンツ（音楽、写真）を配信する機器です。
DLNA対応のサーバー機能を備えたソフトウェア*をパソコンにインストールすると、ホームネットワーク上のパソコンに保存されている音楽や写真を本機からネットワーク経由で再生することができます。

＊Windows 7 搭載のパソコンをお使いの場合は、Windows 7 に付属の Windows Media® Player 12 をお使いください。

画面操作のしかた

テレビ画面にメニューを表示して、↑/↓/←/→と⊕でお好みの機能を設定できます。

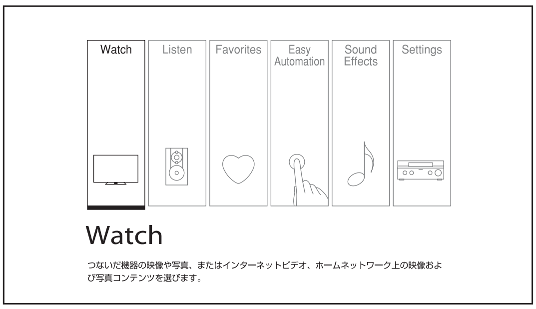


メニューの使いかた

1 テレビの入力を本機をつないだ入力に切り換える。

2 HOME を押す。

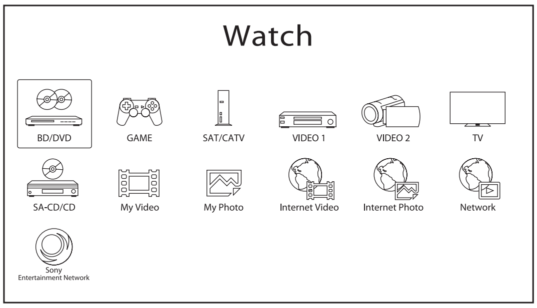
テレビ画面にホームメニューが表示されます。



3 ←/→ をくり返し押してお好みのメニューを選び、⊕を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

例：「**Watch**」の場合



前の表示画面に戻るには

RETURN/EXITを押します。

メニューを消すには

HOMEを押してホームメニューを表示し、もう一度HOMEを押します。

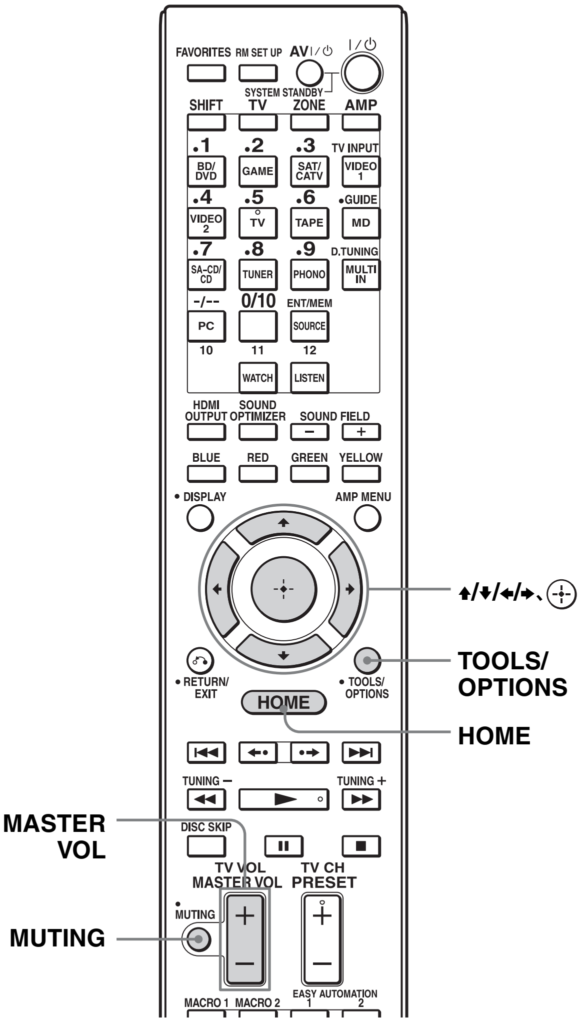
メニュー一覧

メニュー	内容
Watch	本機に入力されている映像、写真ソース、またはインターネットビデオやホームネットワークの写真コンテンツを選びます（47ページ）。
Listen	本機に入力されている音楽ソース、またはインターネットビデオやホームネットワークの音楽コンテンツを選びます（47ページ）。
Favorites	「お気に入り一覧」に登録されたインターネットコンテンツを表示します。最大18のインターネットコンテンツを登録できます（51ページ）。
Easy Automation	本機のさまざまな設定を一括して保存したり呼び出したりできます（72ページ）。
Sound Effects	ソニー独自のさまざまな音響技術や機能を楽しめます（54ページ）。
Settings	本機の設定を調節できます（78ページ）。

ちょっと一言

画面の右下に「●Option」が表示されたときは、TOOLS/OPTIONS を押してオプションメニューを表示できます。関連する機能をメニューから選び直すことなく簡単に変更できます。

つないだ機器の映像／音声を楽しむ



1 ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、⊕を押す。

メニュー項目の一覧が表示されます。

2 再生したい機器を選び、⊕を押す。

3 本機につないだ機器の電源を入れ、再生する。

4 MASTER VOL ＋/－を押して、音量を調節する。

音を一時的に消すには

リモコンのMUTING を押します。解除するには、MUTING をもう一度押します。またはMASTER VOL＋を押して音量を上げます。消音中に本体の電源を切ると、消音機能は解除されます。

スピーカーの破損を防ぐために

電源を切る前に音量を最小にしておいてください。

ちょっと一言

本体の MASTER VOLUME を回す速さ、およびリモコンの MASTER VOL ＋ / －を押す時間の長さによって、音声の調節量を変えられます。

- 音量を早く上げ／下げするには
  - 本体の MASTER VOLUME を速く回す。
  - リモコンの MASTER VOL ＋ / －を押し続ける。
- 音量を微調整するには
  - 本体の MASTER VOLUME をゆっくり回す。
  - リモコンの MASTER VOL ＋ / －を短く押す。

PC

パソコンで再生した音声を本機から高音質で出力できます。

必要なシステム構成

オペレーティングシステム

Windows 7（32 bit/64 bit）
Windows Vista（SP1、32 bit/64 bit）
Windows XP（SP1/SP2/SP3、32 bit）
Mac OS X v10.6.5-10.6.6

デバイス

USBポート（USB 2.0準拠）

パソコンのコンテンツを再生する

1 ホームメニューから「Listen」を選び、⊕を押す。

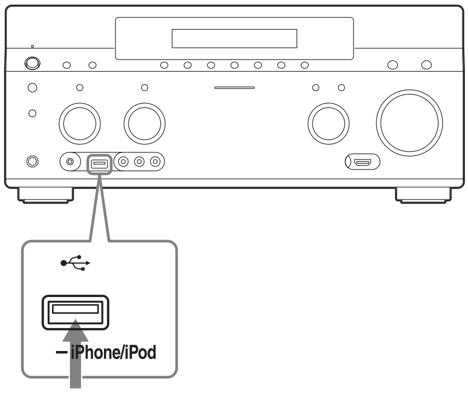
2 「PC」を選び、⊕を押す。

3 パソコンのアプリケーション（Windows Media® Player など）で音楽ファイルを再生する。

USB デバイス／ウォークマン

接続したUSBデバイスの映像／音楽／写真ファイルを再生できます。
再生できるファイルの種類については、「再生可能なファイル」（123ページ）をご覧ください。

1 本機の⇠（USB）ポートに USB デバイスをつなぐ。



USBデバイス

2 ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、⊕を押す。

3 「My Video」、「My Music」または「My Photo」を選び、⊕を押す。

何も表示されない場合には、「Playback Resolution」（89ページ）の設定を変更してください。

4 「USB 機器」を選び、⊕を押す。

テレビ画面に映像／音楽／写真ファイルが一覧表示されます。

5 ↑/↓/←/→ と⊕で再生したいファイルを選ぶ。

USBデバイスのコンテンツが本機で再生されます。

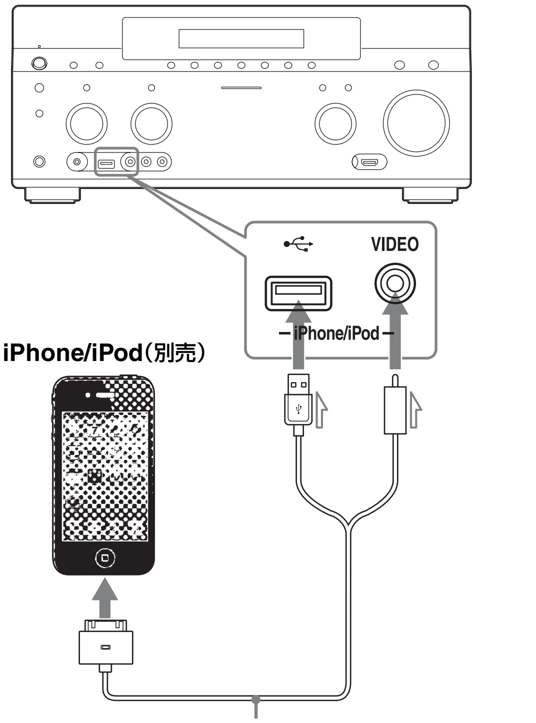
ご注意

- 上記の動作環境において、すべてのパソコンについて動作保証するものではありません。
- 自作 PC および OS の個人でのアップグレード、マルチブート環境での動作保証はいたしません。
- すべてのパソコンに対して、システムサスペンド、スリープ、ハイパーネーションなどの動作を保証するものではありません。
- パソコンを初めて本機につないだときは、本機が有効な USB デバイスとして認識されるまでに多少の時間がかかります。
- 操作中に USB デバイスを取りはずさないでください。データが破損するのを避けるために、USB デバイスを取りはずすときは本機の電源を切ってください。
- ウォークマンを本機につないだ場合は、他の USB デバイスをつないだときと同じように本機のリモコンで操作してください。ウォークマンでの操作はできません。

iPhone/iPod

本機でiPhone/iPodの映像／音楽／写真ファイルを再生したり、iPhone/iPodを充電したりできます。
この機能に対応するiPhone/iPodの機種については52ページをご覧ください。
再生時はヘッドホンを使用できません。

1 **本機の⭠(USB)ポートに iPhone/iPod をつなぐ。**



2 **ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、⊕を押す。**

3 **「My Video」、「My Music」または「My Photo」を選び、⊕を押す。**

何も表示されない場合には、「Playback Resolution」（89ページ）の設定を変更してください。

4 **「iPod(前面)」を選び、⊕を押す。**

テレビ画面に映像／音楽ファイルが一覧表示されます。
「My Photo」で「iPod（前面）」を選んだ場合は、iPhone/iPodを操作して写真ファイルを選んでください（手順5を行う必要はありません）。

5 **↑/↓/←/→ と⊕で再生したいファイルを選ぶ。**

iPhone/iPodのコンテンツが本機で再生されます。
リモコンを使ってiPhone/iPodを操作できます（52ページ）。
iPhone/iPodの操作の詳細については、iPhone/iPodの取扱説明書を参照してください。

DLNA

本機でホームネットワークに接続した他のDLNA認定デバイスの音楽／写真ファイルを再生できます。

1 **ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、⊕を押す。**

2 **「My Music」または「My Photo」を選び、⊕を押す。**

何も表示されない場合には、「Playback Resolution」（89ページ）の設定を変更してください。

3 **DLNA サーバーアイコンを選び、⊕を押す。**

テレビ画面にフォルダーおよび音楽／写真ファイルが一覧表示されます。

4 **↑/↓/←/→ と⊕で再生したいファイルを選ぶ。**

DLNA機器のコンテンツが本機で再生されます。

インターネットビデオ

本機でインターネット上のさまざまなコンテンツを再生できます。

1 **本機をネットワークに接続する（39 ページ）。**

2 **ホームメニューから「Watch」または「Listen」を選び、⊕を押す。**

3 **「Internet Video」、「Internet Music」または「Internet Photo」を選び、⊕を押す。**

インターネットコンテンツ画面が表示されます。

何も表示されない場合には、「Playback Resolution」（89ページ）の設定を変更してください。

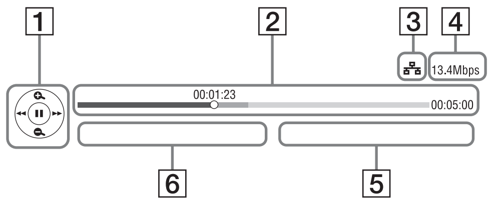
4 **インターネットコンテンツプロバイダーを選び、⊕を押す。**

インターネットコンテンツの一覧が取得されていない場合は、未取得アイコンまたは新アイコンで表示されます。

コントロールパネルを使うには

映像ファイルの再生開始時にコントロールパネルが表示されます。インターネットコンテンツプロバイダーによって、表示される項目は異なります。

コントロールパネルを再表示するには、DISPLAYを押します。



1 **操作ディスプレイ**

↑/↓/←/→と⊕を押して再生操作を行います。

2 **再生ステータスバー**

ステータスバー、再生中の位置表示、再生経過時間、映像ファイルの収録時間

3 **ネットワーク状況表示**

4 **ネットワーク接続速度**

5 **次の映像ファイル名**

6 **再生中の映像ファイル名**

お気に入りのコンテンツを登録する

「お気に入り一覧」にお気に入りのインターネットコンテンツを登録できます。

1 **インターネットコンテンツ画面を表示する。**

2 **「お気に入り一覧」に登録したいインターネットプロバイダーアイコンを選び、TOOLS/OPTIONS を押す。**

3 **「お気に入りに登録」を選び、⊕を押す。**

お気に入り一覧からコンテンツを削除するには

1 FAVORITES を押す。
「お気に入り一覧」が表示されます。

2 「お気に入り一覧」から削除したいインターネットプロバイダーアイコンを選び、TOOLS/OPTIONSを押す。

3 「お気に入りから消去」を選び、⊕を押す。

オプション一覧

項目	詳細
お気に入り一覧	「お気に入り一覧」を表示します。
お気に入りに登録	インターネットコンテンツを「お気に入り一覧」に追加します。
お気に入りから消去	インターネットコンテンツを「お気に入り一覧」から削除します。
IPコンテンツノイズリダクション	インターネットコンテンツの画質を調整します。

ご注意
インターネットコンテンツは、予告なしに中止または変更になることがあります。

iPhone/iPod 内のファイルを再生する

対応iPhone/iPod

対応しているiPhone/iPodの機種は以下のとおりです。本機につないで使用する前にiPhone/iPodを最新のソフトウェアにアップデートしてください。

- iPod touch
  iPod touch 4th generation/iPod touch 3rd generation/iPod touch 2nd generation/iPod touch 1st generation
- iPod nano
  iPod nano 6th generation/iPod nano 5th generation（ビデオカメラ）/iPod nano 4th generation（ビデオ）/iPod nano 3rd generation（ビデオ）/iPod nano 2nd generation（アルミニウム）/iPod nano 1st generation
- iPod
  iPod 5th generation（ビデオ）/iPod classic
- iPhone
  iPhone 4/iPhone 3GS/iPhone 3G/iPhone

リモコンでiPhone/iPodを操作するには

iPhone/iPodをリモコンのボタンで操作できます。以下の表は使用できるボタンの例を示しています。（iPhone/iPodの機種によっては、操作が異なることがあります。）

「My Video」／「My Music」

ボタン	操作
►	再生開始
❚❚	再生一時停止
■	再生停止
◄◄または►►	早戻し、早送り
⏮または⏭	前／後のファイルまたはチャプターに移動

「My Photo」

ボタン	操作
►、❚❚	再生開始／一時停止
■	再生一時停止
◄◄または►►	早戻し、早送り
⏮または⏭	前／後のファイルに移動
DISPLAY	バックライトを点灯（または点灯を30秒延長）
TOOLS/OPTIONS	iPhone/iPodの前の画面、上のフォルダー階層に戻る
RETURN/EXIT ↶、←	本機GUIの前の画面に戻る
↑/↓	前／後のアイテム選択
⊕、→	選択アイテム確定

ご注意
- 本機から iPhone/iPod に曲を転送することはできません。
- 本機につないだ iPhone/iPod を使用中に iPhone/iPod に保存されたデータが消失、破損しても、弊社では一切の責任を負いません。
- 本製品は iPhone/iPod 専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定されています。
- 操作中に iPhone/iPod を取りはずさないでください。データが破損するのを避けるために、iPhone/iPod を接続または取りはずすときは本機の電源を切ってください。
- 映像出力に対応していない iPod をつないで「My Video」または「My Photo」で「iPod（前面）」を選ぶと、警告メッセージがテレビ画面に表示されます。

ちょっと一言
- 本機の電源が入っている間、本機につないだ iPhone/iPod は充電されます。
- 本機は 3,000 ファイルまで認識できます（フォルダー含む）。

ホームネットワーク上のファイルを再生する(DLNA)

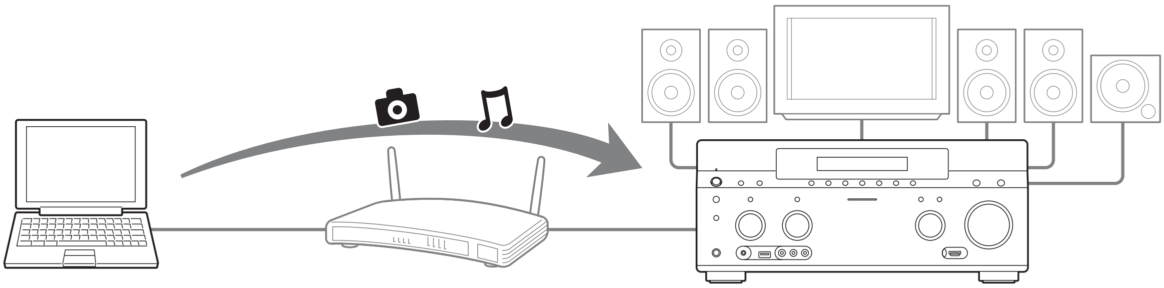
本機はプレーヤーおよびレンダラーとして働きます。
- サーバー：ファイルを保存、配信します。
- プレーヤー：サーバーからファイルを受信、再生します。
- レンダラー：サーバーからファイルを受信、再生します。また、他のデバイス（コントローラー）で操作することができます。
- コントローラー：レンダラー機器を操作します。

DLNA機能を使うための準備

- 本機をホームネットワークに接続してください（39ページ）。
- 他のDLNA認定機器を準備してください。詳しくは、機器の取扱説明書を参照してください。

DLNAコントローラーで本機(レンダラー)を操作してファイルを再生するには

DLNAサーバーに保存されているファイルの再生時に、本機をDLNA認定のコントローラー（Windows Media® Player 12など）で操作できます。



本機をDLNAコントローラーで操作してください。操作について詳しくは、DLNAコントローラーの取扱説明書を参照してください。

ご注意
- コントローラーおよび付属のリモコンから同時に本機を操作しないでください。

ちょっと一言
本機は Windows 7 に標準装備されている Windows Media® Player 12 の「Play To」機能に対応しています。

サウンドフィールドを選ぶ

1 ホームメニューで「Sound Effects」を選び、⊕を押す。

2 「Sound Field」を選んで、⊕を押す。

3 お好みのサウンドフィールドを選ぶ。

2チャンネル音声で再生する

音楽ソフトの記録フォーマットやつないだ再生機器、サウンドフィールドなどに関係なく、2チャンネル音声出力に切り換えられます。

2チャンネルモード	効果
2ch Stereo	フロントL/Rの2本のスピーカーのみから音を出します。アクティブサブウーファーからは音が出ません。 標準的な2チャンネルステレオ音声は、サウンドフィールドの回路を通さずに再生します。マルチチャンネル音声は、2チャンネルにダウンミックスして再生します。
2ch Analog Direct	選んでいる入力の音声を、2チャンネルのアナログ入力に切り換えます。高品質のアナログ音声を楽しむことができます。 この機能を使っているときは、音量とフロントスピーカーのバランスのみ調節できます。

ヘッドホンで聞いている場合には

サウンドフィールド	効果
Headphone（2ch）	「2ch Analog Direct」以外のモードでヘッドホンを使用すると自動的に選ばれます。通常の2チャンネルステレオ音源は一切サウンドフィールドの処理を行わず、マルチチャンネルのサラウンド音声は2チャンネルにダウンミックスして出力されます。
Headphone（Direct）	音色、サウンドフィールドなどの処理を行わずに、アナログ音声を出力します。
Headphone（Multi）	「MULTI IN」が選ばれているときにヘッドホンを使用すると、自動的に選ばれます。MULTI CHANNEL INPUT端子のFRONT L/R端子に入力された信号を出力します。

マルチチャンネルサラウンドで再生する

A.F.D.（オートフォーマットダイレクト）モードを使って、録音またはエンコードされたままのソフトの音を再現します。また、2チャンネルステレオ音声をマルチチャンネルで聞くためのデコードモードを選ぶことができます。

A.F.D.モード	効果
A.F.D. Auto	サラウンド効果なしで録音またはエンコードされたままの音声として処理します。
Multi Stereo	2チャンネルの信号に対し、L/R成分をすべてのスピーカーから出力します。

ちょっと一言
通常は「A.F.D. Auto」の使用をおすすめします。

映画用のサラウンド効果を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、映画館の臨場感を再現できます。

サウンドフィールド	効果
HD-D.C.S.	HD Digital Cinema Sound（HD-D.C.S.）は、マスタリングスタジオの緻密な計測データに基づき、ソニーが最新の音響およびデジタル信号処理技術を用いて新たに開発した劇場音響再現技術です。 HD-D.C.S.によって、ご自宅でブルーレイディスクやDVDの映画ソフトの高音質に加えて、マスタリング時にエンジニアが意図した最良の音場も楽しむことができます。 HD-D.C.S.のエフェクトタイプを選ぶこともできます。詳しくは下記「HD-D.C.S.のエフェクトタイプについて」をご覧ください。
PLII Movie	ドルビープロロジックIIのムービーモード処理を行います。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども5.1チャンネルで再生できます。
PLIIx Movie	ドルビープロロジックIIxのムービーモード処理を行います。2チャンネルまたは5.1チャンネルの音源を7.1チャンネルにデコードします。ドルビーサラウンド・エンコードされた映画音声の再生に適しています。また、吹き替え版や古い映画のビデオなども7.1チャンネルで再生できます。
PLIIz Height	ドルビープロロジックIIzの処理を行います。音源に垂直方向の成分を加えた最大9.1チャンネルに拡張し、立体感と奥行きを表現できます。「PLIIz Height」は、56ページ記載のサウンドフィールドと同一のモードです。「PLIIz Height」のゲインレベルを調整することもできます。詳しくは「PLIIz Heightのゲインレベルについて」（56ページ）をご覧ください。
Neo:X Cinema	DTS Neo:Xのシネマモード処理を行います。2～7.1チャンネルの音源を最大9.1チャンネルに拡張します。

HD-D.C.S.のエフェクトタイプについて

HD-D.C.S.には異なる3種類のタイプ（「Dynamic」、「Theater」、「Studio」）があります。各タイプは反響音と残響音の異なるミックスレベルが設定されており、鑑賞者の部屋の特性や好み、雰囲気に合わせて最適な調節をすることができます。

■Dynamic

残響は多い反面、広い音場感の乏しい環境（音が充分に吸収されていない環境）向けです。反射音を強調し、大型で古いタイプの映画館を再現します。どのような環境でもダビングスタジオのような広さを強調し、独特の音場感を作り出します。

■Theater

お買い上げ時の設定。一般のリビング向けです。映画館（ダビングシアター）の残響量を再現します。Blu-ray Discを映画館の雰囲気で鑑賞するのに最適なタイプです。

■Studio

適切に調整されたリスニングルーム向けです。劇場用音源をブルーレイディスク用として家庭に適した音量にリミックスする際の残響感を再現します。反射、残響は特に意識しないレベルになっていますが、セリフやサラウンド効果が生き生きと再生されます。

つづく

音楽用のサラウンド効果を楽しむ

本機にあらかじめ設定されているサウンドフィールドを選ぶだけで、簡単にサラウンド効果を楽しめます。ご自分の部屋で、コンサートホールの臨場感を再現できます。

サウンドフィールド	効果
Berlin Philharmonic Hall	ベルリンフィルハーモニックホールの音響特性を再現します。また、インターネットサービス「ベルリンフィルデジタルコンサートホール」の受信と連動して自動的に働きます。
True Concert Mapping A	反射によって作られる大きなサウンドステージが特徴的なオランダ アムステルダムのコンサートホールの音響特性を再現します。エフェクトレベルを調節することもできます。詳しくは下記「True Concert Mapping A/Bのエフェクトレベルについて」をご覧ください。
True Concert Mapping B	ホールの残響が特徴的なオーストリア ウィーンのコンサートホールの音響特性を再現します。エフェクトレベルを調節することもできます。詳しくは下記「True Concert Mapping A/Bのエフェクトレベルについて」をご覧ください。
Jazz Club	ジャズクラブの音響を再現します。
Live Concert	300席あるライブハウスの音響を再現します。
Stadium	屋外のスタジアムの雰囲気を再現します。
Sports	スポーツ中継放送の雰囲気を再現します。
Vocal Height	フロントハイスピーカーを使用して、音像を持ち上げることができます。大画面で音楽コンテンツを楽しむのに適しています。
Portable Audio	ポータブルオーディオ機器から、よりクリアな音像を再現します。MP3やその他の圧縮された音源に適しています。
PLII Music	ドルビープロロジックIIのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。
PLIIx Music	ドルビープロロジックIIxのミュージックモード処理を行います。CDなど通常のステレオ音源に適しています。
PLIIz Height	ドルビープロロジックIIzの処理を行います。音源に垂直方向の成分を加えた最大9.1チャンネルに拡張し、立体感と奥行きを表現できます。「PLIIz Height」は、55ページ記載のサウンドフィールドと同一のモードです。「PLIIz Height」のゲインレベルを調整することもできます。詳しくは下記「PLIIz Heightのゲインレベルについて」をご覧ください。
Neo:X Music	DTS Neo:Xのミュージックモード処理を行います。2～7.1チャンネルの音源を最大9.1チャンネルに拡張します。
Neo:X Game	DTS Neo:Xのゲームモード処理を行います。2～7.1チャンネルの音源を最大9.1チャンネルに拡張します。

True Concert Mapping A/Bのエフェクトレベルについて

「True Concert Mapping A/B」の残響レベルを設定できます。この機能は、フロントハイスピーカーありのスピーカーパターンで、かつ「Sound Field Mode」が「Front High」に設定されているときに働きます。

■Low

残響音量を小さくします。

■Mid

お買い上げ時の残響音量設定です。

■High

残響音量を大きくします。

PLIIz Heightのゲインレベルについて

PLIIz Heightモード（映画用／音楽用共通）用フロントハイチャンネルのゲインレベルを調節することができます。

■Low

ゲインレベルを±0 dBにします。

■Mid

ゲインレベルを+3 dBにします（初期設定）。

■High

ゲインレベルを+5 dBにします。

Sound Field Mode

フロントハイスピーカーから音を出力するかどうかを設定します。
この機能は以下のいずれかのサウンドフィールドが選ばれ、かつフロントハイスピーカーありのスピーカーパターンのときに働きます。
– HD-D.C.S.
– Berlin Philharmonic Hall
– True Concert Mapping A/B
– Jazz Club
– Live Concert
– Stadium
– Sports
– Neo:X Cinema/Music/Game

■Front High

フロントハイスピーカーを含むスピーカーから出力します（初期設定）。
本機のSURROUND BACK (ZONE 2)端子とFRONT B/FRONT HIGH端子それぞれににサラウンドバックスピーカーおよびフロントハイスピーカーをつないでいる場合は、サラウンドバックスピーカーから音は出ません。

■Standard

フロントハイスピーカーを除くスピーカーから出力します。

サウンドフィールドについてのご注意

- サウンドフィールドは「MULTI IN」が選ばれている場合は機能しません。
- USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを再生している場合は、「2ch Analog Direct」は選べません。
- 「Multi Stereo」は、マルチチャンネル音声信号が入力されている場合は機能しません。
- 映画用および音楽用のサウンドフィールドは、選んでいる入力やスピーカーパターン、音声フォーマットによっては働かないことがあります。
- 音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。
- 選んでいるスピーカーパターンによっては、「PLIIx Movie/Music」、「PLIIz Height」および「Vocal Height」は表示されません。
- サウンドフィールドの設定によっては、一部のスピーカーやアクティブサブウーファーから音が出力されないことがあります。
- 選んだサウンドフィールドによっては、音源のノイズが目立つことがあります。
- サンプリング周波数が32 kHzの信号を受信している場合は、「Neo:X（Cinema/Music/Game）」は機能しません。

ご注意
「Sound Field Mode」を「Front High」に設定しても、設定や音声フォーマットによってはフロントハイスピーカーから音が出力されないことがあります。

Sound Optimizer 機能を使う

Sound Optimizerは、音量にかかわらず臨場感や躍動感を大きな音量の場合と同等にする機能です。夜間などに、小さな音量でもクリアでダイナミックな音を楽しめます。
Auto Calibration機能を実行後、環境に最適な効果に調整されます。

1 ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押す。

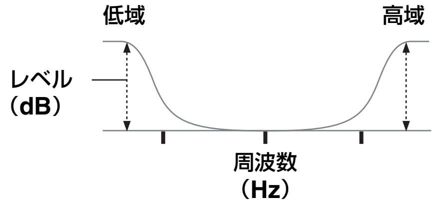
2 「Audio Settings」を選び、⊕を押す。

3 「Sound Optimizer」を選び、⊕を押す。

4 「On」を選び、⊕を押す。
Sound Optimizer機能が働きます。
リモコンのSOUND OPTIMIZERでもSound Optimizer機能を入／切できます。

イコライザーを調整する

下記のパラメーターを使って、各スピーカー（フロント、センター、サラウンド／サラウンドバック、フロントハイ）の音質（低域／高域のレベル）を調節できます。



1 ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押す。

2 「Audio Settings」を選び、⊕を押す。

3 「Equalizer」を選び、⊕を押す。

4 「Front」、「Center」、「Sur/SB」、「Front High」のいずれかを選び、⊕を押す。

5 「Bass」または「Treble」を選ぶ。

6 ゲインを調節し、⊕を押す。

ご注意

- Sound Optimizer 機能は以下の場合、働きません。
  – 「MULTI IN」が選ばれている。
  – 「2ch Analog Direct」を使用している。
  – ヘッドホンを使用している。
- Sound Optimizer 機能を使用時、音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。
- 以下の場合、イコライザーは調節できません
  – 「MULTI IN」が選ばれている。
  – 「2ch Analog Direct」を使用している。

Advanced Auto Volume を使う

コンテンツごとの音量差を自動的に補正します。例えばテレビ番組よりコマーシャルの音量が大きいときなどに便利な機能です。

1 ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押す。

2 「Audio Settings」を選び、⊕を押す。

3 「Advanced Auto Volume」を選び、⊕を押す。

4 「On」を選び、⊕を押す。

ご注意

- Advanced Auto Volume 機能を切るときは、必ず事前に音量を下げてください。
- Advanced Auto Volume 機能は以下の場合、働きません。
  - 「MULTI IN」が選ばれている。
  - 「2ch Analog Direct」を使用している。
- Advanced Auto Volume 機能を使用時、音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。

マルチゾーン機能でできること

本機を設置した場所（メインゾーン）とは別の場所で、本機につないだ機器の映像や音声を楽しむことができます。例えば、リビング（メインゾーン）でブルーレイディスクを見て、寝室（2ndゾーン）でDVDレコーダーに録画したテレビ番組を見ることができます。

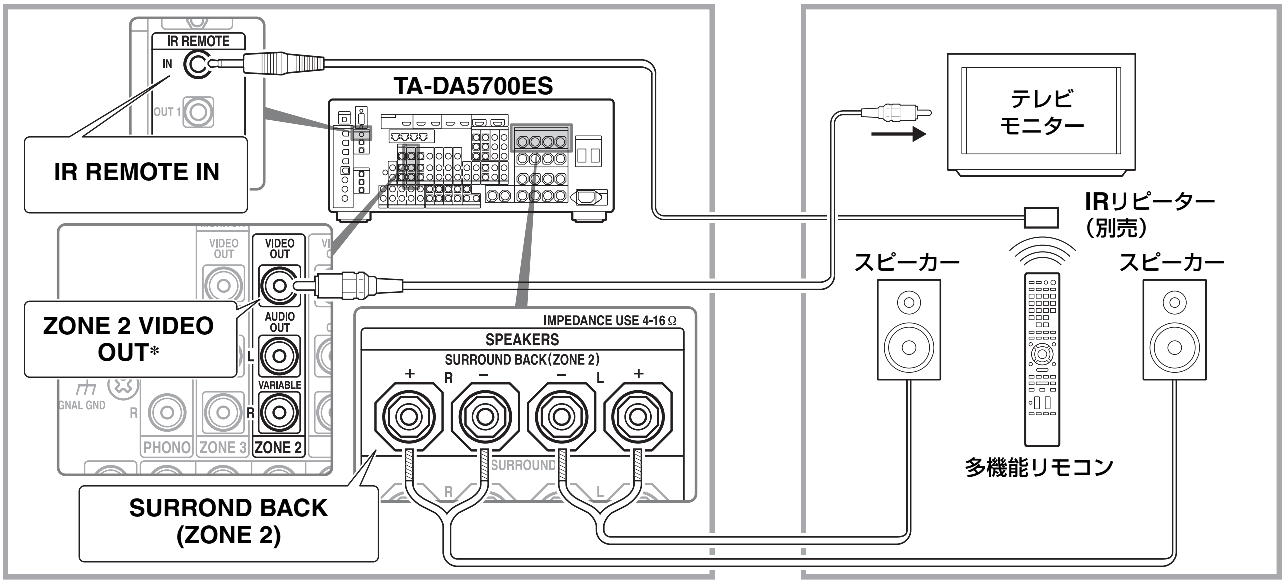
IRリピーター（別売）を使うと、2ndゾーンまたは3rdゾーンから、メインゾーンにある機器と2ndゾーンまたは3rdゾーンにあるソニー製のアンプの両方をリモコンで操作することができます。
リモコンの信号が届かない場所に本機を設置している場合は、IRリピーターをお使いください。

マルチゾーン接続をする

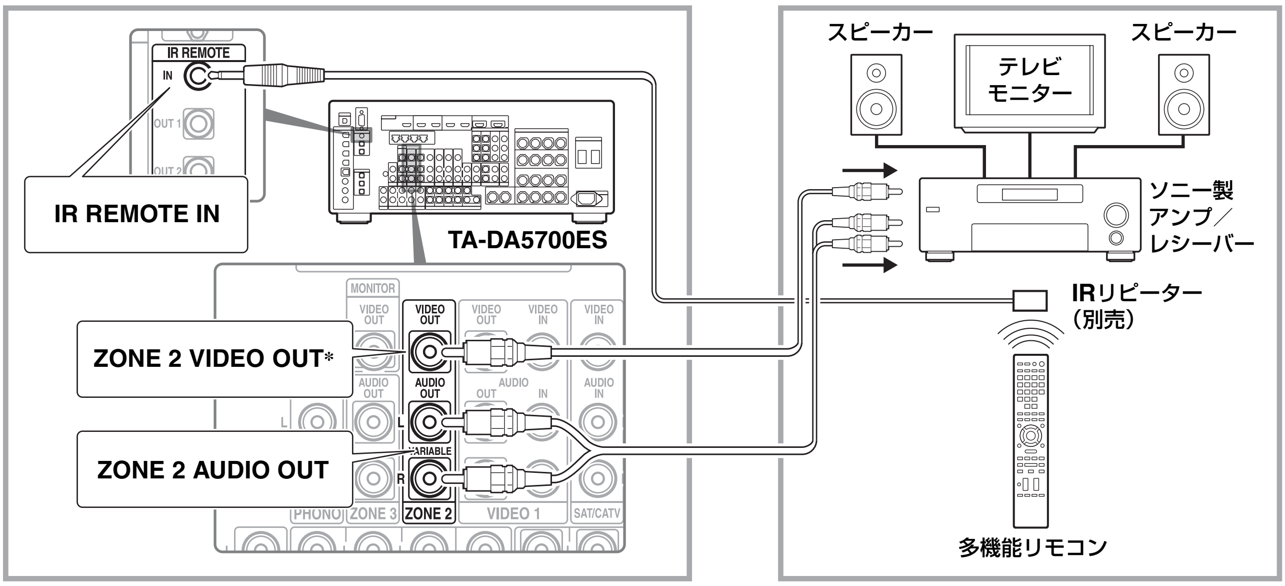
ZONE 2 OUT およびZONE 3 OUT 端子からは、本機のアナログ入力端子につないだ機器の信号のみ出力されます。本機のデジタル入力端子にのみつないだ機器の信号は出力されません。

1：2ndゾーンの接続

①本機のSURROUND BACK (ZONE 2)端子を使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには



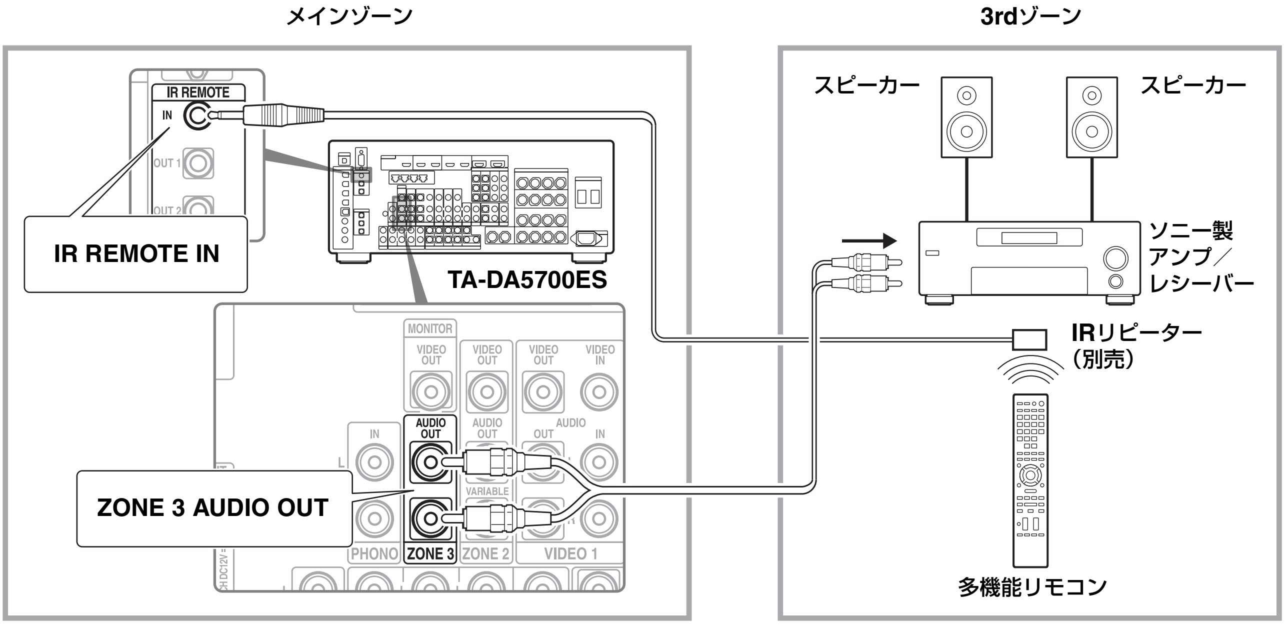
②本機と、もう1台のアンプを使用して、2ndゾーンにあるスピーカーから音声を出力するには



＊ZONE 2 COMPONENT VIDEO OUT 端子にもつなぐことができます。

つづく

2：3rdゾーンの接続



メインゾーン
3rdゾーン
IR REMOTE
IN
OUT 1
OUT 2
IR REMOTE IN
TA-DA5700ES
MONITOR
VIDEO OUT
VIDEO OUT
VIDEO OUT
VIDEO IN
AUDIO OUT
AUDIO OUT
AUDIO
OUT
IN
IN
VARIABLE
ZONE 3 AUDIO OUT
PHONO
ZONE 3
ZONE 2
VIDEO 1
スピーカー
スピーカー
ソニー製
アンプ／
レシーバー
IRリピーター
（別売）
多機能リモコン

2nd ゾーンのスピーカーを設定する

2ndゾーンのスピーカーをSURROUND BACK (ZONE 2)端子につないでいるときに（61ページ）、2ndゾーンで選んだ音声がSURROUND BACK (ZONE 2)端子につないだスピーカーから出力されるように設定します。
詳しくは、Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」（83ページ）をご覧ください。

2ndゾーンの音量調節の設定をする

ZONE 2 AUDIO OUT端子の音量調節を可変または固定に設定します。

1 ホームメニューから「Settings」を選び、⊕をを押す。

2 「Zone Settings」を選び、⊕を押す。

3 「Zone Setup」を選び、⊕を押す。

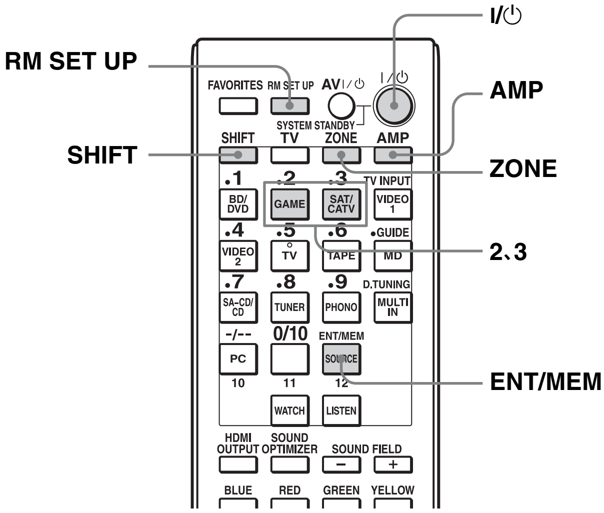
4 「Zone2」の「Line Out」を選び、⊕を押す。

5 お好みの設定を選び、⊕を押す。

設定	説明
Variable	音量調節を可変にして、初期値を－40 dBに設定します。この設定にすると、ZONE 2 AUDIO OUT 端子およびSURROUND BACK (ZONE 2) 端子の音量を連動して変えることができます。パワーアンプにつないで使う場合におすすめします。
Fixed	音量調節を±0 dBに固定します。音量調節可能な機器につないで使う場合におすすめします。

リモコンのゾーン設定を切り換える

多機能リモコンは、お買い上げ時には2ndゾーンで使えるように設定されています。3rdゾーンで使いたい場合は、多機能リモコンのゾーン設定を切り換えてください。



1 RM SET UP を押したまま、I/⏻ を押す。
AMPとZONEが点滅します。

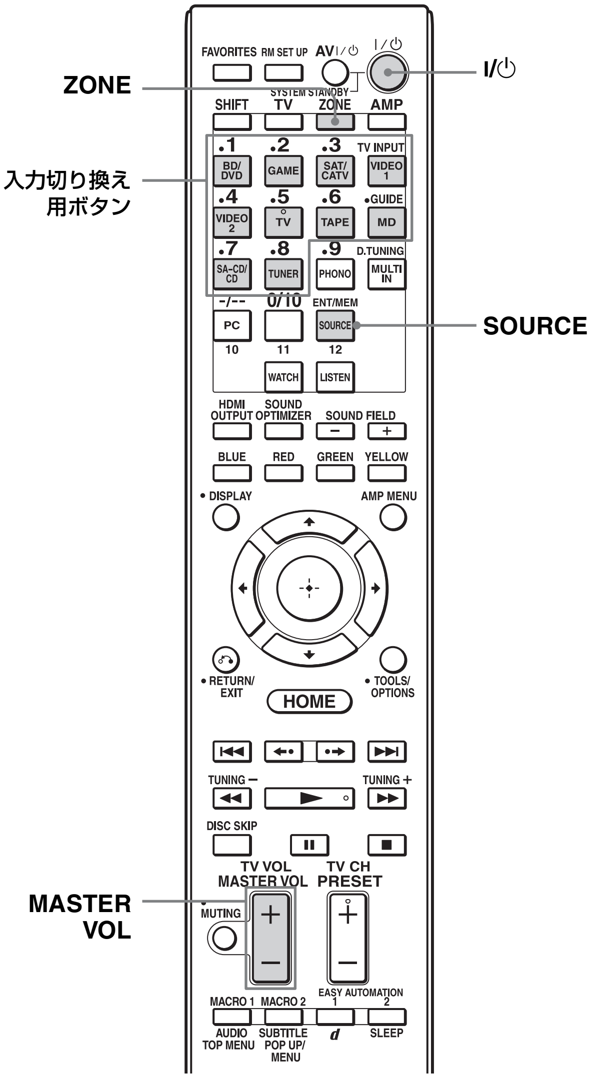
2 ZONE を押す。
AMPが消灯し、ZONEは点滅したままSHIFTが点灯します。

3 ZONE が点滅している間に、2nd ゾーンに切り換えたい場合は数字ボタンの 2 を、3rd ゾーンに切り換えたい場合は数字ボタンの 3 を押す。
ZONEが点灯します。

4 ENT/MEM を押す。
ZONEが2回点滅し、多機能リモコンのゾーン設定が2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換わります。

本機を 2nd ゾーン／ 3rd ゾーンで操作する

以下の手順では、IRリピーターをつないで2ndゾーンまたは3rdゾーンから本機を操作する方法を説明しています。IRリピーターをつないでいない場合は、メインゾーンで本機を操作してください。



1 2nd ゾーンまたは 3rd ゾーンのアンプの電源を入れる。

イラスト1-①（61ページ）の場合は、この操作は必要ありません。

2 ZONE を押す。

多機能リモコンが2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換わります。あらかじめゾーン設定を2ndゾーンまたは3rdゾーンに切り換えておいてください。

3 I/⏻ を押す。

マルチゾーン機能が有効になります。

4 リモコンの入力切り換え用ボタンのいずれかを押して、出力したいソース信号を選ぶ。

2ndゾーンにはアナログ映像信号とアナログ音声信号が出力されます。3rdゾーンにはアナログ音声信号のみ出力されます。SOURCEを選ぶと、現在のメインゾーンの入力信号が出力されます。

5 音量を調節する。

- イラスト1-①の場合（61ページ）、リモコンのMASTER VOL＋/－で音量を調節します。
- イラスト1-②の場合（61ページ）、またはイラスト2（62ページ）の場合、2ndゾーンまたは3rdゾーンのアンプで音量を調節します。「Zone2」の「Line Out」を「Variable」に設定している場合は、リモコンのMASTER VOL＋/－でも2ndゾーンの音量を調節できます（63ページ）。

2ndゾーン／3rdゾーンの操作を終了するには

ZONEを押して、I/⏻を押します。

ご注意

- SOURCE を選んでいるときに「MULTI IN」または「PC」を選んでも、MULTI CHANNEL INPUT 端子または⭠(USB)端子に入力された信号は、ZONE 2 OUT および ZONE 3 OUT 端子からは出力されません。
- 「TV」、「PHONO」、「MULTI IN」および「PC」は、メインゾーンでのみ選ぶことができます。
- USB デバイス、iPhone/iPod、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツは、SOURCE が選ばれているときのみ 2nd ゾーンおよび 3rd ゾーンで楽しむことができます。

“ブラビアリンク”機能を使う

“ブラビアリンク” 機能とは？

HDMIケーブルで接続された対応機器を＜ブラビア＞リモコンから連携操作できる機能の、ソニー製品における名称です。
この連携操作は、HDMI（High- Definition Multimedia Interface）で規格化されているHDMI CEC（Consumer Electronics Control）を使用したHDMI機器制御機能で実現しています。
“ブラビアリンク” 機能に対応しているソニー製品をHDMIケーブル（別売）でつなぐと、以下の操作ができます。

- 電源オフ連動（66ページ）
- ワンタッチプレイ（66ページ）
- システムオーディオコントロール（66ページ）
- オーディオリターンチャンネル（ARC）（66ページ）
- オートジャンルセレクター（66ページ）
- シーンセレクト連動（67ページ）
- オーディオ機器コントロール（67ページ）

HDMI機器制御機能は、以下の場合働きません。

- HDMI機器制御機能に対応していない機器をつないだ場合
- 本機と各機器をHDMIでつないでいない場合
- HDMI OUT B端子につないだ機器ではHDMI機器制御機能は働きません。

本機は、“ブラビアリンク” 機能に対応している機器とつなぐことをおすすめします。

“ブラビアリンク” 機能の準備をする

“ブラビアリンク” 機能を使うには、本機とつないでいる機器ともにHDMI機器制御機能の設定を有効にする必要があります。
本機と接続機器のHDMI機器制御機能を別々に設定します。
この操作には多機能リモコンをお使いください。簡単リモコンでは操作できません。

1 **ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押す。**

2 **「HDMI Settings」を選び、⊕を押す。**

3 **「Control for HDMI」を選び、⊕を押す。**

4 **「On」を選び、⊕を押す。**

本機のHDMI機器制御機能が有効になります。

5 **つないでいる機器の HDMI 機器制御機能を有効にする。**

接続機器の設定方法については、お使いの機器の取扱説明書を参照してください。

6 **続けて他の機器も設定する場合は、手順５をくり返す。**

ご注意

- 以下の機能は、他社製品を接続した場合でも動作しますが、すべての機器との動作をを保証するものではありません。
  - 電源オフ連動
  - ワンタッチプレイ
  - システムオーディオコントロール
- 以下の機能は、ソニー独自の機能です。他社製品との間では働きません。
  - シーンセレクト
  - オーディオ機器コントロール
- “ブラビアリンク” に対応していない機器ではこれらの機能は働きません。
- HDMI ケーブルを抜いたり、接続を変えたときは、「“ブラビアリンク” 機能の準備をする」の手順を行ってください。ただし、HDMI IN 1、2 および 6 端子につないでいるときは、これらの手順を行う必要はありません。

つづく

電源オフ連動

テレビのリモコンでテレビの電源を切ると、本機と再生機器の電源も連動して切ることができます。
また、本機の多機能リモコンでも電源オフ連動の操作ができます。

TV を押してから、AV I/⏻ を押す。

HDMIでつないだすべての機器の電源が切れます。

ワンタッチプレイ

簡単な操作で、本機にHDMI接続された機器を再生したときに、自動的に本機の電源も入ります。

「Pass Through」を「On」に設定したときは、本機はスタンバイ状態のままで、音声と映像がテレビから出力されます。

再生機器(DVD プレーヤーなど)を再生する。

ビデオカメラでワンタッチプレイするには

1 本機とビデオカメラのHDMI機器制御機能を有効にする。

2 ビデオカメラをHDMI IN 1、2、6端子のいずれかにつなぐ(32ページ)。
ソニー製ビデオカメラをお使いの場合は、本機と連動してテレビの電源が入ります。
他社製のビデオカメラの場合は、引き続きビデオカメラを再生してください。

システムオーディオコントロール

簡単な操作で、テレビの音声を本機につないだスピーカーから楽しめます。テレビのリモコンでも本機につないだスピーカーの音量を調節したり、消音したりできます。

その他、以下のように働きます。

- テレビを視聴しているときに本機の電源を入れると、テレビの音声は自動的に本機につないだスピーカーから出力されます。本機の電源を切ると、自動的にテレビのスピーカーから出力されます。
- テレビの音量を調節すると、本機につないだスピーカーの音量を調節できます。

システムオーディオコントロール機能は、テレビのメニューでも操作できます。詳しくはお使いのテレビの取扱説明書を参照してください。

オーディオリターンチャンネル（ARC）

テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応している場合は、HDMIケーブル接続により、テレビのデジタル音声信号も本機に伝送されます。そのため、本機でテレビの音声を聞くために、個別に音声接続をする必要はありません。
詳しくは、「デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える」（69ページ）をご覧ください。

オートジャンルセレクター

視聴中のデジタル放送の番組情報（EPG情報）を取得して、番組のジャンルに応じたサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます（オートジャンルセレクター対応のテレビなどの機器をお使いの場合のみ）。

1 ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押す。

2 「HDMI Settings」を選び、⊕を押す。

3 「Sound Field」を選び、⊕を押す。

ご注意

- 電源オフ連動機能を使うには、テレビの電源連動機能の設定を有効にしてください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。
- 機器の状態によっては、電源オフ連動機能で接続機器の電源が切れない場合があります。詳しくは、各機器に付属の取扱説明書を参照してください。
- 他社製のテレビで電源オフ連動機能を使う場合は、あらかじめテレビのメーカーに合わせてリモコンコードを設定してください（103 ページ）。
- テレビによっては、ワンタッチプレイで映像、音声が頭切れすることがあります。
- ソニー製のビデオカメラなど、HDMI ケーブルを接続することによってワンタッチプレイが始まる機器は、HDMI IN 1、2、6 端子に接続してください。その他の HDMI 入力端子の場合は、HDMI 接続をしただけでは本機が正しい入力に切り換わらないことがあります。その場合は、接続後にビデオカメラを接続した入力を手動で選んでください。
- 「Control for HDMI」が「On」のときは、システムオーディオコントロール機能によって、HDMI Settings メニューの「Audio Out」は自動的に設定されます。
- テレビの電源を入れてから本機の電源を入れると、テレビの音声が出力されるまでに多少時間がかかることがあります。

4 お好みのパラメーターを選び、⊕を押す。

パラメーター	内容
Auto	デジタル放送のテレビ番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが自動的に切り換わります。
Manual	サウンドフィールドボタンで選んだサウンドフィールドで、音声を出力します。

番組情報対応表

番組情報（EPG情報）	オートジャンルセレクターで切り換わるサウンドフィールド
ニュース／報道	2ch Stereo
スポーツ	Sports
情報／ワイドショー	A.F.D. Auto
ドラマ	A.F.D. Auto
音楽	詳細ジャンルによって異なります。下記の音楽番組詳細ジャンル対応表をご覧ください。
バラエティ	A.F.D. Auto
映画	HD-D.C.S.
アニメ／特撮	A.F.D. Auto
ドキュメンタリー	A.F.D. Auto
劇場／公演	Live Concert
趣味／教育	A.F.D. Auto
福祉	A.F.D. Auto
その他	A.F.D. Auto
スポーツ（CS）	Sports
洋画（CS）	HD-D.C.S.
邦画（CS）	HD-D.C.S.
情報なし	A.F.D. Auto

音楽番組詳細ジャンル対応表

詳細ジャンル	サウンドフィールド
国内ロック／ポップス	Live Concert
海外ロック／ポップス	Live Concert
クラシック／オペラ	True Concert Mapping A
ジャズ／フュージョン	Jazz Club
歌謡曲／演歌	Live Concert
ライブ／コンサート	Live Concert
ランキング／リクエスト	Live Concert
カラオケ／のど自慢	Live Concert
民謡／邦楽	Live Concert
童謡／キッズ	Live Concert
民族音楽／ワールドミュージック	Live Concert
その他	Live Concert

シーンセレクト連動

テレビで選んだシーンに応じて最適な画質とサウンドフィールドに自動的に切り換えることができます。
操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。

対応表

テレビのシーン設定	サウンドフィールド
Cinema	HD-D.C.S.
Sports	SPORTS
Music	Live Concert
Animation	A.F.D. Auto
Photo	A.F.D. Auto
Game	A.F.D. Auto
Graphics	A.F.D. Auto

オーディオ機器コントロール

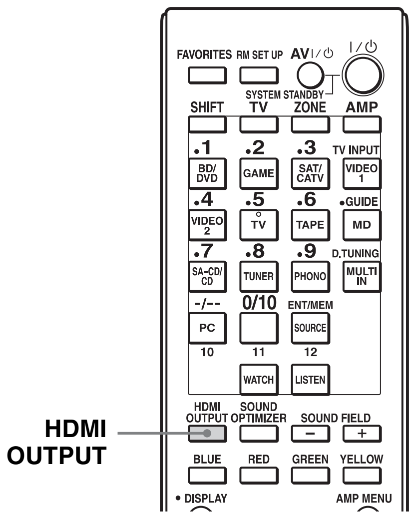
オーディオ機器コントロール機能対応のテレビを本機につないだ場合は、テレビ画面にインターネットアプリケーションのアイコンが表示されます。
テレビのリモコンで本機の入力やサウンドフィールドを切り換えることができます。また、センタースピーカー、アクティブサブウーファーのレベルや「Sound Optimizer」（58ページ）、「Dual Mono」（86ページ）、「A/V Sync」（87ページ）の設定を調節することもできます。
オーディオ機器コントロール機能を使用するには、ブロードバンドサービスに接続できるテレビをお使いいただく必要があります。
詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。

ご注意

- 番組情報（EPG 情報）に応じてサウンドフィールドが切り換わるとき、音が途切れることがあります。
- テレビによってはサウンドフィールドが切り換わらないことがあります。

HDMI 信号を出力するモニターを切り換える

HDMI OUT A端子とHDMI OUT B端子のそれぞれにモニターをつないでいる場合、リモコンのHDMI OUTPUTボタンで出力するモニターを切り換えることができます。



1 本機と 2 つのモニターの電源を入れる。

2 HDMI OUTPUT を押す。

HDMI OUTPUTを押すたびに、出力が以下のように切り換わります。

HDMI A → HDMI B → HDMI A+B → OFF → HDMI A…

本体のHDMI OUTボタンでも切り換えることができます。

本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ

（パススルー）

本機がスタンバイ状態であっても、HDMI IN端子から入力された映像および音声信号をHDMI OUT A端子につないだテレビに出力することができます。
「Control for HDMI」が「On」の状態でパススルー機能を使用した場合は、本機がスタンバイ状態時でも接続機器の操作に応じて本機の入力が自動的に切り換わります。
この機能を有効にするときは、以下の手順で「Pass Through」の設定を行ってください。

1 ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押す。

2 「HDMI Settings」を選び、⊕を押す。

3 「Pass Through」を選び、⊕を押す。

4 お好みのパラメーターを選び、⊕を押す。

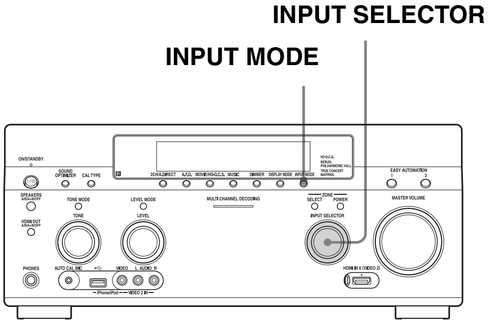
パラメーター	内容
On	本機のスタンバイ状態時に、HDMI OUT A端子から信号を出力します。
Off	本機のスタンバイ状態時に、HDMI出力端子から信号を出力しません。つないだ機器をテレビで楽しむ場合には、本機の電源を入れてください。この設定にすると、「On」設定時よりもスタンバイ状態時の消費電力を抑えることができます。

ご注意

- HDMI OUT A 端子と B 端子につないでいるモニター間で対応している映像フォーマットが異なる場合、「HDMI A + B」が働かないことがあります。
- つないでいる再生機器によっては、「HDMI A + B」が働かないことがあります。

デジタル音声とアナログ音声の入力を切り換える

機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、どちらかに固定したり、視聴するソフトの種類によって切り換えることができます。



1 本体のINPUT SELECTORで入力を選ぶ。

2 本体の INPUT MODE を押す。

テレビ画面に選んだ音声入力モードが表示されます。

- AUTO
  機器を本機のデジタル音声入力端子とアナログ音声入力端子の両方につないでいる場合、デジタル音声入力が優先されます。
  デジタル音声入力がない場合は、アナログ音声入力が選ばれます。
  テレビ入力が選ばれているときは、オーディオリターンチャンネル（ARC）信号が優先されます。テレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）に対応していない場合は、光デジタル音声入力が選ばれます。
  本機とテレビ両方のHDMI機器制御機能が有効になっていない場合は、オーディオリターンチャンネル（ARC）は働きません。
- OPT
  OPTICAL IN端子が入力に割り当てられているときにのみ表示され、自動的に光デジタル入力が選ばれます。
- COAX
  COAXIAL IN端子が入力に割り当てられているときにのみ表示され、自動的に同軸デジタル入力が選ばれます。
- ANALOG
  AUDIO IN L/R端子へのアナログ音声入力が常に選ばれます。

ご注意

- 入力によっては、表示窓に「------」と表示され、他のモードが選べません。
- 「2ch Analog Direct」を使っているときや「MULTI IN」を選んでいるときは、音声入力モードは「Analog」に設定されます。他のモードは選べません。

他の映像／音声入力端子を使う

映像や音声信号を他の入力端子に割り当てることができます。
例：DVDプレーヤーから光デジタル音声信号のみを入力したいときは、DVDプレーヤーのOPTICAL OUT端子を本機のOPTICAL IN 1端子につなぎます。
DVDプレーヤーから映像信号を入力したいときは、DVDプレーヤーのコンポーネント映像端子を本機のCOMPONENT IN 1またはCOMPONENT VIDEO IN 2端子につなぎます。

1 **ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押す。**

2 **「Input Settings」を選び、⊕を押す。**

3 **「Video Input Assign」または「Audio Input Assign」を選び、⊕を押す。**

4 **各入力に割り当てたい音声、映像信号を選び、⊕を押す。**

ご注意

- 「Video Input Assign」または「Audio Input Assign」で入力に HDMI IN 1 ～ 6 端子のいずれかを割り当てた場合は、映像入力と音声入力の両方に同じ HDMI 入力端子が割り当てられます。映像入力または音声入力のどちらか一方にのみ HDMI 入力端子を割り当てたい場合は、いったん HDMI 入力端子を割り当ててから、「Video Input Assign」または「Audio Input Assign」で HDMI 入力端子を割り当てないほうを「None」に設定してください。
- GUI を使わず本機を操作する場合は、「INPUT SETTINGS」の「HDMI VIDEO ASSIGN ?」または「HDMI AUDIO ASSIGN ？」で HDMI IN 端子の割り当てを変更することができます（100 ページ）。
- HDMI 機器制御機能を使用中に HDMI IN 端子の割り当てを変更した場合は、本機の入力を一度その HDMI 機器をつないだ入力に切り換えてください。切り換えを行わないと、HDMI 機器制御機能が正しく働かないことがあります。
- 「Video Input Assign」と「Audio Input Assign」の両方で HDMI 入力の割り当てを両方とも「None（なし）」に設定した場合は、その HDMI 端子からの入力信号を選択できなくなります。その場合、本機以外の機器では HDMI 機器制御機能が働きますが、不具合ではありません。

入力名		BD/DVD	GAME	SAT/CATV	VIDEO 1	VIDEO 2	TV	TAPE	MD	SA-CD/CD	TUNER	PC	PHONO	MULTI IN
割り当て可能な映像入力端子	Component1 (BD/DVD)	○*	○	○	○	○	–	○	○	○	○	–	–	○
	Component2 (SAT/CATV)	○	○	○*	○	○	–	○	○	○	○	–	–	○
	HDMI1 (GAME)	○	○*	○	○	○	–	○	○	○	○	–	–	○
	HDMI2 (SAT/CATV)	○	○	○*	○	○	–	○	○	○	○	–	–	○
	HDMI3 (SA-CD/CD)	○	○	○	○	○	–	○	○	○*	○	–	–	○
	HDMI4 (BD/DVD)	○*	○	○	○	○	–	○	○	○	○	–	–	○
	HDMI5 (VIDEO 1)	○	○	○	○*	○	–	○	○	○	○	–	–	○
	HDMI6 (VIDEO 2)	○	○	○	○	○*	–	○	○	○	○	–	–	○
割り当て可能な音声入力端子	Optical1 (GAME)	○	○*	○	○	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	Optical2 (SAT/CATV)	○	○	○*	○	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	Optical3 (TV)	○	○	○	○	○	○*	○	○	○	○	–	–	–
	Optical4 (MD)	○	○	○	○	○	–	○	○*	○	○	–	–	–
	Coaxial1 (BD/DVD)	○*	○	○	○	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	Coaxial2 (VIDEO 1)	○	○	○	○*	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	Coaxial3 (SA-CD/CD)	○	○	○	○	○	–	○	○	○*	○	–	–	–
	HDMI1 (GAME)	○	○*	○	○	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	HDMI2 (SAT/CATV)	○	○	○*	○	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	HDMI3 (SA-CD/CD)	○	○	○	○	○	–	○	○	○*	○	–	–	–
	HDMI4 (BD/DVD)	○*	○	○	○	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	HDMI5 (VIDEO 1)	○	○	○	○*	○	–	○	○	○	○	–	–	–
	HDMI6 (VIDEO 2)	○	○	○	○	○*	–	○	○	○	○	–	–	–

＊初期設定です。

ご注意

- デジタル音声入力を割り当てると、INPUT MODE の設定が変わることがあります。
- 映像入力にコンポーネント入力またはコンポジット入力を割り当て、音声入力に HDMI 入力を割り当てているときは、コンポーネントまたはコンポジット映像信号は HDMI OUT 端子から出力されません。コンポーネントまたはコンポジット映像信号は、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子または MONITOR VIDEO OUT 端子から出力されます。
- 1 つの入力に対して、異なる HDMI 入力端子を映像および音声入力端子に個別に割り当てることはできません。
- 複数の入力に同じ HDMI IN 端子を割り当てることはできますが、その HDMI IN 端子につないだ機器をワンタッチプレイすると、入力切り換えの順番が早い入力が優先して選ばれます。

スマートフォンで本機を操作する

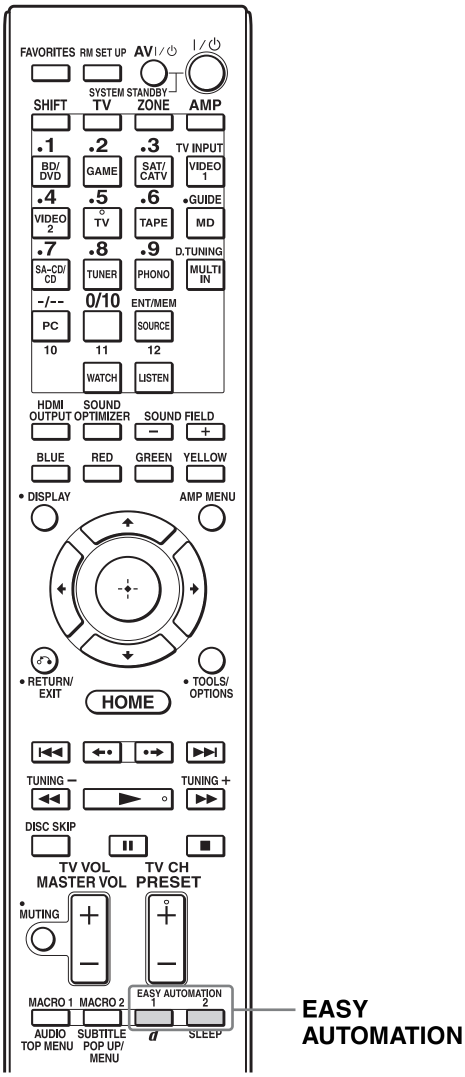
「ES Remote」アプリケーションをインストールしたスマートフォンで本機を操作することができます。
「ES Remote」アプリケーションはApp Store（iPhone用）、またはAndroid Market（Android携帯用）から無料でダウンロードできます。

本機のさまざまな設定を保存してから一括で呼び出す

（Easy Automation）

本機のさまざまな設定を一括して保存したり、視聴環境に合わせて保存した設定を呼び出して簡単に適用することができます。
例えば、「1: Movie」シーンに以下のように設定を保存しておくことによって、「Input」、「Calibration Type」、「Sound Field」、「HDMI Out」の設定を個別に切り換えることなく、ワンタッチで一括して切り換えることができます。

設定項目	「1: Movie」の設定値
Input	BD/DVD
Calibration Type	Engineer
Sound Field	HD-D.C.S.
HDMI Out	HDMI OUT B



保存できる設定項目と各設定項目の初期値は次のとおりです。

設定項目	初期値			
	1: Movie	2: Music	3: Party	4: Night
Input	BD/DVD	SA-CD/CD	変更しない	変更しない
Sound Field	HD-D.C.S.	Berlin Philharmonic Hall	Multi Stereo	変更しない
Sleep	変更しない	変更しない	Off	30 min.
Volume	変更しない	変更しない	–10 dB	–30 dB
HDMI Out	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Speakers	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Party Mode	変更しない	変更しない	On	変更しない
A/V Sync	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Calibration Type	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Digital Legato Linear	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Sound Optimizer	変更しない	変更しない	Off	On
Sound Field Mode	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (Front)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (Center)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (Surround)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない
Equalizer (Front High)	変更しない	変更しない	変更しない	変更しない

Sceneに保存した設定を呼び出す

1 ホームメニューで「Easy Automation」選び、⊕を押す。

2 実行したい Scene を選び、⊕を押す。

Sceneに設定を保存する

1 ホームメニューで「Easy Automation」を選び、⊕を押す。

2 「1: Movie」、「2: Music」、「3: Party」、「4: Night」の中から設定を保存したい Scene を選び、TOOLS/OPTIONS を押す。

3 お好みのメニューを選び、⊕を押す。

メニュー	説明
編集	保存されている設定を、お好みに合わせてカスタマイズできます。
現在設定の取込	現在の本機の設定を読み込んで、Scene に上書き保存します。「Input」と「Volume」は「変更しない」に設定されます。

ご注意

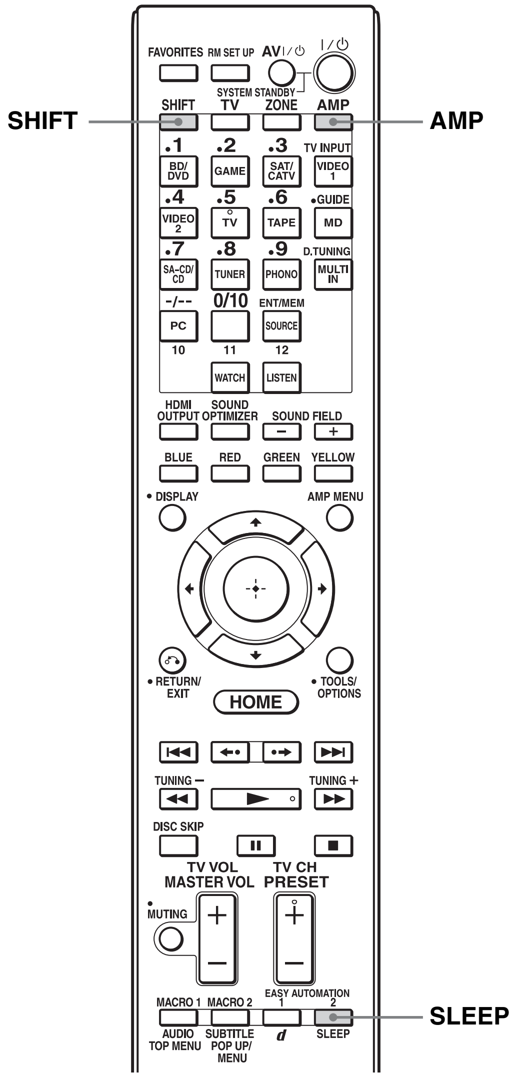
- 「変更しない」として保存されている設定項目は、Scene を呼び出しても現在の設定内容を変更しません。「変更しない」を指定するには、「編集」を選び、編集画面で設定項目のチェックをはずしてください。
- Scene を呼び出したとき、本機の状態によって適用できない設定値は無効になります（例：「MULTI IN」選択時の「Sound Field」設定値など）。

ちょっと一言

本体およびリモコンの EASY AUTOMATION 1 または EASY AUTOMATION 2 を押して、「1: Movie」または「2: Music」に保存されている設定を直接呼び出すことができます。また、EASY AUTOMATION 1 または EASY AUTOMATION 2 を 3 秒間押し続けると、メニューで「Import Current Settings」を選んだときと同様に、現在の設定を「1: Movie」または「2: Music」に上書きすることができます。

スリープタイマーを使う

設定した時間がたつと、本機の電源を自動的に切ることができます。
この操作には多機能リモコンをお使いください。簡単リモコンでは操作できません。



1 AMP を押す。

本機の操作ができるようになります。

2 SHIFT を押してから、SLEEP をくり返し押す。

SLEEPを押すたびに時間表示が次のように切り換わります。

→0:30:00→1:00:00→1:30:00→2:00:00→OFF

スリープタイマーが働いているあいだは表示窓の「SLEEP」が点灯します。
スリープタイマーが働くまでの残り時間を確認するには、SLEEPを押します。表示窓に残り時間が表示されます。
もう一度SLEEPを押すと、スリープタイマーが「OFF」に切り換わります。

本機を使って録音／録画する

本機を使ってオーディオ／映像機器から録音／録画ができます。お持ちの録音／録画機器の取扱説明書も参照してください。

録画する

1 **ホームメニューから「Watch」を選び、⊕を押す。**

2 **再生機器を選び、⊕を押す。**

3 **再生機器の準備をする。**
例：ビデオデッキにビデオテープを入れる。

4 **録画機器の準備をする。**
（VIDEO 1につないだ）録画機器に録画用のビデオテープなどを入れる。

5 **録画機器側で録画を開始し、再生機器側で再生する。**

録音する

本機を使ってミニディスクまたはカセットテープに録音できます。お持ちのMDデッキまたはカセットデッキの取扱説明書も参照してください。

1 **ホームメニューから「Listen」を選び、⊕を押す。**

2 **再生機器を選び、⊕を押す。**

3 **再生機器を準備する。**
例：CDプレーヤーにCDを入れる。

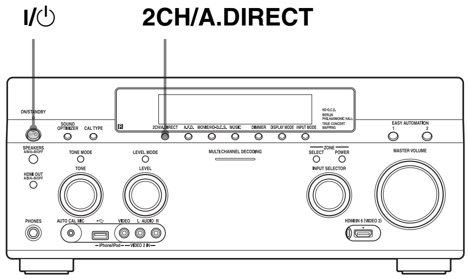
4 **録音機器を準備する。**
ミニディスクまたはカセットテープを入れ、録音レベルを調節する。

5 **録音機器側で録音を開始し、再生機器側で再生する。**

本体とリモコンのコマンドモードを切り換える

本機（アンプ）と付属のリモコンのコマンドモード（COMMAND MODE AV1またはCOMMAND MODE AV2）を切り換えることができます。付属のリモコン操作で他にお使いのソニー製機器が誤動作する場合は、コマンドモードを初期設定から適切な設定に切り換えてください。
本機と付属のリモコンともに、初期設定のコマンドモードはCOMMAND MODE AV2です。
本機と付属のリモコンはどちらも同じコマンドモードに設定する必要があります。コマンドモードが一致していない場合は、付属のリモコンで本機の操作ができません。

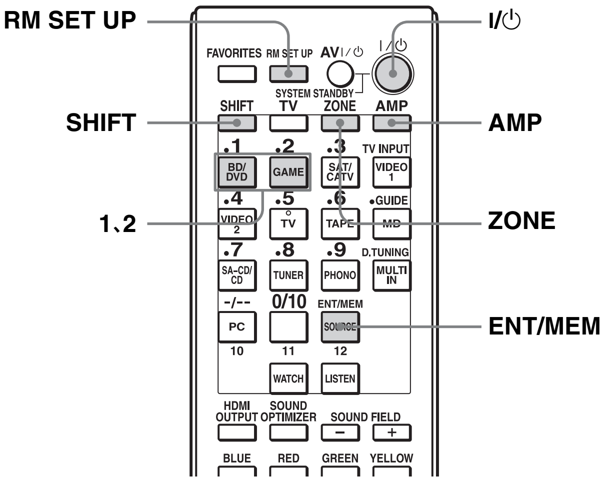
本体のコマンドモードを切り換える



1 **I/⏻ を押して、本機の電源を切る。**

2 **2CH/A.DIRECT を押しながら I/⏻ を押して、本機の電源を入れる。**
コマンドモードが「AV2」に設定されると、表示窓に「COMMAND MODE [AV2]」と表示されます。
コマンドモードが「AV1」に設定されると、表示窓に「COMMAND MODE [AV1]」と表示されます。

多機能リモコンのコマンドモードを切り換える



1 RM SET UP を押しながら、I/⏻ を押す。

AMPとZONEが点滅します。

2 AMP を押す。

ZONEが消灯し、AMPは点滅したまま、SHIFTが点灯します。

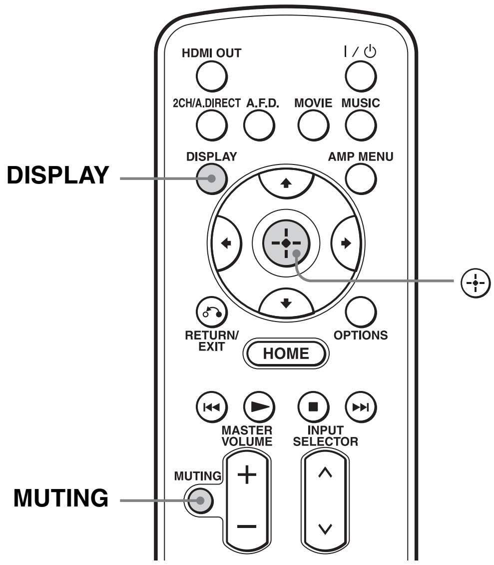
3 AMPが点滅している間に1または2を押す。

1を押すと、コマンドモードは「COMMAND MODE AV1」に設定され、2を押すと「COMMAND MODE AV2」に設定されます。AMPが点灯します。

4 ENT/MEM を押す。

AMPが2回点滅し、設定が完了します。

簡単リモコンのコマンドモードを切り換える

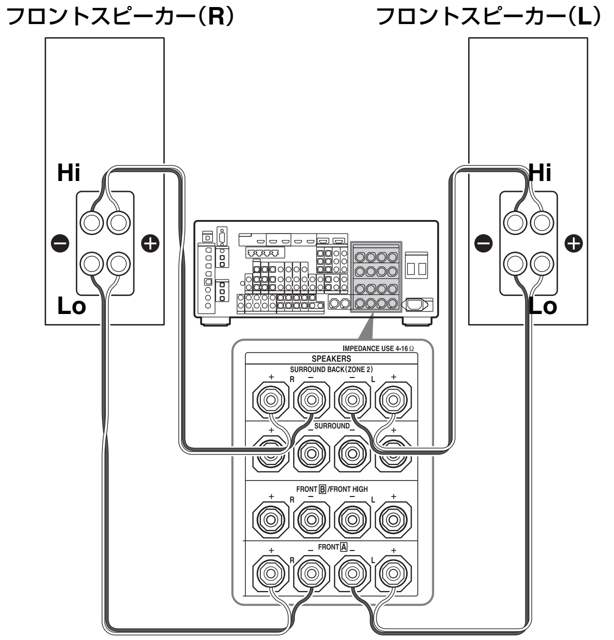


DISPLAY を押しながら MUTING を押し、そのまま⊕を押す。

バイアンプ接続する

サラウンドバックスピーカーを使用しない場合、SURROUND BACK (ZONE 2)端子をフロントスピーカーのバイアンプ接続用に使用することができます。

接続する



フロントスピーカーのLo（またはHi）側を本機のFRONT A端子に、フロントスピーカーのHi（またはLo）側を本機のSURROUND BACK (ZONE 2)端子につなぎます。
このとき、スピーカーに付属されているHi/Loのショート金具は必ずはずしてください。本機の故障の原因となります。

設定する

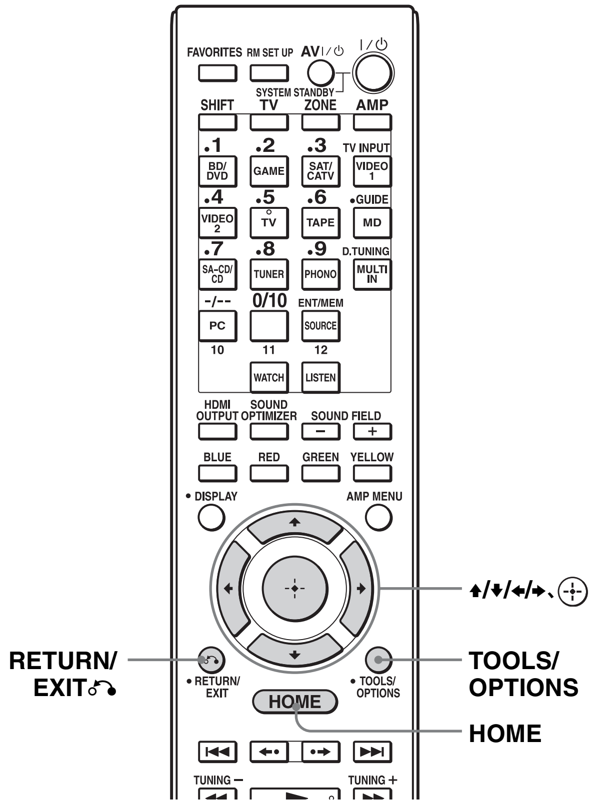
詳しくは、Speaker Settingsメニューの「Speaker Connection」（83ページ）をご覧ください。

ご注意

- FRONT B/FRONT HIGH 端子を使ってバイアンプ接続することはできません。
- Auto Calibration 機能を使う場合は、その前にバイアンプの設定をしてください。
- バイアンプの設定後は、サラウンドバックスピーカーのレベル、バランス、イコライザーなどの設定は無効となり、フロントスピーカーの設定が反映されます。
- PRE OUT 端子から出力される信号は SPEAKERS 端子と同じ設定になります。
- 「Speaker Pattern」でサラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありの設定にした場合、SURROUND BACK (ZONE 2) 端子をバイアンプ接続用に設定できません。
- GUI を使わず本機を操作する場合は、「SPEAKER SETTINGS」の「SB ASSIGN」を「BI-AMP」に設定してください（100 ページ）。

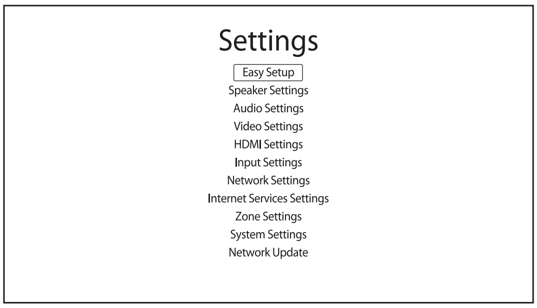
Settings メニューの使いかた

Settingsメニューを使って、スピーカーやサラウンド効果などさまざまな設定ができます。



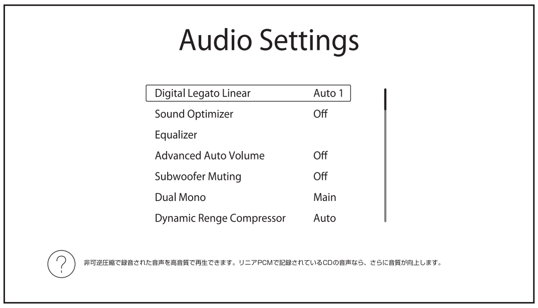
1 ホームメニューから「Settings」を選び、⊕を押してメニューモードに入る。

Settingsメニューが表示されます。



2 お好みのメニュー項目を選び、⊕を押す。

例：**Audio Settingsの場合**



3 設定を選び、⊕を押して確定する。

前の表示画面に戻るには

RETURN/EXITを押します。

メニューを消すには

HOMEを押します。

Settingsメニュー一覧

- Settings
  - Easy Setup（81ページ）
  - Speaker Settings（81ページ）
    - Auto Calibration
    - Auto Calibration Setup
      - Position
        - Calibration Type
          - User Reference Edit
        - Front Reference Type
        - Speaker Pair Match
        - Name In
      - Automatic Phase Matching
      - Speaker Relocation
    - Speaker Connection
    - Speaker Setup
    - Test Tone
    - Center Analog Down Mix
    - Speaker Impedance
    - Distance Unit
  - Audio Settings（86ページ）
    - Digital Legato Linear
    - Sound Optimizer
    - Equalizer
    - Advanced Auto Volume
    - Subwoofer Muting
    - Dual Mono
    - Dynamic Range Compressor
    - （入力名）
      - A/V Sync
      - Decode Priority
      - Sound Field
    - Sound Field Mode
  - Video Settings（88ページ）
    - Resolution
    - Zone Resolution
    - Playback Resolution
    - 3D Output Settings
    - TV Type
    - Screen Format
  - HDMI Settings（90ページ）
    - （入力名）
      - Subwoofer Level
      - Subwoofer Low Pass Filter
    - Audio Out
    - H.A.T.S.
    - Control for HDMI
      - Sound Field
    - Pass Through
    - Video Direct
  - Input Settings（92ページ）
    - Input Edit
    - Audio Input Assign
    - Video Input Assign

つづく

- Network Settings (92ページ)
  - Internet Settings
  - Connection Server Settings
  - Renderer Options
  - Renderer Access Control
  - External Control
  - Network Standby
- Internet Services Settings (93ページ)
  - Parental Control Password
  - Parental Control Area Code
  - Internet Video Access
  - Internet Video Parental Control
  - Internet Video Unrated
- Zone Settings（94ページ）
  - Zone Control
  - Zone Setup
- System Settings (96ページ)
  - Auto Standby
  - Settings Lock
  - RS232C Control
  - Software Update Notification
  - Initialize Personal Information
  - System Information
  - EULA
- Network Update (97ページ)

Easy Setup

Easy Setupを再起動して基本設定を行います。画面の指示にしたがって操作してください（43ページ）。

スピーカー設定

（Speaker Settings）

視聴環境（使用しているスピーカーシステム）を自動または手動で設定できます。
－ Speaker Connection
－ Speaker Setup
－ Test Tone

Auto Calibration

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能を実行します。この機能は、各スピーカーと本機の接続やスピーカーのレベル、各スピーカーと視聴位置の距離などを自動的に測定し、最適な音声バランスを設定します。

Auto Calibration Setup

測定位置や視聴環境、測定条件ごとに「Position」として3つのパターンを登録できます。
また、それぞれのスピーカーの補正タイプも選べます。

Position

リスニング環境ごとに設定を登録したり、登録した設定を呼び出したりできます。

Auto Calibration Setup 画面で、測定結果を登録する「Position」を選ぶ。
- Pos.1
- Pos.2
- Pos.3

スピーカーの補正タイプを設定するには

Positionごとにスピーカーの補正タイプを選べます。

1 スピーカーの補正タイプを設定する「Position」を選び、⊕を押す。

2 「Calibration Type」を選び、⊕を押す。
- Full Flat
  各スピーカーの周波数特性を平らにします。
- Engineer
  ソニー基準のリスニングルームの周波数特性にします。

ご注意
- 「Auto Calibration」を実行すると、現在選ばれているポジションに測定結果が上書き保存されます。
- 測定結果が登録されていない「Position」に「Calibration Type」は設定できません。

設定を変更する

つづく

- Front Reference
  すべてのスピーカーの特性をフロントスピーカーの特性に合わせます。
- User Reference
  「User Reference Edit」でカスタマイズした周波数特性にします。
- Off
  Auto Calibration機能のイコライザーをオフにします。

「Calibration Type」で「Front Reference」を選択時にリファレンス値を選ぶには

1 Calibration Type メニューで「Front Reference Type」を選び、⊕を押す。

2 お好みのパラメーターを選び、⊕を押す。
- L/R
  RchとLchをリファレンス値とします。
- L
  Lchのデータをリファレンス値とします。
- R
  Rchのデータをリファレンス値とします。

「User Reference」の周波数をカスタマイズするには

「Calibration Type」の「User Reference」用に、「Full Flat」の設定を元にして周波数特性をカスタマイズできます。

1 Calibration Type メニューで「User Reference Edit」を選び、⊕を押す。

2 周波数を調節する。

Auto Calibration機能のイコライザパターンのペアマッチ方法を選ぶには

1 ペアマッチモードを設定したい「Position」を選び、⊕を押す。

2 「Speaker Pair Match」を選び、⊕を押す。
- All
  フロント／サラウンド／サラウンドバックスピーカーをそれぞれLch/Rchのペアマッチ処理で補を行います。
- Sur
  サラウンド／サラウンドバックスピーカーをそれぞれLch/Rchのペアマッチ処理で補正を行います。
- Off
  各chで独立した補正を行います。

「Position」に名前を付けるには

1 名前を付ける「Position」を選び、⊕を押す。

2 「Name In」を選び、⊕を押す。
ソフトキーボードが表示されます。

3 ↑/↓/←/→を押して文字を1つずつ選び、⊕を押す。

4 「Finish」を選び、⊕を押す。

Automatic Phase Matching

D.C.A.C.（Digital Cinema Auto Calibration（自動音場補正））機能（81ページ）のA.P.M.（Automatic Phase Matching（自動位相マッチング））機能を設定できます。
スピーカーの位相特性を補正し、つながりのよいサラウンド空間を実現します。

■Off

A.P.M.機能は働きません。

■Auto

A.P.M.機能のオン／オフが自動的に切り換わります。

ご注意
- 「Front Reference Type」は「Calibration Type」で「Front Reference」を選んだときのみ機能します（81ページ）。
- 「Front Reference Type」を設定してから、「Auto Calibration」を行ってください。
- 「Speaker Pair Match」は、「Auto Calibration」を行っていないときは機能しません。
- 「Speaker Pair Match」の「All」は、「Calibration Type」で「Front Reference」を選んだときは設定できません（81ページ）。
- 「Automatic Phase Matching」は、以下の場合は機能しません。
  －「Calibration Type」が「Off」に設定されている（81ページ）。
  －「MULTI IN」が選ばれている。
  －「2ch Analog Direct」を使用している。
- 「Automatic Phase Matching」使用時、音声フォーマットによっては、本機はもとのサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で再生することがあります。

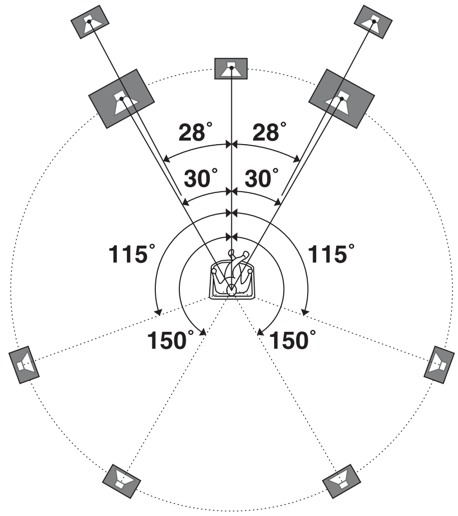
Speaker Relocation

スピーカーの位置（測定位置からの各スピーカー配置角度）を補正し、サラウンド効果を向上させることができます。

■Type A

ITU-R推奨の5.1チャンネルスピーカー配置に、サラウンドバックスピーカーを背後の壁に追加するように配置します。

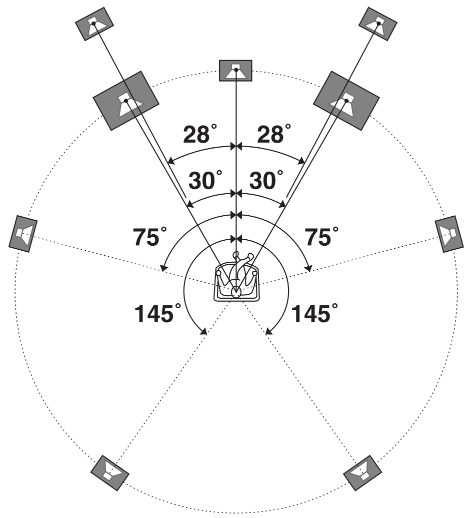
補正後のスピーカー配置図



■Type B

ITU-R推奨の7.1チャンネルスピーカー配置にしたがい、サラウンドスピーカー 4個をほぼ均等の角度に配置します。

補正後のスピーカー配置図



■Off

スピーカーの位置を補正しません。

Speaker Connection

それぞれのスピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後にもスピーカーレベルを調節できます。
スピーカー設定は選択中の「Position」にのみ有効です。
ウィザードを使って以下の設定ができます。
– お使いのシステムに合わせたスピーカーパターンの設定
– バイアンプ接続または2ndゾーン接続用のSURROUND BACK (ZONE 2)端子の設定（「SB Assign」）
– サラウンドバックチャンネル用の信号をSPEAKERS SURROUND BACK (ZONE 2)端子、PRE OUT SUR BACK端子どちらから出力するかの設定
– フロントハイチャンネル用の信号をSPEAKERS FRONT B/FRONT HIGH端子、PRE OUT FRONT HIGH端子どちらから出力するかの設定

Speaker Setup

Speaker Setup画面で各スピーカーを手動で設定できます。自動音場補正完了後もスピーカーレベルを調節できます。

「Level/Distance/Size」を選び、⊕を押す。

スピーカーのレベルを調節するには

各スピーカー（センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左、アクティブサブウーファー）のレベルを調節できます。

1 レベルを調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 「Level」を選び、⊕を押す。
－20 dBから＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。
フロント右／左スピーカーの場合、左右のバランスを調節できます。フロント左のレベルをFL－10 dBからFL＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。フロント右のレベルをFR－10 dBからFR＋10 dBの範囲で0.5 dB単位で設定できます。

設定を変更する

ご注意
- 「Speaker Relocation」は、「Calibration Type」（81 ページ）または「Automatic Phase Matching」（82 ページ）が「Off」に設定されている場合は機能しません。
- サラウンドバックスピーカーまたはフロントハイスピーカーありのスピーカーパターンを選んでいる場合、バイアンプ接続または 2nd ゾーン接続用の設定はできません。

つづく

リスニングポジションからスピーカーまでの距離を調節するには

リスニングポジションから各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左、アクティブサブウーファー）までの距離を調節できます。

1 リスニングポジションからの距離を調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 「Distance」を選び、⊕を押す。
1.0～10.0 mの範囲で、1 cm単位で設定できます。

スピーカーのサイズを調節するには

各スピーカー（フロント右／左、センター、サラウンド右／左、サラウンドバック右／左、フロントハイ右／左）のサイズを調節できます。

1 サイズを調節するスピーカーを選び、⊕を押す。

2 「Size」を選び、⊕を押す。
- Large
  低域を充分に再生できる大きなスピーカーをつないだときに選びます。通常は「Large」を選びます。
- Small
  マルチチャンネルサラウンドの音声が歪んだり、サラウンド効果が不充分なときに選びます。サラウンドスピーカーの低域部分は、アクティブサブウーファーまたは「Large」に設定した他のスピーカーから再生されます。

各スピーカーのクロスオーバー周波数を調整するには

Speakerメニューで「Small」に設定されているスピーカーの低音域のクロスオーバー周波数を調節します。自動音場測定後は、測定されたスピーカーのクロスオーバー周波数が各スピーカーに設定されます。

1 「Crossover Frequency」を選び、⊕を押す。

2 クロスオーバー周波数を調整するスピーカーを画面上で選ぶ。

3 クロスオーバー周波数を調整する。

リアスピーカーのレベルを調整するには

フロントスピーカーのレベルと対比して、リアスピーカー（サラウンドスピーカーおよびサラウンドバックスピーカー）のレベルを一括して調整できます。

1 「All Surround Level」を選び、⊕を押す。

2 リアスピーカーのレベルを調整する。
−5 dBから+5 dBの範囲で1 dB単位で設定できます。

Test Tone

Test Tone画面でテストトーンの種類を選べます。

各スピーカーからテストトーンを出力するには

各スピーカーから順番に、テストトーンを出力します。

1 「Test Tone」を選び、⊕を押す。
Test Tone画面が表示されます。

2 設定を選び、⊕を押す。
- Off
- Auto
  テストトーンが出るスピーカーが自動的に切り換わります。
- L、C、R、SR、SB*、SBR、SBL、SL、LH、RH、SW
  *「SB」は、サラウンドバックスピーカーを 1 台のみつないでいるときに表示されます。
  テストトーンを出力するスピーカーを選ぶことができます。

3 「Level」を調節して、⊕を押す。

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力するには

隣り合うスピーカーからテストトーンを出力することで、スピーカー間のバランスを調節できます。

1 「Phase Noise」を選び、⊕を押す。
Phase Noise画面が表示されます。

ご注意
- 「Speaker Size」と「Speaker Crossover Frequency」では、サラウンドバックスピーカーの設定はサラウンドスピーカーと同じになります。
- フロントスピーカーの設定を「Small」にすると、センター、サラウンド、サラウンドバック、フロントハイスピーカーも自動的に「Small」に設定されます。
- アクティブサブウーファーを使用しない場合は、フロントスピーカーは自動的に「Large」に設定されます。

2 設定を選び、⊕を押す。

- Off
- L/R、L/C、C/R、R/SR、SR/SBR、SR/SB*、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL*、SBL/SL、SL/L、LH/RH、L/SR、SL/R、L/RH、LH/R

  *「SR/SB」および「SB/SL」は、サラウンドバックスピーカーを1台のみつないでいるときに表示されます。

  隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンを出力します。
  スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

3「Level」を調節して、⊕を押す。

隣り合うスピーカーから音源を出力するには

隣り合うスピーカーから音源を出力して、スピーカー間のバランスを調節できます。

1「Phase Audio」を選び、⊕を押す。
Phase Audio画面が表示されます。

2 設定を選び、⊕を押す。

- Off
- L/R、L/C、C/R、R/SR、SR/SBR、SR/SB*、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL*、SBL/SL、SL/L、LH/RH、L/SR、SL/R、L/RH、LH/R

  *「SR/SB」および「SB/SL」は、サラウンドバックスピーカーを1台のみつないでいるときに表示されます。

  隣り合う2つのスピーカーから順番に、テストトーンではなくフロント2チャンネルの音源を出力します。
  スピーカーパターンによっては、表示されない項目があります。

3「Level」を調節して、⊕を押す。

Center Analog Down Mix

アナログダウンミックス機能をオン／オフに設定します。

■Off

センタースピーカーをつないでいるときは、自動的に「Off」に設定されます。

■On

センタースピーカーがないときに、デジタル音声を高音質で聞きたいときは、「On」をおすすめします。
「On」に設定されると、アナログダウンミックス機能が働きます。この設定はMULTI CHANNEL INPUT端子からの入力信号にも働きます。

Speaker Impedance

スピーカーインピーダンスを設定できます。詳しくは「準備7：Easy Setupで初期設定を行う」（43ページ）をご覧ください。

■4 Ω

■8 Ω

Distance Unit

スピーカーまでの距離を表示する単位を切り換えます。

■meter

メートル表示に切り換えます。

■feet

フィート表示に切り換えます。

音声設定

（Audio Settings）

音声に関する設定ができます。

Digital Legato Linear（D.L.L.）

低音質のデジタル音声信号やアナログ音声信号を高音質で再生可能にするソニー独自の技術です。

■Off

■Auto 1

非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号に対して機能します。

■Auto 2

リニアPCM信号に対しても、非可逆圧縮された音声フォーマットとアナログ音声信号と同様に機能します。

Sound Optimizer

Sound Optimizer機能のオン／オフを切り換えます（58ページ）。

■Off

■On

Equalizer

各スピーカーの低域／高域レベルを調節します（58ページ）。

Advanced Auto Volume

「Advanced Auto Volume」機能のオン／オフを切り換えます（59ページ）。

■Off

■On

Subwoofer Muting

PRE OUT SUBWOOFER端子から信号を出力するかどうかを設定します。

■Off

PRE OUT SUBWOOFER端子から信号を出力します。

■On

PRE OUT SUBWOOFER端子から信号を出力しません。

Dual Mono

MPEG-2 AACやドルビーデジタルなどの二重音声を聞くとき、再生モードを設定します。

■Main/Sub

フロント左スピーカーから主音声、フロント右スピーカーから副音声を同時に出力します。

■Main

主音声のみを出力します。

■Sub

副音声のみを出力します。

Dynamic Range Compressor

サウンドトラックのダイナミックレンジを狭くします。深夜に小音量で映画を見たいときなどに便利です。ドルビーデジタルの音声にのみ働きます。

■Off

ダイナミックレンジの圧縮は行われません。

■Auto

ダイナミックレンジが自動的に圧縮されます。

■On

レコーディングエンジニアが意図するダイナミックレンジでサウンドトラックを再現します。

ご注意

- 「D.L.L.」は、USB デバイスまたはホームネットワークのコンテンツによっては機能しません。
- 「D.L.L.」は、「A.F.D. Auto」が選ばれているときに機能します。ただし、以下の場合は機能しません。
  - サンプリング周波数が 44.1 kHz 以外のリニア PCM 信号を受信している。
  - Dolby Digital Plus、Dolby Digital EX、Dolby TrueHD、DTS 96/24、DTS-ES Matrix 6.1、DTS-HD Master Audio、または DTS-HD High Resolution Audio の信号を受信している。

A/V Sync

入力された音声を遅らせて、映像と音声のずれを入力ごとに独立して調節することができます。
大画面の液晶テレビやプラズマテレビ、またはプロジェクターをお使いの場合に便利な機能です。

■HDMI Auto

HDMI接続のときはテレビ側の情報をもとに、映像と音声のずれを自動的に調節します。ただし、A/V Syncに対応したテレビにつないだ場合のみ機能します。

■0 ms － 1200 ms

0 ms～1200* msの範囲で10 msごとに調節できます。

＊音声ストリームによっては、最大値がより低い値に制限されることがあります。

Decode Priority

HDMI端子またはDIGITAL IN端子に入力されるデジタル音声の入力モードを入力ごとに独立して設定できます。

■PCM

DIGITAL IN端子からの信号を選んでいるときに、リニアPCM信号を優先して処理します（頭切れを防ぎます）。なお、リニアPCM以外の信号が入力された場合、信号フォーマットによっては音が出なくなることがあります。この場合は「Auto」に設定してください。
HDMI IN端子からの信号を選んでいるときは、つないだ機器からはリニアPCM信号のみ出力されるようになります。
その他のフォーマットを受信する場合は「Auto」に設定してください。

■Auto

ドルビーデジタル、DTS、MPEG-2 AAC、リニアPCMの音声入力を自動的に切り換えます。

Sound Field

入力信号に適用する音響効果を入力ごとに独立して設定できます。詳しくは「音響効果を楽しむ」（54ページ）をご覧ください。

Sound Field Mode

フロントハイスピーカーから音声を出力するかどうかを設定することができます。詳しくは、「Sound Field Mode」（57ページ）をご覧ください。

ご注意

- 「A/V Sync」は、以下の場合は機能しません。
  －「MULTI IN」が選ばれている。
  －「2ch Analog Direct」を使用している。
- 「Decode Priority」を「PCM」に設定した場合でも、再生するディスクの信号によっては頭切れすることがあります。

映像設定（Video Settings）

映像に関する設定ができます。

Resolution

入力したアナログ映像信号の解像度を変換して出力します。

■Direct

入力したアナログ映像信号をそのまま出力します。

■Auto

■480i/576i

■480p/576p

■720p

■1080i

■1080p

「Resolution」の設定	出力信号 / 入力信号	HDMI OUT端子	COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子
Direct	COMPONENT VIDEO IN端子	–	○	–
	VIDEO IN端子	–	–	○
Auto（初期設定）	COMPONENT VIDEO IN端子	●[a]	●[b]	●[b]
	VIDEO IN端子	●[a]	●[b]	●[b]
480i/576i	COMPONENT VIDEO IN端子	●[c]	●	●
	VIDEO IN端子	●[c]	●	●
480p/576p	COMPONENT VIDEO IN端子	●	●	–
	VIDEO IN端子	●	●	○
720p、1080i	COMPONENT VIDEO IN端子	●	●[d]	–
	VIDEO IN端子	●	●[d]	○
1080p	COMPONENT VIDEO IN端子	●	○	–
	VIDEO IN端子	●	–	○

●： 映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
○： 映像は変換されず、入力と同じ種類の信号のみ出力されます。
–： 映像を出力しません。

a) つないでいるモニターによって、解像度は自動的に設定されます。
b) HDMI OUT 端子にテレビがつながれていないときに「Resolution」が「Auto」に設定されている場合、480i/576i の信号が出力されます。
c) 480i/576i に設定しても、480p/576p の信号が出力されます。
d) 著作権保護されていない映像は、メニューの設定のとおりに出力されます。著作権保護された映像は、480p/576p として出力されます。

ご注意

- モニターなどを HDMI OUT 端子につないだときは、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT 端子、MONITOR VIDEO OUT 端子から、映像信号は出力されません。
- つないだテレビが「Resolution」で選んだ解像度に対応していないときは、映像は正しく出力されません。
- 変換された HDMI 映像出力信号は Deep Color、“x.v.Color” および 3D には対応していません。

Zone Resolution

2ndゾーンのアナログ映像入力の解像度を変換できます。

■480i/576i

■480p/576p

■720p

■1080i

「Zone Resolution」の設定	出力信号 / 入力信号	ZONE 2 COMPONENT VIDEO OUT端子	ZONE 2 VIDEO OUT端子
480i/576i（初期設定）	COMPONENT VIDEO IN端子	●	●
	VIDEO IN端子	●	●
480p/576p	COMPONENT VIDEO IN端子	●	–
	VIDEO IN端子	●	–
720p、1080i	COMPONENT VIDEO IN端子	●*	–
	VIDEO IN端子	●*	–

●：映像は変換されて、ビデオコンバーターを通して出力されます。
–：映像を出力しません。

＊ 著作権保護されていない映像は、メニューの設定のとおりに出力されます。著作権保護された映像は、480p/576p として出力されます。

Playback Resolution

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

■480i/576i

■480p/576p

■720p

■1080i

■1080p

出力される映像解像度 / 「Playback Resolution」の設定	HDMI OUT端子	MONITOR COMPONENT VIDEO OUT端子	MONITOR VIDEO OUT端子	ZONE 2 COMPONENT VIDEO OUT端子	ZONE 2 VIDEO OUT端子
480i/576i	480i/576i	480i/576i*	480i/576i*	480i/576i*	480i/576i*
480p/576p	480p/576p	480p/576p*	480i/576i*	480p/576p*	480i/576i*
720p（初期設定）	720p	720p*	–	720p*	–
1080i	1080i	1080i*	–	1080i*	–
1080p	1080p	1080i*	–	1080i*	–

＊マクロビジョンにより保護された一部のコンテンツを再生する場合には、映像を低解像度で出力したり、出力しないことを知らせる警告メッセージを表示したりすることがあります。

ご注意

- 「この端子では出力できない映像です。」という警告メッセージが表示された場合には、以下の手順を実行してください。
  ① メインゾーンの入力を「BD/DVD」にする。
  ②「Playback Resolution」を「480i/576i」または「480p/576p」に変更する。
- USB デバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオ経由のコンテンツを再生したときに、画面が表示されなくなった場合には、以下の手順を実行してください。
  ① メインゾーンの入力を「BD/DVD」にする。
  ②「Playback Resolution」をより低い解像度に設定にする。

つづく

3D Output Settings

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

■Auto

3D対応コンテンツを3Dで表示するときに選びます。

■Off

すべてのコンテンツを2Dで表示するときに選びます。

TV Type

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

■16:9

ワイドスクリーンテレビやワイドモード機能があるテレビをつないでいるときに選びます。

■4:3

ワイドモード機能がない4：3画面のテレビをつないでいるときに選びます。

Screen Format

この機能は、USBデバイス、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを対象としています。

■Original

ワイドモード機能があるテレビをつないでいるときに選びます。ワイドテレビでも4：3の画像をアスペクト比を変えずに表示します。

■Fixed Aspect Ratio

画像のアスペクト比を画面サイズに合わせて変更します。

HDMI 設定

（HDMI Settings）

HDMI端子につないだ機器のための設定ができます。

Subwoofer Level

HDMI接続を通してマルチチャンネルリニアPCM信号が入力されているとき、アクティブサブウーファーのレベルを「0 dB」または「+10 dB」に設定できます。HDMI入力端子をもつ入力ごとに独立してレベルを設定できます。

■0 dB

■Auto

入力ソースの音声ストリームによって自動的に「0 dB」または「+10 dB」に設定します。

■+10 dB

Subwoofer Low Pass Filter

HDMI接続でリニアPCM信号が入力されているときに、アクティブサブウーファー出力のローパスフィルターを設定します。お持ちのアクティブサブウーファーにクロスオーバー周波数調整などのローパスフィルターがない場合に設定してください。HDMI入力端子をもつ入力ごとに独立して設定できます。

■Off

ローパスフィルターは働きません。

■On

常にカットオフ周波数120 Hzのローパスフィルターが働きます。

Audio Out

本機とHDMI接続した再生機からの音声の出力先を設定します。

■**TV+AMP**

再生機の音声を本機につないだスピーカーと、本機にHDMI接続されたテレビのスピーカーの両方から再生します。

■**AMP**

再生機の音声を本機につないだスピーカーから出力します。マルチチャンネルの音声をそのまま再生可能です。

H.A.T.S.

H.A.T.S.（High quality digital Audio Transmission System）機能を有効にします。
H.A.T.S.機能はデジタル音声信号の伝送時にジッター（信号読み込み時に生じる時間軸のずれ）を排除し、音質を向上させます。

■**Off**

■**On**

H.A.T.S.機能が有効なストリーム

入力する音声信号	サンプリング周波数
2chリニアPCM	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
マルチチャンネルリニアPCM	44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
DSD	2.8224 MHz

Control for HDMI

HDMI接続した機器のHDMI機器制御機能を有効にします。

■**Off**

■**On**

Sound Field

デジタル放送の番組を視聴するときに、オートジャンルセレクター機能を使うかどうかを設定します。
詳しくは、「オートジャンルセレクター」（66ページ）をご覧ください。

■**Auto**

■**Manual**

Pass Through

本機がスタンバイ状態でもHDMI信号をテレビに出力できるようにします。詳しくは、「本機がスタンバイ中でも再生機器を楽しむ （パススルー）」（68ページ）をご覧ください。

■**Off**

■**On**

Video Direct

入力された映像信号をHDMI IN端子からHDMI OUT端子に直接出力します。

■**Off**

HDMI IN端子からの入力信号がビデオプロセッサーを通して出力されます。

■**On**

HDMI IN端子からの入力信号が直接出力されます。

ご注意

- 「Audio Out」が「TV+AMP」に設定されていると、再生機の音質はチャンネル数、サンプリング周波数など、テレビの性能に影響されます。テレビがステレオ（2ch）スピーカーの場合は、マルチチャンネルのソフトを再生しても、本機の音声出力はテレビと同じステレオ（2ch）になります。
- 本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。
- 「Audio Out」を「TV+AMP」に設定しても、Input Settings メニューの「Audio Input Assign」で音声入力として HDMI 入力端子を選んでいない場合は、テレビから音声は出ません。
- 「Control for HDMI」が「On」のとき、「Audio Out」の設定が自動的に変わる場合があります。
- 「H.A.T.S.」が有効になっているとき、接続機器の再生や停止、一時停止ボタンなどを押して再生を始めても、システムの制限により音が出るまでに時間がかかります。このときのタイムラグは音源により異なります。
- 「H.A.T.S.」は本機とソニー製スーパーオーディオ CD プレーヤー SCD-XA5400ES をつないだ場合に働きます。
- 「H.A.T.S.」が動作している場合は、フロントハイスピーカーから音が出力されません。

入力設定

（Input Settings）

本機と他機器の接続に関わる設定を調節できます。

Input Edit

各入力について以下の項目を設定します。

■Watch/Listen

入力をWatchメニュー、Listenメニューのどちらに表示させるかを設定します。

- Watch：Watchメニューに表示されます。
- Listen：Listenメニューに表示されます。
- Watch/Listen：Watchメニュー、Listenメニューの両方に表示されます。
- Hidden：Watchメニュー、Listenメニューのどちらにも表示させません。入力を選ぶときに、使用していない入力をスキップすることができます。

■Icon

Watch/Listenメニューに表示されるアイコンを設定します。

■Name

Watch/Listenメニューに表示される名前を設定します。

Audio Input Assign

各入力に割り当てる音声入力端子を設定します。
詳しくは「他の映像／音声入力端子を使う」（70ページ）をご覧ください。

Video Input Assign

各入力に割り当てる映像入力端子を設定します。
詳しくは「他の映像／音声入力端子を使う」（70ページ）をご覧ください。

ネットワーク設定

（Network Settings）

ネットワークの設定をすることができます。

Internet Settings

ネットワークの設定を確認したり変更したりできます。以下の項目については、設定を自動でも手動でも変更することができます。

- IP Adress
- DNS
- Proxy Server

あらかじめ本機をネットワークに接続してください。
詳しくは「準備5：ネットワークに接続する」（39ページ）をご覧ください。

Connection Server Settings

接続しているDLNAサーバーを表示するかどうかを設定します。

Renderer Options

■Renderer Name

本機のレンダラー名を表示します。

■Auto Access Permission

新たに検出されたDLNAコントローラーからの自動アクセスの可否を設定します。

Renderer Access Control

DLNAコントローラーからのコマンドを受け付けるかどうかを設定します。

External Control

ホームネットワーク上の「ES Remote」から本機を操作する機能を有効にします。

■Off

■On

ご注意

「Input Edit」の「Watch/Listen」で「Hidden」、または GUI を使わずに「INPUT SETTINGS」の「INPUT SKIP ?」（100 ページ）で「HIDDEN」に設定した入力は、本体の INPUT SELECTOR でも選択できなくなります。

Network Standby

本機がスタンバイ状態であっても、ネットワーク機能を有効にして、本機のスイッチングハブを機能させたり、ネットワークコントローラーや「ES Remote」から本機を操作したりできるようにします。また、スタンバイ状態時に、本機の電源を入れたあとのネットワーク機能の起動時間を短縮します。

■Off

本機がスタンバイ状態のときは、ネットワーク機能を停止します。

■On

本機がスタンバイ状態であっても、ネットワーク機能を有効にします。

インターネットサービス設定

（Internet Services Settings）

Parental Control Password

視聴制限機能のパスワードを設定、変更します。パスワードでインターネットビデオの再生制限を設定できます。

Parental Control Area Code

一部のインターネットビデオでは地理的地域によって再生が制限され、特定のシーンがブロックされたり、別のシーンに差し換えられたりすることがあります。画面上の指示にしたがって設定を行ってください。

コード	地域	コード	地域
2044	Argentina	2304	Korea
2047	Australia	2333	Luxembourg
2046	Austria	2363	Malaysia
2057	Belgium	2362	Mexico
2070	Brazil	2376	Netherlands
2090	Chile	2390	New Zealand
2092	China	2379	Norway
2093	Colombia	2427	Pakistan
2115	Denmark	2424	Philippines
2165	Finland	2428	Poland
2174	France	2436	Portugal
2109	Germany	2489	Russia
2200	Greece	2501	Singapore
2219	Hong Kong	2149	Spain
2248	India	2499	Sweden
2238	Indonesia	2086	Switzerland
2239	Ireland	2543	Taiwan
2254	Italy	2528	Thailand
2276	Japan	2184	United Kingdom

Internet Video Access

インターネットビデオのコンテンツ再生時に、パスワードの入力を必要とするかどうかを設定します。画面上の指示にしたがって設定を行ってください。

つづく

Internet Video Parental Control

一部のインターネットビデオでは年齢によって再生が制限され、特定のシーンがブロックされたり、別のシーンに差し換えられたりすることがあります。
画面上の指示にしたがって設定を行ってください。

Internet Video Unrated

視聴制限されていないインターネットビデオの再生の可否を設定します。

■Allow

視聴制限されていないインターネットビデオの再生を許可します。

■Block

視聴制限されていないインターネットビデオの再生をブロックします。

ゾーン設定

(Zone Settings)

メインゾーン、2ndゾーン、3rdゾーンの設定ができます。

Zone Control

2ndゾーン／3rdゾーンのオン／オフを切り換えるには

2ndゾーンまたは3rdゾーンの操作のオン／オフを切り換えることができます。

1 オン／オフを切り換えたいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「On」または「Off」を選び、⊕を押す。
- On
- Off

各ゾーンのソースを選ぶには

ゾーンに出力するソースを選ぶことができます。
2ndゾーンには映像信号と音声信号が出力されます。
3rdゾーンには音声信号のみ出力されます。

1 映像／音声信号を出力したいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「Input」を選び、⊕を押す。

3 入力を選び、⊕を押す。

2ndゾーンの音量を調節するには

SURROUND BACK (ZONE 2)端子を2ndゾーン接続で使用している場合は、2ndゾーンの音量を調節することができます。
「Line Out」が「Variable」に設定されている場合は、「Zone Control」でも音量を調節することができます。
2ndゾーンの音量を2ndゾーンからリモコンで調節したい場合は、「本機を2ndゾーン／3rdゾーンで操作する」（64ページ）をご覧ください。

1 音量を調節したいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「Volume」を選び、⊕を押す。

3 音量を調節し、⊕を押す。

Zone Setup

メインゾーン／2ndゾーンの音量をプリセットするには

本機の電源を入れたときの各ゾーンの音量をプリセットすることができます。

1 音量をプリセットしたいゾーンを選び、⊕を押す。

2 「Preset Volume」を選び、⊕を押す。

3 音量を調節し、⊕を押す。
調節中は、MASTER VOLUMEの値にかかわらず、調節した音量で音が出力されます。
「Off」に設定した場合は、各ゾーンは前回電源を切ったときの音量で起動します。

Line Out

ZONE 2 AUDIO OUT端子の音量調節を「Variable（可変）」または「Fixed（固定）」に設定できます。詳しくは、「2ndゾーンの音量調節の設定をする」（63ページ）をご覧ください。

■Fixed

■Variable

12V Trigger

12Vトリガ機能を使うためのさまざまなオプションを選んだりすることができます。

■Off

本機の電源が入っていても、12Vトリガの出力を常にオフにします。

■Ctrl

外部制御機器のコントロールコマンドを使って、12Vトリガの出力のオン／オフを手動で切り換えます。

■Zone

選んだゾーンのオン／オフに連動して、12Vトリガの出力のオン／オフを切り換えます。

■Input（「Main」のみ）

あらかじめ設定した入力が選ばれたとき、12Vトリガの出力をオンに切り換えます。
「INPUT」を選ぶと、各入力トリガのオン／オフを設定する設定画面が表示されます。↑/↓を押して入力を選び、⊕を押してボックスをチェックします。

■HDMI A（「Main」のみ）

HDMI OUT A端子の出力設定に連動して、12Vトリガの出力のオン／オフを切り換えます。

■HDMI B（「Main」のみ）

HDMI OUT B端子の出力設定に連動して、12Vトリガの出力のオン／オフを切り換えます。

■Main（「Zone2」および「Zone3」のみ）

2ndゾーンまたは3rdゾーンのトリガ操作を本機に連動させます。

ご注意
- 以下の場合は、2nd ゾーンの音量をプリセットできません。
  – SURROUND BACK (ZONE 2) 端子を、サラウンドバック、フロントハイスピーカー用に使用している、またはバイアンプ接続で使用している。
  –「Line Out」が「Fixed」に設定されている。

システム設定

（System Settings）

本機の各種設定を変えることができます。

Auto Standby

操作や信号の入力がないときに、本機のメインゾーンを自動的にスタンバイ状態に切り換えます。

■Off

スタンバイ状態に切り換えません。

■On

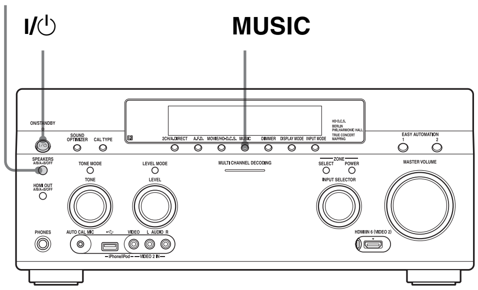
約30分後にスタンバイ状態に切り換えます。

Settings Lock

本機の設定をロックします。

■On

Settingsメニューからは、この機能をオンにする操作のみが可能です。オフにするときは、以下の操作を行ってください。



1 **I/⏻ を押して、本機の電源を切る。**

2 **MUSIC と SPEAKERS (A/B/A+B/OFF) を押しながら、I/⏻ を押して、本機の電源を入れる。**

RS232C Control

保守・サービスのためのコントロールモードを有効にします。

■Off

■On

Software Update Notification

新しいソフトウェア情報をGUI上に通知するかどうかを設定します。

■On

■Off

本機のソフトウェアをアップデートするには

本機のソフトウェアをアップデートするには「ネットワークアップデート （Network Update）」（97ページ）をご覧ください。

Initialize Personal Information

インターネットコンテンツリストや「お気に入り一覧」など、インターネットビデオに関連する個人情報を消去することができます。

System Information

本機のソフトウェアバージョンを表示します。

EULA

ソフトウェア使用許諾をテレビ画面に表示します。

ご注意

- 以下の場合、Auto Standby 機能は働きません。
  - 「MULTI IN」が選ばれている。
  - USB デバイス、iPhone/iPod、ホームネットワーク、インターネットビデオのコンテンツを再生している。
- 以下の場合、本機のアップデートは実行されません。
  - すべて最新のバージョンの場合
  - ネットワークの設定がされていない、サーバーがダウンしているなどの理由によって、本機がデータを取得できない場合

ネットワークアップデート

（Network Update）

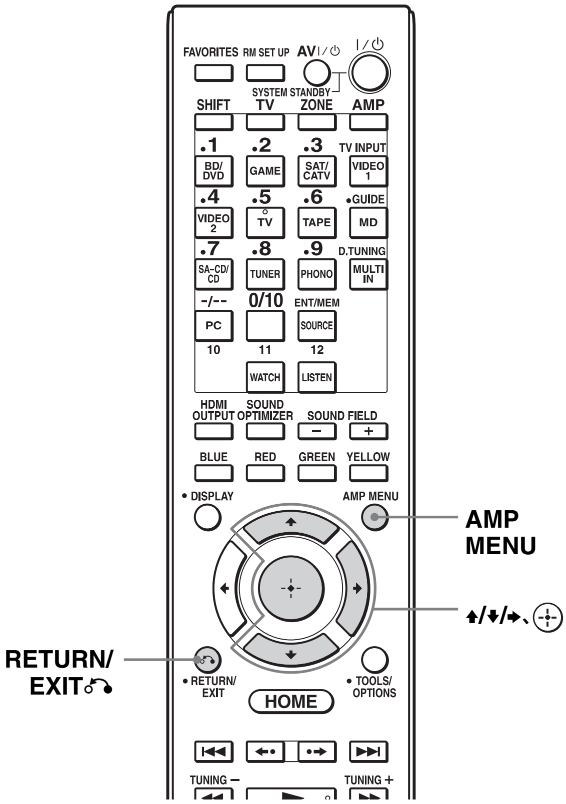
アップデートにより本機の機能を向上させることができます。
アップデート機能の情報については、下記のウェブサイトを参照してください。
http://www.sony.jp/support/audio/

アップデート中は、GUIと表示窓が消え、本体前面のMULTI CHANNEL DECODINGランプが点滅します。
アップデートが完了すると、本機は自動的に再起動します。

アップデートの完了までに約50分かかります。なお、インターネットの接続速度によってはアップデート完了に要する時間が異なります。

GUI を使わずに本機を操作する

本機をテレビにつないでいない場合、GUIを使わずに本体の表示窓の表示で操作できます。



表示窓のメニューを使う

1 本機の電源を入れる。

2 AMP MENU を押す。
本体の表示窓にメニューが表示されます。

例：「SPEAKER SETTINGS」の場合



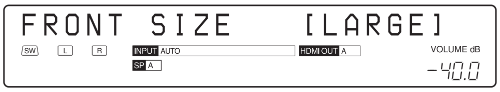
ご注意
ソフトウェアのアップデート中に本機の電源を切ったり、LANケーブルを抜いたりしないでください。故障の原因となります。

つづく

3 ↑/↓ をくり返し押してメニューを選び、⊕を押す。

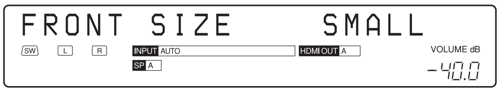
4 ↑/↓ をくり返し押してメニュー項目を選び、⊕を押す。

項目のパラメーターが選択可能になります。



5 ↑/↓ をくり返し押してお好みのパラメーターを選び、⊕を押す。

パラメーターが確定します。



1つ前の手順に戻るには

RETURN/EXIT ↶ を押す。

メニュー一覧（表示窓）

各メニューから以下のオプションが設定できます。
「■■」はそれぞれの項目の設定値が入ります。

メニュー	項目	設定値
AUTO CALIBRATION	AUTO CAL START ?	
	FRONT B CONNECT:■■■?	YES、NO
	5 4 3 2 1	
	MESURING: TONE	
	MESURING: T.S.P.	
	MESURING: WOOFER	
	COMPLETE [■■■■■■■■■■■]	RETRY、SAVE EXIT、WRN CHECK、PHASE INFO、DIST. INFO、LEVEL INFO、EXIT
	WARNING CODE [■■■:4■]	FL、FR、C、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH：0、1、2、3、4
	NO WARNING	
	PHASE.INFO [■■■:■■■]	FL、FR、C、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH：OUT、IN
	DIST.INFO [■■■■■■■■■■■]	FL、FR、C、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH
	LEV.INFO [■■■:■■■■■■]dB	FL、FR、C、SL、SR、SBR、SBL、SW、LH、RH
	ERROR CODE [■■■:3■]	F、SR、SB：0、1、2、3、4
	RETRY?[■■■■]	YES、EXIT
	CANCEL	
	CAL TYPE [■■■■■■■■■■]	FULL FLAT、ENGINEER、FRONT REF、USER REF、OFF
	A.P.M. [■■■■]	AUTO、OFF
	SP RELOCATION [■■■■■]	TypeA、TypeB、OFF
	FRONT REF TYPE [■■■]	L/R、L、R
	SP PAIR MATCH [■■■]	ALL、SUR、OFF
	POSITION [■■■■■■■■■]	POS.1、POS.2、POS.3
	NAME IN ? [■■■■■■■■■]	
LEVEL SETTINGS	TEST TONE [■■■■■■■■■]	OFF、L～RH（AUTO）、L～RH（FIX）
	PHASE NOISE [■■■■■■■■]	OFF、L/R、L/C、C/R、R/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL、SBL/SL、SL/L、LH/RH、L/SR、SL/R、L/RH、LH/R
	PHASE AUDIO [■■■■■■■■]	OFF、L/R、L/C、C/R、R/SR、SR/SBR、SR/SB、SBR/SBL、SR/SL、SB/SL、SBL/SL、SL/L、LH/RH、L/SR、SL/R、L/RH、LH/R
	FRONT L [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	FRONT R [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	CENTER [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SURROUND L [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SURROUND R [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SUR BACK [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SUR BACK L [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SUR BACK R [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	LEFT HIGH [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	RIGHT HIGH [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SUBWOOFER [■■■.■ dB]	–20.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	ALL SUR LEVEL [■■■.■ dB]	–5 dB to +5 dB（1dB単位）

つづく

メニュー	項目	設定値
SPEAKER SETTINGS	SP PATTERN [■■■■■]	5/4.1～2/0（28パターン）
	SB OUTPUT [■■■■■■■]	SPEAKER、PREOUT
	FH OUTPUT [■■■■■■■]	SPEAKER、PREOUT
	FRONT SIZE [■■■■■]	LARGE、SMALL
	CENTER SIZE [■■■■■]	LARGE、SMALL
	SURROUND SIZE [■■■■■]	LARGE、SMALL
	FH SIZE [■■■■■]	LARGE、SMALL
	SB ASSIGN [■■■■■]	OFF、BI-AMP、ZONE2
	FRONT L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	FRONT R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	CENTER [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	SURROUND L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	SURROUND R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	SUR BACK [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	SUR BACK L [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	SUR BACK R [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	LEFT HIGH [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	RIGHT HIGH [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	SUBWOOFER [■■■■■■■■■■]	1.0m～10.0m（1cm単位）
	DISTANCE UNIT [■■■■■]	meter、feet
	FR CROSSOVER [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）
	CNT CROSSOVER [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）
	SUR CROSSOVER [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）
	FH CROSSOVER [■■■ Hz]	40 Hz～200 Hz（10 Hz単位）
	CNT A.DOWN MIX [■■■]	OFF、ON
	SP IMPEDANCE [■ ohm]	8 ohm、4 ohm
INPUT SETTINGS	NAME IN ? [■■■■■■■■■]	
	INPUT SKIP ?	
	■■■■■■■■■ [■■■]	SHOWN、HIDDEN
	HDMI AUDIO ASSIGN ?	
	■■■■■■■■■ [■■■■■■■■■■■]	
	HDMI VIDEO ASSIGN ?	
	■■■■■■■■■ [■■■■■■■■■■■]	
	DIGITAL A.ASSIGN ?	
	■■■■■■■■■ [■■■■■■■■■■■]	
	COMPONENT V.ASSIGN ?	
	■■■■■■■■■ [■■■■■■■■■■■]	
SUR SETTINGS	S.F.MODE [■■■■■■■■■■■]	FRONT HIGH、STANDARD
	HD-DCS TYPE [■■■■■■■]	DYNAMIC、THEATER、STUDIO
	T.CONCERT LEV. [■■■■]	HIGH、MID、LOW
	HIGHT GAIN [■■■■]	HIGH、MID、LOW
EQ SETTINGS	FRONT BASS [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	FRONT TREBLE [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	CENTER BASS [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	CENTER TREBLE [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SUR/SB BASS [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	SUR/SB TREBLE [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	FH BASS [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）
	FH TREB [■■■.■ dB]	–10.0dB～+10.0dB（0.5dB単位）

メニュー	項目	設定値
MULTIZONE SETTINGS	P.VOL. MAIN [■■■.■db]	OFF、–∞、–92.0dB～+23.0dB（0.5dB単位）
	P.VOL. ZONE2 [■■■db]	OFF、–∞、–92dB～+23dB（1dB単位）
	Z2 LINEOUT [■■■■■■■■]	FIXED、VARIABLE
	12V TRIG. MAIN [■■■■■]	OFF、CTRL、ZONE、INPUT、HDMIA、HDMIB
	12V TRIG. ZONE2 [■■■■■]	OFF、CTRL、ZONE、MAIN
	12V TRIG. ZONE3 [■■■■■]	OFF、CTRL、ZONE、MAIN
AUDIO SETTINGS	D.L.L. [■■■■]	AUTO2、AUTO1、OFF
	SOUND OPTIMIZER [■■■]	ON、OFF
	AUTO VOLUME [■■■]	ON、OFF
	S.WOOFER MUTING [■■■]	ON、OFF
	A/V SYNC [■■■■■■■■■■]	HDMI AUTO、0ms～1200ms（10ms単位）
	DUAL MONO [■■■■■■■■■]	MAIN/SUB、MAIN、SUB
	DEC. PRIORITY [■■■■]	AUTO、PCM
	D. RANGE COMP. [■■■]	OFF、AUTO、ON
VIDEO SETTINGS	RESOLUTION [■■■■■■■■]	DIRECT、AUTO、480/576i、480/576p、720p、1080i、1080p
	ZONE RESO. [■■■■■■■■]	480/576i、480/576p、720p、1080i
HDMI SETTINGS	CTRL FOR HDMI [■■■]	ON、OFF
	PASS THROUGH [■■■■]	ON、OFF
	H.A.T.S. [■■■]	ON、OFF
	AUDIO OUT [■■■■■■]	AMP、TV+AMP
	SOUND FIELD [■■■■■■]	AUTO、MANUAL
	SW LEVEL [■■■dB]	AUTO、+10dB、0dB
	SW LPF [■■■]	ON、OFF
	VIDEO DIRECT [■■■]	ON、OFF
SYSTEM SETTINGS	RS232C CONTROL [■■■]	ON、OFF
	NETWORK STANDBY [■■■]	ON、OFF
	AUTO STANDBY [■■■]	ON、OFF
	VERSION [■.■■■]	–

表示を切り換えるには

表示を切り換えて、サウンドフィールドなどの設定を確認できます。

1 情報を確認したい入力を選ぶ。

2 本体のDISPLAY MODEをくり返し押す。
DISPLAY MODEを押すたびに、入力→サウンドフィールド→入力名の順に表示が切り換わります。

リモコンで他機を操作する

付属の多機能リモコンを使って、他にお使いの機器を操作することができます。
初期設定では、ソニー製の機器が操作できるように設定されています。
お使いの機器に合わせて設定を変更すると、初期設定では操作できないソニー製機器や他社製の機器を操作することができます（103ページ）。

接続した機器を操作する

1 操作したい接続機器に対応した入力切り換え用ボタンを押す。

2 下の表で●の付いたボタンを使って、それぞれの機器を操作する。

接続機器を操作できる本機のリモコンのボタン

ボタン ＼ 選ばれている機器	テレビ	ビデオデッキ	DVDレコーダー／プレーヤー	ブルーレイディスクレコーダー	HDDレコーダー	PSX	ビデオCDプレーヤー／LDプレーヤー	BSデジタル／デジタルCSチューナー	カセットデッキ（AとB）	DATデッキ	CDプレーヤー／MDデッキ	チューナー
AV I/⏻	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●	
数字ボタン	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
TV INPUT	●											
GUIDE	●		●	●	●	●		●				
D.TUNING												●
-/--	●	●	●	●	●	●	●		●		●	
ENT/MEM	●	●	●	●	●	●	●a)	●	●	●	●	●
カラーボタン	●		●	●	●			●				
d	●		●	●				●				
TOOLS/OPTIONS	●		●	●	●	●						
DISPLAY	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●
RETURN/EXIT	●		●	●	●	●	●	●				
↑/↓/←/→、⊕、HOME	●	●	●	●	●	●		●				
⏮/⏭	●	●	●	●	●	●	●		●b)	●	●	
←·/·→	●		●	●	●	●						
◀◀/TUNING –、▶▶/TUNING +	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	●
DISK SKIP			●c)				●d)				●	
▶、II、■	●	●	●	●	●	●	●		●	●	●	
MUTING、TV VOL +/–	●											
PRESET +/–、TV CH +/–	●	●	●	●	●		●a)	●				●
TOP MENU、POP UP/MENU			●	●		●						
AUDIO	●	●	●	●	●	●				●		
SUBTITLE	●		●	●	●	●						

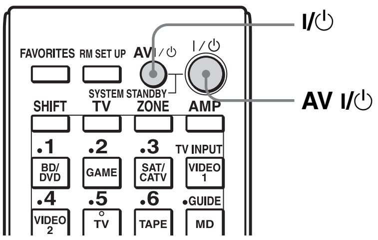
a) LD プレーヤーのみ操作できます。
b) デッキ B のみ操作できます。
c) DVD プレーヤーのみ操作できます。
d) ビデオ CD のみ操作できます。

ご注意
お使いの機器によっては、一部の機能が操作できないことがあります。

すべての接続機器の電源を切る

(SYSTEM STANDBY)

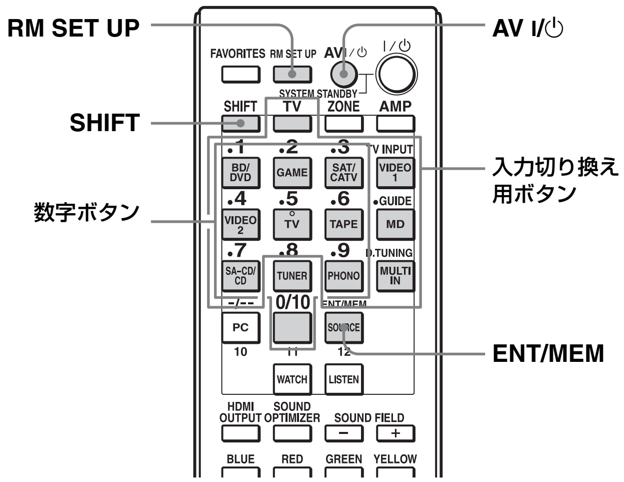
本機がスタンバイ状態であっても、2nd ゾーンまたは3rd ゾーンの電源は入ったままです。各ゾーンも含めてすべてのソニー製機器の電源を切るには、多機能リモコンのI/⏻とAV I/⏻を同時に押します。



お使いの機器に合わせてリモコンコードを設定する

本機につないだ機器を操作できるように多機能リモコンを設定できます。また、初期設定のままでは操作できないソニー製の機器や他社製の機器も設定できます。

例：本体後面のVIDEO 1 IN端子につないだ他社製のビデオデッキを、このリモコンで操作できるように設定するとき



1 RM SET UPを押しながら、AV I/⏻を押す。

RM SET UPが点滅します。

2 RM SET UP が点滅している間に、入力切り換え用ボタン(TV ボタンを含む)を押して設定したい入力を選ぶ。

例えば、VIDEO 1 IN端子につないだビデオデッキを操作したいときは、VIDEO 1を選びます。
RM SET UPとSHIFTが点灯し、入力切り換え用ボタンが点滅します。
TUNERやPHONO、PC、SOURCEなどプログラムできない入力を選んだ場合は、RM SET UPが点滅を続けます。

3 数字ボタンを押して、機器とメーカー別の対応コードを入力する。

入力切り換え用ボタンが点灯します。
コードが複数ある場合は、そのうちの1 つ を入力します。

4 ENT/MEM を押す。

有効な対応コードが入力されると、RM SET UPが2回点滅し、設定モードが終了します。
入力切り換え用ボタンも消灯します。

つづく

設定操作を途中でやめるときは

手順の途中で、RM SET UPを押します。

機器・メーカー別の対応コード

以下の対応コードを使って他社製の機器や、初期設定のままでは操作できないソニー製機器を操作できるように設定します。それぞれの機器が受け付けるリモコン信号はモデルや年式によっても異なりますので、1つの機器に複数のコードが割り当てられている場合もあります。ある1つのコードを使っても設定できない場合は、別のコードを使って設定してみてください。

CDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	101、102、103
DENON	104、123
JVC	105、106、107
KENWOOD	108、109、110
MAGNAVOX	111、116
MARANTZ	116
ONKYO	112、113、114
PANASONIC	115
PHILIPS	116
PIONEER	117
TECHNICS	115、118、119
YAMAHA	120、121、122

DATデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	203
PIONEER	219

カセットデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	201、202
DENON	204、205
KENWOOD	206、207、208、209
NAKAMICHI	210
PANASONIC	216
PHILIPS	211、212
PIONEER	213、214
TECHNICS	215、216
YAMAHA	217、218

MDデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	301
DENON	302
JVC	303
KENWOOD	304

HDDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	307、308、309

ブルーレイディスクレコーダー／プレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	310、311、312
LG	337
PANASONIC	331、332、333、335
PIONEER	334
SAMSUNG	336
SHARP	459、460、461

PSXの対応コード

メーカー	コード
SONY	313、314、315

DVDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
BROKSONIC	424
DENON	405
HITACHI	416
JVC	415、423
MITSUBISHI	419
ORITRON	417
PANASONIC	406、408、425
PHILIPS	407
PIONEER	409、410
RCA	414
SAMSUNG	416、422
TOSHIBA	404、421
ZENITH	418、420

ご注意

- TV ボタンに登録できるのは、500 番台のコードのみです。
- 対応コードは、各メーカーの最新情報に基づいて決められています。ただし、機器によっては一部またはすべての対応コードに反応しない場合もありますので、あらかじめご了承ください。
- お使いの機器によっては、どの入力切り換え用ボタンも機能しないことがあります。

DVDレコーダーの対応コード

メーカー	コード
SONY	401、402、403
SHARP	459、460、461
HITACHI	441、442、443
JVC	444、445、446、447、459、460、461
MITSUBISHI	448、449
PANASONIC	450、451、452
PIONEER	453、454、455、456、457、458
TOSHIBA	462、463、464

テレビの対応コード

メーカー	コード
SONY	501、502
AIWA	501、536、539
AKAI	503
AOC	503
CENTURION	566
CORONADO	517
CURTIS-MATHES	503、551、566、567
DAYTRON	517、566
DAEWOO	504、505、506、507、515、544
FISHER	508、545
FUNAI	548
FUJITSU	528
GOLDSTAR/LG	503、512、515、517、534、544、556、568、576、578
GRUNDIG	511、533、534
HITACHI	503、513、514、515、517、519、544、557、571
ITT/NOKIA	521、522
J.C.PENNY	503、510、566
JVC	516、552
KMC	517
MAGNVOX	503、515、517、518、544、566
MARANTZ	527
MITSUBISHI/MGA	503、519、527、544、566、568
NEC	503、517、520、540、544、554、566
NORDMENDE	530、558
NOKIA	521、522、573、575
PANASONIC	509、524、553、559、572
PHILIPS	515、518、557、570、571
PHILCO	503、504、514、517、518
PIONEER	509、525、526、540、551、555、579
PORTLAND	503
QUASAR	509、535
RADIO SHACK	503、510、527、565、567
RCA/PROSCAN	503、510、523、529、544
SAMSUNG	503、515、517、531、532、534、544、556、557、562、563、566、569
SAMPO	566
SABA	530、537、547、549、558
SANYO	508、545、546、560、567
SCOTT	503、566
SEARS	503、508、510、517、518、551
SHARP	517、535、550、561、565、577、580、581
SYLVANIA	503、518、566
THOMSON	530、537、547、549
TOSHIBA	535、539、540、541、551
TELEFUNKEN	530、537、538、547、549、558
TEKNIKA	517、518、567
WARDS	503、517、566
YORK	566
ZENITH	542、543、567
GE	503、509、510、544
LOEWE	515、534、556

LDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	601、602、603
PIONEER	606

ビデオCDプレーヤーの対応コード

メーカー	コード
SONY	605

ビデオデッキの対応コード

メーカー	コード
SONY	701、702、703、704、705、706
AIWA*	710、750、757、758
AKAI	707、708、709、759
BLAUPUNKT	740
EMERSON	711、712、713、714、715、716、750
FISHER	717、718、719、720
GENERAL ELECTRIC（GE）	721、722、730
GOLDSTAR/LG	723、753
GRUNDIG	724
HITACHI	722、725、729、741
ITT/NOKIA	717
JVC	726、727、728、736
MAGNAVOX	730、731、738
MITSUBISHI/MGA	732、733、734、735
NEC	736

つづく

メーカー	コード
PANASONIC	729、730、737、738、739、740
PHILIPS	729、730、731
PIONEER	729
RCA/PROSCAN	722、729、730、731、741、747
SAMSUNG	742、743、744、745
SANYO	717、720、746
SHARP	748、749
TELEFUNKEN	751、752
TOSHIBA	747、756
ZENITH	754

＊アイワのコードを設定してもアイワ製のビデオデッキを操作できない場合は、ソニーのコードを入力してください。

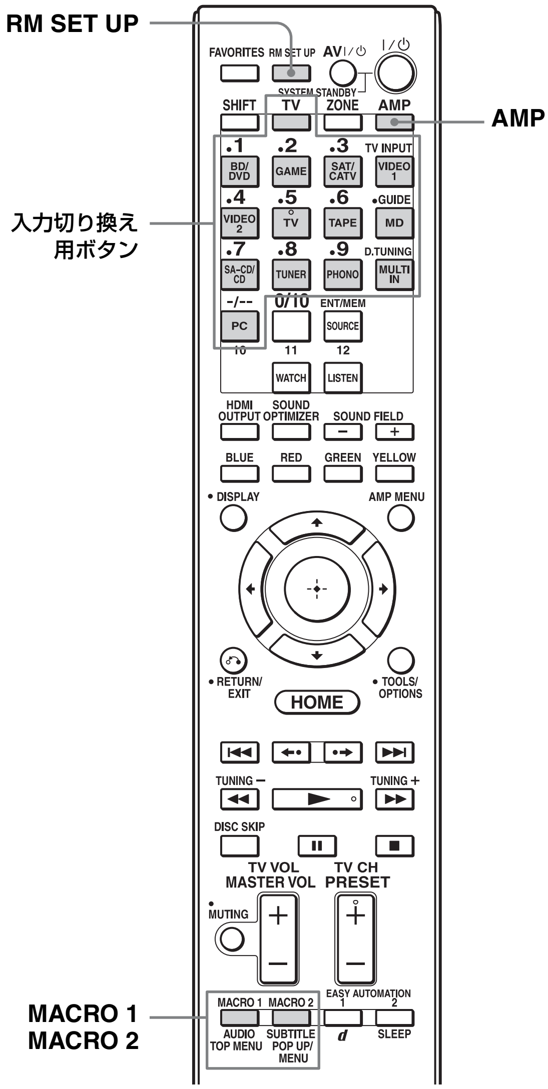
BSデジタルチューナー／デジタルCSチューナーの対応コード

メーカー	コード
SONY	801、802、803、804、824、825、865
AMSTRAD	845、846
BskyB	862
GENERAL ELECTRIC（GE）	866
GRUNDING	859、860
HUMAX	846、847
THOMSON	857、861、864、876
PACE	848、849、850、852、862、863、864
PANASONIC	818、855
PHILIPS	856、857、858、859、860、864、874
NOKIA	851、853、854、864
RCA/PROSCAN	866、871
HITACHI/BITA	868
HUGHES	867
JVC/Echostar/Dish Network	873
MITSUBISHI	872
SAMSUNG	875
TOSHIBA	869、870

いくつかの操作を続けて実行させる

（マクロ操作）

マクロ操作を使って、いくつかのリモコンコマンドを1つにまとめて連続送信できます。
マクロ操作は、2つ登録することができます（MACRO 1、2）。1つのマクロ操作には、20個までリモコンコマンドを登録することができます。



操作の実行順を登録する

1 **RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。**

RM SET UPが点滅し、入力切り換え用ボタンの1つが点灯します。
（初期設定ではBD/DVDが点灯します。）

2 **入力切り換え用ボタンを押して、連続した操作を割り当てたい機器を選ぶ。**

3 **実行させたい操作のボタンを順番に押して、連続した操作を登録する。**

以下のボタンでは特定の操作を登録することができます。

押すボタン	登録される操作
入力切り換え用ボタンを1秒以上押す	入力を切り換えます。
MACRO 1または MACRO 2	1秒の待機時間を設定します。 より長い待機時間を設定するには、MACRO 1またはMACRO 2をくり返し押します。

手順2で選んだ入力のボタンが2回点滅し、再び点灯します。

4 **他の入力に連続した操作を割り当てたいときは、手順 2 と 3 をくり返す。**

5 **RM SET UP を押して、登録を終了する。**

マクロ操作の登録を途中でやめるには

手順の途中で60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。前回登録した設定がそのまま有効です。

マクロ操作を実行する

1 **AMP を押す。**

AMPが点灯し、消灯します。

2 **MACRO 1またはMACRO 2を押してマクロ操作を実行する。**

マクロ操作が開始され、登録した順にコマンドが実行されます。
コマンドが送信されている間は、AMPが点滅し、RM SET UPが点灯します。送信が終了すると、RM SET UPとAMPは消灯します。

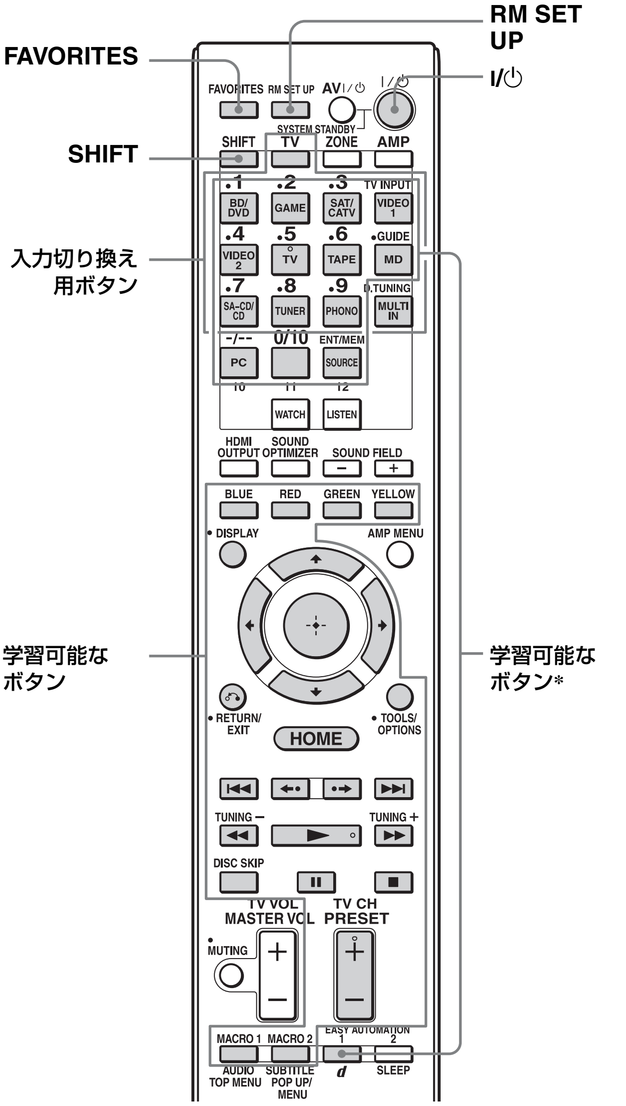
登録したマクロ操作を消すには

1 RM SET UP を押しながら、MACRO 1 または MACRO 2 を 1 秒以上押す。
RM SET UP がくり返し点滅します。

2 RM SET UPを押す。
登録したマクロ操作が消去されます。

本機のリモコンにないリモコンコードを学習させる

学習機能を使って、付属のリモコンに初期設定では登録されていないコードを学習させることができます。



＊これらのボタンに新しいコマンドを登録するには、先にSHIFT を押してから選びます。

1 RM SET UP を押しながら、FAVORITES を押す。

RM SET UPが点灯します。
容量が一杯になったときは、RM SET UP が10回点滅したあとに学習モードが終了します。

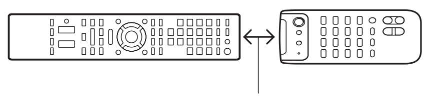
2 入力切り換え用ボタン（TV ボタンを含む）を押して、新しいコマンドで操作したい機器を選ぶ。

選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）
PC、SOURCEなどの学習できない入力を選んでも、その入力切り換え用ボタンは点滅しません。

3 新しいコマンドを割り当てたいボタンを押す。イラストで示した＊印の付いたボタンの場合は、SHIFT を押してから押す。

手順2で選んだ入力のボタンが点灯します。
（RM SET UPは点灯したままです。）
コマンド登録に失敗すると、RM SET UPが5回点滅します。
コマンド登録に失敗する場合は、すでにコマンドが登録されているボタンに登録しようとしていないか確認してください。すでにコマンドが登録されているボタンに新しいコマンドを登録する場合は、あらかじめ登録済みのコマンドを消去してください。

4 本機のリモコンコード受光部と、学習させたい機器のリモコンの送信部とを向かい合わせる。



5 学習させたい機器のリモコンのボタンを押して、リモコンコードを送信する。

本機のリモコンがコードを受信すると、手順2で選んだ入力ボタンが消灯します。
RM SET UPが2回点滅して、学習が完了します。
学習に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

6 RM SET UP を押して、学習機能を終了する。

学習を途中でやめるには

手順の途中でRM SET UPを押すか、60秒間何もボタンを押さないと、設定がキャンセルされます。
ただし、手順3を実行後は、RM SET UPを押しても設定がキャンセルされません。この場合は、リモコンを10秒間放置したあとRM SET UPを押して、設定をキャンセルしてください。

学習させたリモコンコードを使う

入力切り換え用ボタン（TV ボタンを含む）を押して、操作したい機器を選び、学習させたボタンを押す。

学習したリモコンコードを消すには

1 RM SET UP を押しながら、FAVORITES を押す。

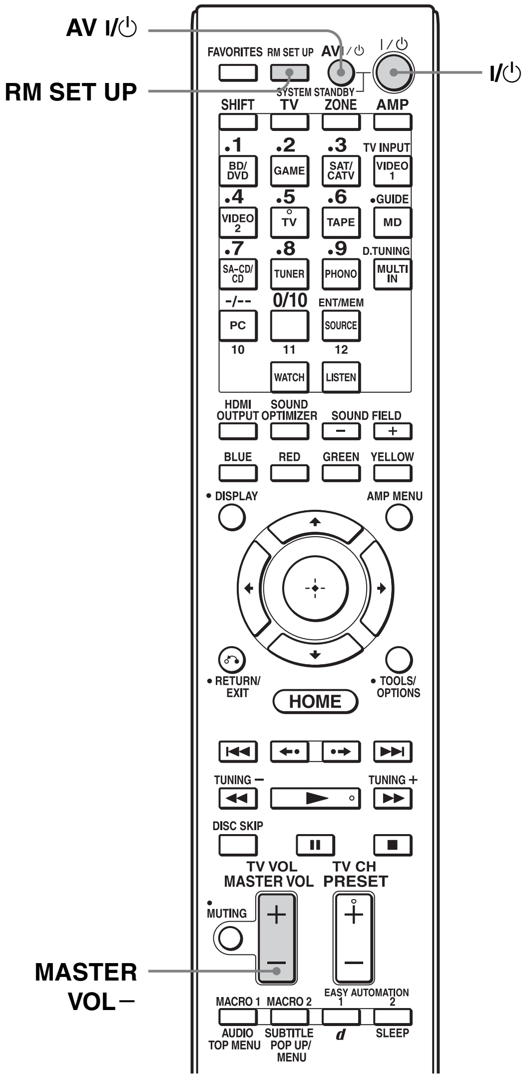
2 入力切り換え用ボタンを押して、設定を消去したい入力を選ぶ。
選んだ入力のボタンが点滅します。
（RM SET UPは点灯したままです。）

3 I/⏻を1秒以上押す。
選んだ入力のボタンが2回の点滅をくり返します。

4 学習させたボタンを押し、登録した設定を消去する。
RM SET UPが2回点滅して、消去が完了します。
消去に失敗したときは、RM SET UPが5回点滅します。
手順2からもう一度行ってください。

5 RM SET UPを押して、消去を終了する。

リモコンを初期設定状態にする



1 **MASTER VOL －を押したまま I/⏻ を押し、そのままさらに AV I/⏻ を押す。**
RM SET UPが3回点滅します。

2 **すべてのボタンを離す。**
リモコンのすべての設定（登録したデータなど）が消去されます。

使用上のご注意

設置場所について

電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。次のような場所には置かないでください。

- ぐらついた台の上や不安定な場所。
- じゅうたんや布団の上。
- 湿気の多い所、風通しの悪い所。
- ほこりの多い所。
- 密閉された所。
- 直射日光が当たる所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所。
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所。（テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので屋外アンテナの使用をおすすめします。）

使用中の本体の温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。
特に、大音量で鳴らし続けると、本体キャビネットの天板や側板、底板はかなり*熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因になります。
また、密閉した場所に置いて使用しないでください。温度上昇を防ぐため、風通しのよい所でお使いください。

＊天板は触っていられないほどに熱くなることがあります。

ステレオを聞くときのエチケット



ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。
窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布でふいてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）へお問い合わせください。

全般

症状	原因と対応のしかた
本機の電源が自動的に切れる	→「Auto Standby」が「On」に設定されている（96ページ）。 → スリープタイマー機能が働いている（74ページ）。 → PROTECTORが働いている（120ページ）。
本機の電源が自動的に入る	→「Control for HDMI」が「On」または「Pass Through」が「Off」に設定されている場合は、つないだ機器を操作すると本機の電源が入ることがあります。
映像も音も出ない、または乱れる	→ 本機をテレビやビデオデッキ、カセットデッキなどの機器の近くに置いている。 本機をテレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナのときに起こりやすいので、屋外アンテナの使用をおすすめします。
天板が熱い	→ アンプ特有の症状で、故障ではありません。スタンバイ状態時でも「Control for HDMI」、「Pass Through」、「Network Standby」のいずれかが「On」になっている場合、または2ndゾーン、3rdゾーンの電源が入っている場合は、天板が熱くなることがあります。これは内部回路が部分的に通電状態となっているためであり、異常ではありません。

映像

症状	原因と対応のしかた
映像の種類に関わらずテレビ画面に映像が出ない、または明瞭でない	→ 適切な入力を選ぶ（47ページ）。 → テレビの入力モードを確認する。 → テレビをオーディオ機器から離す。 → 映像入力の割り当てを正しく設定する（70ページ）。 → 入力信号を本機でアップコンバートしている場合、入力と同じ信号にする（17ページ）。 → ケーブルの接続を確認する。 → 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。
映像が音声より遅れる	→ HDMI端子につないだ機器や再生するソースによっては、映像が音声より遅れることがあります。その場合は、Audio Settingsの「A/V Sync」の設定を変更してください（87ページ）。
録画ができない	→ 各機器が正しくつながっているか確認する（25ページ）。 → 入力切り換え用ボタンで録画したい機器を選ぶ（47ページ）。 → 録画する映像信号に応じて録画機器の接続を確認する。アナログ入力信号（コンポジット映像）は、アナログ出力端子からのみ出力されます。 → HDMI IN端子から入力された映像信号は録画できません。 → 一部のソースにはコピー防止信号が含まれています。このような場合は、ソースからの録画ができないことがあります。 →「Auto Standby」を「Off」に設定する（96ページ）。コンポジット映像信号のみを録画中は、本機のオートスタンバイ機能が働き、録画が中断されることがあります。
特定の種類の映像が出ない、または乱れる	**COMPONENT VIDEO OUT端子** → テレビがCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力される信号の解像度に対応していない可能性があります。このような場合は、本機で適切な解像度を選んでください（88ページ）。 → 著作権保護情報が入っている映像信号の解像度を変換するとき、COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子には解像度の制限があります。COMPONENT VIDEO MONITOR OUT端子への出力は480p/576pの解像度までとなります。

つづく

症状	原因と対応のしかた
	HDMI OUT端子 ➔ HDMI信号の出力が「OFF」に設定されている。その場合、HDMI OUTPUTを押して「HDMI A」または「HDMI B」を選んでください（68ページ）。 ➔ HDMI OUT A端子とB端子につないでいるモニター間で対応している映像フォーマットが異なる場合、「HDMI A＋B」が働かないことがあります。その場合、HDMI OUTPUTを押して「HDMI A」または「HDMI B」を選んでください（68ページ）。 ➔ つないでいる再生機器によっては、「HDMI A＋B」が働かないことがあります。再生機器の設定によって映像が出ない場合は、再生機器の出力設定をオート（自動）に設定してください。 ➔ 解像度が1080pの映像やDeep Colorまたは3Dの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（High Speed HDMIケーブル）でつないでいるか確認してください。 ➔ 以下の場合は、「Video Direct」を「On」にしてご使用ください。 － HDMI端子につないだ機器の映像が乱れる。 － 映像信号が切り換わるときに、HDMI端子につないだ機器の映像や音声が途切れる。 － 3D映像が切り換わるときに頭切れが発生したり、3D映像の色が正しくなかったりする。 **3D映像** ➔ テレビや映像機器によっては、3D映像は表示されません。システムが対応している3D映像フォーマットを確認してください（123ページ）。 **VCR** ➔ 画質向上回路（TBCなど）を搭載していないビデオデッキを使用している場合は、映像が乱れることがあります。 **$\text{Adobe}_{\text{RGB}}$ or $\text{Adobe}_{\text{YCC601}}$** ➔ $\text{Adobe}_{\text{RGB}}$または $\text{Adobe}_{\text{YCC601}}$信号を受信する場合は、「Video Direct」を「On」に設定してください。
Watch/Listenメニューから「My Video」、「My Music」、「My Photo」、「Internet Video」、「Internet Music」、「Internet Photo」、「Internet Network」、「Sony Entertainment Network」を選択すると、何も表示されない。	➔ 本体のINPUT SELECTORで一度「BD/DVD」を選択し、GUIを使ってVideo Settingsメニューの「Playback Resolution」を「480p/576p」にしてから、再度コンテンツを選択してください。
パススルー機能が働かない	➔ 「HDMI B」を選んでいる。HDMI OUTを押して「HDMI A」または「HDMI A + B」を選んでください。

音声

症状	原因と対応のしかた
どの音源を選んでも音が出ない、ほとんど聞こえない	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 本機と選んだ機器の電源が入っているか確認する。 ➔ MASTER VOLUMEのレベルが–∞dBになっていないか確認する。目安として、–40dBくらいの音量に調節してみてください。 ➔ 本機前面のSPEAKERS（A/B/A+B/OFF）が「OFF」になっていないか確認する（43ページ）。 ➔ リモコンのMUTINGを押して、消音機能を解除する。 ➔ 入力切り換え用ボタンまたは本体のINPUT SELECTORで正しい入力が選ばれているか確認する。 ➔ ヘッドホンがつながれていないか確認する。 ➔ テレビのスピーカーから音声を出すときは、HDMI Settingsメニューの「Audio Out」を「TV+AMP」に設定する。「AMP」に設定すると、音声はテレビのスピーカーから出力されません。本機からマルチチャンネル音声を出力する場合は、「AMP」に設定してください。 ➔ 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。 ➔ iPhone/iPodの「EQ」を「Off」または「Flat」に設定する。
ハム音またはノイズがひどい	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ 接続コードがトランスやモーターから離れているか、テレビや蛍光灯からは少なくとも3 m離れているか確認する。 ➔ テレビを他のオーディオ機器から離して設置する。 ➔ ⏚ SIGNAL GNDが正しくつながっているか確認する（レコードプレーヤーをつないでいる場合のみ）。 ➔ プラグや端子が汚れている。アルコールで少し湿した布で拭き取る。
特定のスピーカーから音が出ない	**フロント** ➔ ヘッドホンをPHONES端子につなぎ、ヘッドホンから音が聞こえるか確認する。ヘッドホンの片方のチャンネルしか聞こえない場合は、選んだ機器と本機が正しくつながっているか確認してください。両方のチャンネルが聞こえる場合は、フロントスピーカーが正しくつながっているか確認してください。 ➔ モノラル機器をつないでいるときは、L/Rの片方の端子のみにつないでいないか確認する。この場合は、モノラルーステレオ変換ケーブル（別売）を使ってL/R両方の端子につないでください。ただし、選んだサウンドフィールド（Pro Logicなど）によっては、センタースピーカーからは音が出ません。 **センター／サラウンド／サラウンドバック** ➔ Speaker Settingsメニューの「Auto Calibration」（81ページ）または「Speaker Connection」（83ページ）でスピーカーの設定が適切か確認する。その後、Speaker Settingsメニューの「Test Tone」（84ページ）を使って各スピーカーから正しく音が出力されているか確認する。 ➔ HD-D.C.S.モードを選ぶ（55ページ）。 ➔ スピーカーのレベルを調節する（83ページ）。 ➔ センタースピーカーが「Small」または「Large」に正しく設定されているか確認する（84ページ）。 **サラウンドバック** ➔ ドルビーデジタルサラウンドEXの情報がないディスクがあります。 ➔ サラウンドバックスピーカーなしのスピーカーパターンを選んでいる場合、本機はサラウンドバックチャンネルをダウンミックスできないため、SUR BACK端子への入力信号は無効になります。 **アクティブサブウーファー** ➔ アクティブサブウーファーが正しく接続されているか確認する。 ➔ アクティブサブウーファーの電源が入っているか確認する。

つづく

症状	原因と対応のしかた
選んだ機器から音が出ない	→ 選んだ機器の音声入力端子に正しく接続されているか確認する。 → 接続コードが本機や選んだ機器に正しく接続されているか確認する。 → INPUT MODEを「AUTO」に設定する（69ページ）。 **HDMI入力** →「2ch Analog Direct」を使用していると音が出ません。他のサラウンドモードを使用してください（54ページ）。 → HDMI接続を確認する（25、27、29、32ページ）。 → HDMI Licensing LLCで認証されたHDMIロゴ付きのケーブルでつないでいるか確認してください。 → 再生機器によっては、機器側で設定が必要な場合があります。各接続機器の取扱説明書も参照してください。 → 解像度が1080pの映像やDeep Colorまたは3Dの映像を視聴するときは、HIGH SPEED対応HDMI端子用の接続ケーブル（High Speed HDMIケーブル）でつないでいるか確認してください。 → テレビ画面にGUIが表示されていると本機から音が出ないことがあります。HOMEを押してGUIを消してください。 → 再生機器から出力される音声のサンプリング周波数やチャンネル数、音声フォーマットが切り換わったときに、音声が途切れる場合があります。HDMIケーブルでつないだ機器からの映像が明瞭でなかったり、音声が出なかったりする場合は、機器の設定を確認してください。 → 接続機器が著作権保護技術（HDCP）に対応していないために、本機のHDMI出力端子からの映像や音声が乱れたり再生できない場合があります。このような場合は、接続機器の仕様をご確認ください。 → High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）を楽しむには、プレーヤーの映像解像度を720p/1080i以上に設定してください。 → DSD、マルチチャンネルリニアPCMを楽しむには、プレーヤーの映像解像度の設定が必要な場合があります。プレーヤーの取扱説明書を参照してください。 → テレビがシステムオーディオコントロール機能に対応していることを確認する。 → テレビにシステムオーディオコントロール機能がないときは、HDMI Settingsメニューの「Audio Out」を下記のように設定する。 － テレビと本機につないだスピーカーから音を聞くときは、「TV+AMP」に設定する。 － 本機につないだスピーカーからのみ音を聞くときは、「AMP」に設定する。本機にプロジェクターなどの映像機器をつないでいるとき、本機につないだスピーカーから音が出力されない場合があります。この場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してください。 → 本機につないだ機器の音声が聞こえない場合 － 本機にHDMI接続した機器を視聴するときは、本機の入力をHDMIに切り換える。 － テレビ放送を視聴するときは、テレビのチャンネルを切り換える。 － テレビにつないだ他の機器を視聴したい場合は、テレビを操作して、視聴したい機器または入力を選ぶ。テレビの操作について詳しくは、テレビの取扱説明書を参照してください。 → HDMI機器制御機能で、テレビのリモコンを使って接続機器を操作できない場合 － テレビや接続機器によっては、HDMI機器制御の設定が必要な場合があります。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。 － 本機の入力をHDMI接続している機器の入力に変えてください。 → 番組のジャンルに応じてサウンドフィールドが切り換わらない場合 － つないだテレビがオートジャンルセレクターに対応しているか確認する。 － いったん本機の電源を切ってから、もう一度電源を入れる。 **デジタル入力（COAXIAL、OPTICAL）** →「2ch Analog Direct」を使用していると音が出ません。他のサラウンドモードを使用してください（54ページ）。 → INPUT MODEの設定を確認する（69ページ）。 → 選んだ（デジタル）音声入力を、Input Settingsメニューの「Audio Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（70ページ）。 **アナログ2チャンネル入力** → 選んだ（アナログ）音声入力を、Input Settingsメニューの「Audio Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（70ページ）。

症状	原因と対応のしかた
	iPhone/iPod ➔ iPhone/iPodの再生時は本機のヘッドホン端子を使用できません。ヘッドホンをつながずにスピーカーでお聞きください。
左右の音のバランスが悪い、または逆転している	➔ スピーカーおよび各機器が正しく接続されているか確認する。 ➔ Speaker Settingsメニューの「Speaker Setup」で左右のバランスを調節する。 ➔ スピーカーのレベルを調整する。
ドルビーデジタルやDTSのマルチチャンネルの音声が再生されない	➔ 再生中のDVDなどが、ドルビーデジタルやDTS形式で録音されているか確認する。 ➔ DVDプレーヤーなどを本機のデジタル入力端子につないでいるときは、つないだ機器の音声の出力設定を確認する。 ➔ High Bitrate Audio（DTS-HD Master Audio、Dolby TrueHD）、DSD、およびマルチチャンネルリニアPCMは、HDMI接続でのみ楽しめます。
マルチチャンネル音声が聞こえない	➔「Control for HDMI」が「On」のとき、「Audio Out」の設定が自動的に変わる場合があります。この場合は「Audio Out」を「AMP」に設定してください。
サラウンド効果が得られない	➔ サウンドフィールドが働いているか確認する（MOVIE/HD-D.C.S.またはMUSICを押す）。 ➔「PLII（Music/Movie）」、「PLIIx（Music/Movie）」、「PLIIz Height」および「Neo:X（Music/Cinema/Game）」は、スピーカーパターンが2/0または2/0.1に設定されている場合は機能しません。
MULTI CHANNEL DECODINGランプが青色に点灯しない	➔ 再生機器をデジタル接続し、本機側でその入力を選んでいるか確認する。 ➔ 再生しているソフトなどの入力ソースがマルチチャンネルに対応しているか確認する。 ➔ 再生機器側の設定がマルチチャンネル音声に設定されているか確認する。 ➔ 選んだ（デジタル）音声入力を、Input Settingsメニューの「Audio Input Assign」を使って他の入力に割り当てていないか確認する（70ページ）。
録音ができない	➔ 各機器が正しくつながっているか確認する（34ページ）。 ➔ 入力切り換え用ボタンで録音したい機器を選ぶ（47ページ）。 ➔ HDMI IN端子およびMULTI CHANNEL INPUT 端子から入力された音声信号は録音できません。 ➔ 録音する音声信号に応じて録音機器の接続を確認する。アナログ入力信号は、アナログ出力端子からのみ出力されます。デジタル入力信号（COAXIALおよびOPTICAL）は、OPTICAL OUT 端子からのみ出力されます。 ➔ SCMS対応の録音機器をお使いの場合、録音できないことがあります。 ➔ 一部のソースにはコピー防止信号が含まれています。このような場合は、ソースからの録音ができないことがあります。
テストトーンがスピーカーから出力されない	➔ スピーカーコードが確実につながれていない。コードを軽く引っ張ってみて、抜けたりしないように確実につないでください。 ➔ スピーカーコードがショートしている恐れがあります。
画面に表示されているスピーカーと異なるスピーカーからテストトーンが出力される	➔ つないだスピーカーと設定したスピーカーパターンが間違っている。スピーカーの接続とスピーカーパターンをもう一度確認してください。
H.A.T.S. 機能が働かない	➔「Audio Out」が「TV+AMP」に設定されている。その場合は、「Audio Out」を「AMP」に設定してださい。 ➔ スピーカーパターンや設定によっては、H.A.T.S.機能が働かないことがあります。

つづく

PC（USB）

症状	原因と対応のしかた
音が出力されない、またはパソコン本体のスピーカーから音が出力される	➔ パソコンの再生デバイスが「AV AMPLIFIER」に設定されているか確認し、設定されていない場合はOSの設定を変更してください。 以下の手順は例です。パソコンをお使いの環境によっては、手順が異なることがあります。 **Windows XP の場合** 1 「スタートメニュー」→「コントロールパネル」を選び、コントロールパネルを開く。 2 「サウンド、音声、およびオーディオ デバイス」→「スピーカーの設定を変更する」を選ぶ。 3 「サウンドとオーディオ デバイスのプロパティ」ウィンドウの「オーディオ」タブを選ぶ。 4 「音の再生」の「既定のデバイス」プルダウンメニューから「AV AMPLIFIER」を選ぶ。 5 「OK」ボタンをクリックする。 音声の標準の出力先が「TA-DA5700ES」になります。 **Windows Vista/7の場合** 1 「スタートメニュー」→「コントロールパネル」を選び、コントロールパネルを開く。 2 「ハードウェアとサウンド」→「サウンド」を選ぶ。 3 「サウンド」ウィンドウの「再生」タブを選ぶ。 4 「AV AMPLIFIER」を選び、「規定値に設定」ボタンをクリックする。 5 「AV AMPLIFIER」に緑色のチェックマークが付いたことを確認する。 音声の標準の出力先が「TA-DA5700ES」になります。 **Mac OS Xの場合** 1 「アップルメニュー」→「システム環境設定」→「サウンド」を選び、「サウンド」パネルを開く。 2 「出力」タブを選ぶ。 3 「サウンドを出力する装置の選択」のリストにある「AV AMPLIFIER」を選ぶ。 音声の標準の出力先が「TA-DA5700ES」になります。

USBデバイス

症状	原因と対応のしかた
USBデバイスが認識されない	➔ 本機の電源を切り、USBデバイスを取りはずす。もう一度本機の電源を入れ、USBデバイスをつないでください。 ➔ 対応しているUSBデバイスをつなぐ（48ページ）。 ➔ USBデバイスが正しく働いていない。USBデバイスの取扱説明書を参照して、問題に対処してください。
USBデバイスのフォルダーの中身が表示されない	➔ フォルダー階層が4階層を超えている。本機では表示できるのは4階層目のフォルダーまでです（「ROOT」フォルダー含む）。ただし、4階層目にあるフォルダーは表示されません。

症状	原因と対応のしかた
音が出ない	➔ 本機の電源を切り、USBデバイスを取りはずす。もう一度本機の電源を入れ、USBデバイスをつないでください。 ➔ 対応しているUSBデバイスをつなぐ（48ページ）。 ➔ ►を押して再生を始める。 ➔「2ch Analog Direct」を使用していると音が出ません。他のサラウンドモードを使用してください（54ページ）。 ➔ 音楽データ自体にノイズが含まれている、または音が歪んでいる。 ➔ ファイルフォーマットによっては再生できないファイルがあります。詳しくは、「再生可能なファイル」（123ページ）をご覧ください。 ➔ FAT12/16/32、VFAT、NTFS以外のファイルシステムでフォーマットされたUSBデバイスには対応していません*。 ➔ パーティション分割したUSBデバイスをお使いの場合は、第1パーティション内の音声ファイルのみ再生できます。 ➔ 4階層のフォルダーまで再生できます（「ROOT」フォルダー含む）。 ➔ 各フォルダー内のファイル数が500を超えている（フォルダー含む）。 ➔ 暗号化またはパスワードで保護されたファイルなどは再生できません。 ➔ ウォークマン内の音楽ファイルを本機で再生する場合は、パソコンからウォークマンへ「クリック＆ドロップ」で曲を移動し、本機が対応しているフォーマット（MP3など）でウォークマンに保存してください。 ＊本機は FAT12/16/32、VFAT、NTFS に対応しています。ただし、USB デバイスにはこれらのファイルシステムに対応していないものもあります。詳しくは各 USB デバイスの取扱説明書を参照するか、メーカーにお問い合わせください。
USBデバイスが⭠（USB）ポートに接続できない	➔ USBデバイスを逆さまにつなごうとしている。USBデバイスを正しい方向でつないでください。
表示が間違っている	➔ USBデバイスに保存されているデータが破損している。 ➔ 本機が表示できる文字コードは以下のとおりです。 － 大文字（A～Z） － 小文字（a～z） － 数字（0～9） － 記号（' < > * + , ? . / @ [\ ] _ `） 他の文字は正しく表示されないことがあります。
再生が始まるまで時間がかかる	➔ 以下の場合は、読み出しに時間がかかることがあります。 － USBデバイスに多くのフォルダーやファイルが保存されている。 － 非常に複雑なファイル構成になっている。 － メモリー容量を超えている。 － 内部メモリーが断片化している。 このような場合は、次の目安にしたがってください。 － フォルダーごとの総ファイル数：500以下（フォルダー含む）

iPhone/iPod

症状	原因と対応のしかた
iPhone/iPodが充電できない	➔ 本機の電源が入っているか確認する。 ➔ iPhone/iPodが確実につながっているか確認する。
iPhone/iPodが操作できない	➔ iPhone/iPodを保護ケースに入れていないか確認する。 ➔ iPhone/iPodのコンテンツによっては、再生に時間がかかることがあります。 ➔ 本機の電源を切り、iPhone/iPodを取りはずす。もう一度本機の電源を入れ、iPhone/iPodをつないでください。 ➔ 本機が対応していないiPhone/iPodを使用している。対応機種については「対応iPhone/iPod」（52ページ）をご覧ください。
iPhoneの呼び出し音の音量が変更できない	➔ iPhoneを直接操作して呼び出し音の音量を調節してください。

ネットワーク

症状	原因と対応のしかた
ネットワークに接続できない	➔ ネットワークの接続（39ページ）とNetwork Settingsメニュー（92ページ）を確認する。
サーバーが見つからない	➔ Network Settingsメニューの「Connection Server Settings」でサーバーを検索する（92ページ）。 ➔ 下記を確認する。 – ルーターの電源が入っているか – 本機とルーターの間に別の機器がつながっている場合、その機器の電源が入っているか – すべてのケーブルが正しく確実につながっているか – ルーターの設定（DHCPまたは固定IPアドレス）に合わせて設定されているか ➔ パソコンを使っているとき、下記を確認する。 – パソコンのオペレーティングシステムに組み込まれているファイアーウォールの設定 – セキュリティーソフトのファイアーウォールの設定 お使いのセキュリティーソフトのファイアーウォール設定については、セキュリティーソフトのヘルプを参照してください。 ➔ 本機をサーバーに登録する。詳しくは、サーバーの取扱説明書を参照してください。 ➔ しばらく待ってから、もう一度サーバーへの接続を試す。
サーバー上にあるはずのコンテンツが見つからない、再生できない	➔「My Music」画面、「My Photo」画面では、DLNAガイドラインに準拠してサーバーが提示するコンテンツのうち、本機が再生できる可能性があるコンテンツのみを表示しています。 ➔ DLNAガイドライン規定のコンテンツであっても、再生や表示ができないことがあります。
「ES Remote」や DLNAコントローラーから本機にアクセスできない	➔ 使用したいコントローラーが「Renderer Access Control」で「Allow」に設定されているか確認する（92ページ）。 ➔「Renderer Options」の 「Auto Access Permission」が「On」に設定されている場合は、検出されたコントローラーが自動的に使用可能になります（92ページ）。 ➔ コントローラーが「Renderer Options」に一覧表示され、「Allow」に設定されていますか？ 設定されていない場合は、「Auto Access Permission」のチェックボックスをチェックしてホームメニューに戻り、コントローラーで本機を一度操作したあと、必要なら「Auto Access Permission」のチェックをはずしてください。 ➔ ネットワークコントローラーとしてパソコンのソフトウェアをお使いの場合、アンチウイルスソフトウェアやファイアウォールソフトウェアにブロックされていませんか？ 本機とソフトウェア間のUPnPの通信を許可してください。詳しくは、アンチウイルスソフトウェアやファイアウォールソフトウェア、またはネットワークコントローラーソフトウエアの取扱説明書を参照してください。

インターネットビデオ

症状	原因と対応のしかた
画質／音質がよくない、ある番組の特に動きの速いシーンや暗いシーンで細部の画質が低下する	➔ インターネットコンテンツプロバイダーによっては、画質／音質がよくないことがあります。 ➔ 接続速度によって画質／音質は変わります。標準画質（SD）映像の場合は2.5 Mbps以上、ハイビジョン画質（HD）映像の場合は10 Mbps以上の接続速度での視聴をおすすめします。 ➔ 音声を含まない映像もあります。
画像が小さい	➔ ⬆を押してズームする。
コンテンツが再生できない	➔ 一部のインターネットコンテンツは、再生前にパソコンからの登録が必要な場合があります。

“ブラビアリンク”機能（HDMI機器制御）

症状	原因と対応のしかた
HDMI機器制御機能が働かない	➔ HDMI接続を確認する（23、25、27、29ページ）。 ➔ HDMI Settingsメニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。 ➔ 接続機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認する。 ➔ 接続機器のHDMI機器制御設定を確認する。お使いの機器に付属の取扱説明書を参照してください。 ➔ HDMI接続を変更したり、電源コードの抜き差しをしたり、電源に不具合があるときは、「“ブラビアリンク”機能を使う」（65ページ）の手順をくり返す。 ➔「HDMI B」または「OFF」が選ばれているときは、HDMI機器制御機能が正しく働きません。 ➔「HDMI B」または「OFF」を選んだあとに「HDMI A」または「HDMI A＋B」を選ぶと、しばらくの間HDMI機器制御機能が正しく働かないことがあります。これはHDMI OUT A端子につないだ機器側で本機がHDMI機器制御機能を備えていることを確認しているためです。しばらく待ってもHDMI機器制御機能が正しく働かない場合は、「“ブラビアリンク”機能を使う」（65ページ）の手順をくり返してください。 ➔ “ブラビアリンク”機能で制御できる機器の種類と数は、HDMI CEC規格で以下のとおり制限されています。 － 録画機器（ブルーレイディスクレコーダー、DVDレコーダーなど）：3台まで － 再生機器（ブルーレイディスクプレーヤー、DVDプレーヤーなど）：3台まで － チューナー関連機器：4台まで － AVレシーバー／ヘッドホン（オーディオシステム）：1台まで
ワンタッチプレイをしたときに、意図した入力に切り換わらない	➔ HDMI入力の割り当てを確認する（70ページ）。複数の入力に同じHDMI入力端子を割り当てているとき、そのHDMI入力につないだ機器をワンタッチプレイをすると、入力切り換えの順番が早い入力が優先して選ばれます。
オーディオリターンチャンネル（ARC）が働かない	➔ HDMI Settingsメニューで「Control for HDMI」が「On」に設定されていることを確認する。 ➔「TV」のINPUT MODEが「AUTO」に設定されているか確認する（69ページ）。

リモコン

症状	原因と対応のしかた
リモコンで操作できない	➔ 本体のリモコン受光部に向けて操作する（8ページ）。 ➔ リモコンと本体の間にある障害物を取り除く。 ➔ リモコンの乾電池を新しいものに交換する。 ➔ 本体とリモコンのコマンドモードが一致しているか確認する（75ページ）。本体とリモコンのコマンドモードが違うと操作できません。 ➔ リモコンで正しい入力を選んだか確認する。 ➔ 他社製の機器を操作できるようにリモコンを設定したときは、その機器のメーカーや年式によっては正しく操作できない場合があります。
RM SET UP が点滅してマクロ操作（106ページ）を設定できない、またはリモコンに新しいリモコンコードを学習させることができない（108ページ）	➔ RM SET UP が5 回点滅する場合は、リモコンの電池を新しいものと交換する。

上記以外の症状で、しばらく待っても症状が改善しない場合は、以下の操作を行ってください。

- リモコンのI/⏻を押して、本機の電源を切ってから、もう一度電源を入れる。
- 本体のI/⏻をボタンの上の緑色のランプが点滅するまで押し続けて、本機を再起動する。

その他

つづく

エラーメッセージ

表示によって、本機の状態を確認できます。以下をご覧になり、表示に合った対応をしてください。2、3度くり返しても正常に戻らないときは、ソニーサービス窓口にご相談ください。

メッセージ	原因と対応のしかた
PROTECTOR	天板の上がふさがれています。2、3秒後に本機の電源が自動的に切れます。天板をふさいでいるものを取り除き、もう一度電源を入れてください。
SPEAKER SHORTED	スピーカー出力に異常な電流が流れています。2、3秒後に本機の電源が自動的に切れます。ショートが原因で本機の保護回路が働いている場合は、本機の電源を切ってください。スピーカーの接続を確認し、もう一度電源を入れてください。
FAN STOPPED	天板の通気孔がふさがれていないか確認してください。内部の温度が上昇しないよう充分に換気されている場所に本機を設置してください。
「ネットワーク上に新しいソフトウェアバージョンが見つかりました。「ネットワークアップデート」からアップデートを行ってください。」とテレビ画面に表示される。	本機を新しいバージョンのソフトウェアにアップデートする場には、「ネットワークアップデート（Network Update）」（97ページ）をご覧ください。
この端子では出力できない映像です。	• メインゾーンで本機をお使いの場合は、HDMIケーブルでテレビを接続してください。 • 映像ケーブルをお使いの場合は、「Playback Resolution」（89ページ）を「480i/576i」に設定してください。 • コンポーネント映像ケーブルをお使いの場合は、「Playback Resolution」（89ページ）をお使いのテレビに適したパラメーターに設定してください。

Auto Calibration機能の測定後に表示されるメッセージの一覧

表示	原因と対策
Code 31	SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）がOFFになっています。SPEAKERS（A/B/A+B/OFF）を音が出る状態にして、再測定してください。
Code 32	どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクのプラグが本機のAUTO CAL MIC端子の奥まで挿入されていることを確認して、再測定してください。
Code 33	• フロントスピーカーがつながっていない、またはフロントスピーカーが1本しかつながっていません。 • 測定用マイクがつながっていません。測定用マイクのプラグが本機のAUTO CAL MIC端子の奥まで挿入されていることを確認して、再測定してください。 • 左か右どちらかのサラウンドスピーカーがつながっていません。 • サラウンドスピーカーがつながっていないのに、サラウンドバックスピーカーがつながっています。サラウンドスピーカーをSURROUND SPEAKERS端子につないでください。 • サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK (ZONE 2) R端子にのみつながっています。 サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、SURROUND BACK (ZONE 2) L端子につないでください。 • フロントハイスピーカーが1本だけつながっています。FRONT B/FRONT HIGH端子それぞれにフロントスピーカーを1本ずつつないでください。 • サラウンドスピーカーがつながっていないのにフロントハイスピーカーがつながっています。SURROUND端子にサラウンドスピーカーをつないでください。
Code 34	スピーカーが正しい位置に設置されていません。 マイク、スピーカーの左右が逆に設置されていることが考えられます。 「準備1：スピーカーを設置する」（19ページ）を参照して、スピーカーの位置を確認してください。
Warning 40	測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。 再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができるとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

表示	原因と対策
Warning 41 Warning 42	測定用マイクからの入力が過大です。 ● スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。お互いの位置を離して設置し、再測定してください。 ● 本機をプリアンプとしてお使いの場合、つないでいるパワーアンプによってはこのメッセージが表示されることがありますが、そのままお使いいただいて問題ありません。
Warning 43	アクティブサブウーファーの距離・位相が測定できませんでした。 ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。
Warning 44	測定は終了しましたが、スピーカーの位置関係がおかしい可能性があります。 「準備１：スピーカーを設置する」（19ページ）を参照して、スピーカーの位置を確認してください。
NO WARNING	WARNING情報はありません。
-----	スピーカーがつながれていません。

本機を再起動する

本機の不具合で本機またはリモコンのボタンが働かなくなった場合は、I/⏻を10秒押し続けて本機を再起動してください。
I/⏻の上のランプが緑色で点滅し、再起動を開始します。

初期設定状態にする

参照ページ

対象	参照ページ
本機	42ページ
多機能リモコン	109ページ

簡単リモコンをお買い上げ時の設定に戻すには

リモコンから電池を抜いて、数分間放置してください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

この説明書をもう1度ご覧になってお調べください。

それでも具合の悪いときはサービスへ

お買い上げ店、または添付の「ソニーご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。

部品の交換について

この製品では、修理のために部品を交換する際に、旧部品を回収させていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名：TA-DA5700ES
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：
- お買い上げ店：

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオモード：
（8 Ω、JEITA）
160 W ＋ 160 W
（4 Ω、JEITA）
160 W ＋ 160 W
サラウンドモード：
（8 Ω、JEITA）
フロント部：160 W ＋ 160 W
センター部：160 W
サラウンド部：160 W ＋ 160 W
サラウンドバック部：160 W ＋ 160 W
（4 Ω、JEITA）
フロント部：160 W ＋ 160 W
センター部：160 W
サラウンド部：160 W ＋ 160 W
サラウンドバック部：160 W ＋ 160 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、サラウンド、センター、サラウンドバック、フロントハイ部：
4 Ωまたはそれ以上

高調波ひずみ率

0.09 %以下
20 Hz～20 kHz
（8 Ω負荷）
120 W＋120 W

周波数特性（「2ch Analog Direct」使用時）

10 Hz～100 kHz ±3 dB（8 Ω時）

入力（アナログ）

MULTI CHANNEL INPUT、SA-CD/CD、BD/DVD、TV、SAT/CATV、TAPE、MD、VIDEO 1、2、TUNER、GAME：
入力感度：150 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：96 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）
PHONO：
入力感度：2.5 mV
入力インピーダンス：50 kΩ
S/N比：86 dB
（Input short、20 kHz LPF、Aネットワーク）

入力（デジタル）

IN 1 (BD/DVD)、IN 2 (VIDEO 1)、IN 3 (SA-CD/CD)（Coaxial）：
入力インピーダンス：75 Ω
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

IN 1 (GAME)、IN 2 (SAT/CATV)、IN 3 (TV)、IN 4 (MD)（OPTICAL）：
S/N比：96 dB
（20 kHz LPF、Aネットワーク）

出力 TAPE（REC OUT）、VIDEO 1（AUDIO OUT）、ZONE 2、ZONE 3（AUDIO OUT）：
出力電圧：150 mV
出力インピーダンス：1 kΩ

FRONT L/R、CENTER、SURROUND L/R、SURROUND BACK L/R、FRONT HIGH L/R、SUBWOOFER：
出力電圧：2 V
出力インピーダンス：1 kΩ

ビデオ部

入力／出力

VIDEO：1 Vp-p 75Ω

COMPONENT VIDEO：ルミナンス（Y）
入力感度／出力電圧：1 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω

P_B、P_R
入力感度／出力電圧：0.7 Vp-p
入力／出力インピーダンス：75 Ω

HDMI部

入力／出力（HDMI Repeater block）

640×480p @ 59.94/60 Hz
720×480p @ 59.94/60 Hz
1280×720p @ 59.94/60 Hz
1920×1080i @ 59.94/60 Hz
1920×1080p @ 59.94/60 Hz
720×576p @ 50 Hz
1280×720p @ 50 Hz
1920×1080i @ 50 Hz
1920×1080p @ 50 Hz
1280×720p @ 29.97/30 Hz
1920×1080p @ 29.97/30 Hz
1280×720p @ 23.98/24 Hz
1920×1080p @ 23.98/24 Hz

HDMI部（3D）

入力／出力（HDMI Repeater block）

1280×720p @ 59.94/60 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1920×1080i @ 59.94/60 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1920×1080p @ 59.94/60 Hz
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1280×720p @ 50 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1920×1080i @ 50 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1920×1080p @ 50 Hz
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1920×1080p @ 23.98/24 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1920×1080p @ 29.97/30 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1280×720p @ 23.98/24 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

1280×720p @ 29.97/30 Hz
Frame Packing
Side-by-Side (Half)
Over-Under (Top-and-Bottom)

再生可能なファイル

コンテンツの種類	ファイルフォーマット	拡張子
映像[7]	MPEG-1 Video/PS[1) 2)] MPEG-2 Video/PS、TS[1) 3)]	「.mpg」、「.mpeg」、「.m2ts」、「.mts」
	MPEG-4 AVC[1) 2)]	「.mkv」、「.mp4」、「.m4v」、「.m2ts」、「.mts」
	WMV9[1) 2)]	「.wmv」、「.asf」
	AVCHD[2)]	[4)]
	Xvid	「.avi」

コンテンツの種類	ファイルフォーマット	拡張子
音楽	MP3 (MPEG-1 Audio Layer III)[6]	「.mp3」
	AAC[1,2,5,6]	「.m4a」
	WMA9 Standard[1,2,5,6]	「.wma」
	LPCM[6]	「.wav」
	FLAC[6]	「.flac」
写真	JPEG	「.jpg」、「.jpeg」、「.mpo」
	PNG	「.png」
	GIF	「.gif」

1) 本機は DRM などの暗号化されたファイルは再生できません。
2) DLNA サーバー上にある場合は再生できません。
3) DLNA サーバー上にある場合は、標準画質の映像のみ再生できます。
4) 本機はビデオカメラなどで撮影した AVCHD フォーマットのファイルを再生します。AVCHD フォーマットのディスクは、正しくしくファイナライズされていない場合は再生されません。
5) 本機はロスレスなどの暗号化されたファイルは再生できません。
6) 対応サンプリング周波数／ビット深度：最大 192 kHz/24 bit
7) DLNA サーバー上にある映像コンテンツは再生できません。

電源、その他

電源　AC100 V、50/60 Hz

消費電力　300 W

消費電力（スタンバイ状態時）
0.5 W（「Control for HDMI」（91ページ）、「Pass Through」（91ページ）、「Network Standby」（93ページ）、「RS232C Control」（96ページ）を「Off」に設定、および2nd/3rdゾーンの電源切時）

最大外形寸法
430 mm × 187.5 mm × 420 mm
（幅／高さ／奥行き、最大突起部を含む）

質量　約 18.2 kg

付属品　キャリブレーションマイクロフォン：ECM-AC1（1）
電源コード（1）
リモコン：RM-AAL039（1）
リモコン：RM-AAU124（1）
単3形マンガン乾電池（4）
スピーカーコード取付補助具（1）
取扱説明書（本書）（1）
接続・設定ガイド（1）
ソニーサービス窓口・ご相談窓口のご案内（1）
Software License Information（1）
保証書（1）
安全のために（1）

仕様および外観は、改良のため、予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

本機は「JIS C 61000-3-2 適合品」です。

省エネルギー

- オートオフ機能搭載

ご注意

- 一部のファイルは、フォーマット、エンコード、記録状態、DLNA サーバーの状態によって再生されないことがあります。
- パソコンで編集された一部のファイルは再生されないことがあります。
- 本機は USB デバイスに記録されたフォルダーまたはファイルを以下のとおり認識できます。
  - 3 階層目のフォルダーまで
  - 1 階層内に 500 ファイルまで
- 本機は DLNA サーバーに保存されたフォルダーまたはファイルを以下のとおり認識できます。
  - 18 階層目のフォルダーまで
  - 1 階層内に 999 ファイルまで
- 一部の USB デバイスは本機では動作しないことがあります。
- 本機は、マスストレージクラス（MSC）（フォラッシュメモリー、HDD など）、スティルイメージキャプチャデバイス（SICD）クラスデバイス、101 キーボードを認識できます（本体前面の USB 端子のみ）。
- データが破損するのを避けるために、USB デバイスをつないだり取りはずすときは、本機の電源を切ってください。
- DLNA ガイドラインで規定されているフォーマットについては、DLNA ガイドラインで定められたフォーマット情報をサーバーが正しく付加して公開している必要があります。

索引

あ行

か行

さ行

た行

な行

は行

ま行

ら行

わ行

A

つづく

S

T

U

V

W

Z

数字

記号

その他